

できない。そのために毎年對外貿易入超額は漸次に増加し、自國産業發達の方法なく、産業は漸次に衰微しつゝある。それ故に、社會民主派は、平民政權樹立後は、一方、金融國有政策によつて、資本を集中して、外人經營産業及び自國の大規模個人企業を回收し、他方、集中せる資本をもつて大規模産業の建設をなさんとするものであるが、産業の發達の遅れてゐる半植民地支那においては、たゞ集中せる資本をもつて統一的に計畫してのみ、始めて大規模の國家産業の基礎を建設するを得、また資本が個人に蓄積されるといふ病弊を漸次に廢除するを得、かくて産業社會化の準備となすことができるのである。

産業の國營以外に、彼等はなほ國家權力並に人民の自覺力によつて、産業の公營及び組合の組織を主張してゐる。元來彼等は、政權上に於ては、地方分權及び地方自治制度を主張してゐるが、したがつて自治團體——例へば市政府縣政府等のごとき——は、産業の公營をなし、一切の大産業事務が國家に集中され、管理の官僚化に流れる病弊の擴大を免るべきであるとするのである。それによれば勞働者及び消費者の産業管理は、産業管理の官僚化を救済し豫防するに最も好い方法であるから採用されねばならぬとされてゐる。それと同時に彼等は産業の高度に發展せる資本主義國家においては、勞働者が生産手段から脱離してゐるといふことは、實に社會闘争の動因であり、支那においては手工業及び自作農がまだ相對的に保留され、生産者が生産手段を脱離することによつて發生する弊害は、まだ歐米のごとく甚しくはない。かくて大産業の國營公營にあつても、なほ産業の全部を包括することはできなく、小規模の個人企業はその存在を許し、國有及び公有産業の生産進行を援助せしめねばならぬが、そのために生産者が生産手段を脱離するといふ事實は、依然として相對的に存在する、と見るのである。かくて彼等は、國營及び公營産業の發展に努力する以外に、組合組織を普及せしめねばならぬことを主張し、各種の産業組合に對しては、一方國家はその力に

應じて補助獎勵すべく、他方生産者及び消費者においては、自動的に組織をなすべしとなすのである。かくて彼等の主張によれば、生産者が生産手段から脱離することによつて生ずる弊害を防止救済し得ると同時に、生産者に産業を管理し産業を經營する技能及び共同生活の習慣を養成し、將來における産業社會化の階梯となすことができるといふのである。

(三) 『耕す者はその田を有す』及び一般的農業政策

『農業及び農民問題は、支那革命の當面する最も面倒な問題であると同時に、或る程度において、同國現在の動亂の中心問題である』——(ブハーリン)

支那の農業及び農民問題の重要性は、この一言がよく盡してゐる。しかして支那社會民主派の首領鄧演達氏も支那の農民問題解決については、最も熱心なる革命家の一人であり、嘗て武漢政府時代には、國民黨中央農民部長の要職にあり、土地問題委員會を組織して、支那の農民及び農業問題の調査討論に狂奔せる人物であるが、この派においても、農業問題は殊に重視し、その見解を次のごとく披瀝してゐる。

支那において、社會主義への基礎を建設するためには、土地國有の目的を達成しなければならぬ。しかし當面の段階において、若しも直ちに普遍的に土地國有を實行するときは、農民の反感を引起し、革命の進行を妨礙し易いのみではなく、生産技術の發達の遅れてゐるがために、必然的に管理經營ともに困難を發生し、その結果農民は安心して土地を改良することができず、生産力は低下し、甚しきは土地の荒廢を來すであらう。かゝることは、農業生産を向上せしめる方法でないのみではなく農民の苦痛を激化し、農民離村の傾向をしてヨーロッパ資本主義國家内に發生したよりも激烈ならしめるであらうと。かくて彼等は、原則上は、土地國有を主張するのであるが、過渡的方法とし

て、依然として孫文の唱へた「耕す者はその田を有す」といふ政策を採用するのである。

彼等によれば、農民離村の傾向は、普遍的にいへば、資本の集中と蓄積とのためにして、農民は國有の耕地を保有することができず、かくて農村を離れて他に活路を求めざるを得ないのである。それと同時にまた、大資本の下に、都市工業が発達し、多数の労働者を需要するが故に、たゞ都市に集中してのみ、活路を求め得るのである。たゞ農業社会主義のユートピアを夢想してゐる人々のみが、農民の離村は百弊あつて一利なきことを承認し得るのである。それと同様に、たゞ公式主義化に中毒せる人々のみが、農民の離村は好い現象であると絶対に承認し、農民の利益を犠牲にして工業の発展を促進すべしと主張し得るのである。かく彼等は、農業社会主義及び公式主義者を批判しつゝ、その主張の主要なるものをあげていふ、一方、大産業、重要産業及び獨占産業の國營を實行して、産業資本家の自由搾取を免るゝともに、他方「耕す者はその田を有す」の政策をもつて、土地國有への過渡的方法となし、土地の收奪と搾取を免れることが、たゞそれのみが、合理的なる方法であると。

彼等は、支那現下の農業破産についていふ、支那の農業は、今や完全なる破産状態に陥らうとしてゐる。大多數の農民は、身體を賣つて兵卒となるか、奴隸（外國出稼の契約労働者たる「猪仔」のごとき）となるか、それではなければ土匪、流寇となるか、それしか活路を有たない。それでなければ、手を束ねて死を待つ外はない。しかも農業経済は、支那においては、國民經濟の骨幹であつて、全國人民の存亡に係るのである。かくて彼等は、支那農業破産の主要なる原因を次のごとく叙述してゐる。

(一) 經濟的原因 經濟的原因を構成してゐるものは、生産技術の幼稚、耕地の過小分割、人口分配の不平均、地主高利貸及び商業資本の凶暴なる搾取、家内手工業の破産、國際農業の競争、農村資本の缺乏である。

(二) 政治的原因 その主要なるものは、政治的搾取及び掠奪（苛税、地租の前徴、阿片税、不換紙幣、惡貨の流通、軍費の強制徴收、家畜及び現物の徴發等のごとき）國家農業設備の荒廢（水利、模範農場、穀倉のごとき）運輸交通機關の破壊、國家對外貿易政策及び財政政策の反動（互惠政策及び徵稅請負、厘金、公債等のごとき）である。

彼等によれば、上述した各種の經濟的及び政治的原因は、表面上は夫々獨立してゐるやうであるが、その實は相互に關聯してをり、循環的に互に因果をなしてゐるのである。生産技術が幼稚なるが故に、各階層の農民の平均生活水準が非常に低下する。兇暴なる地主が豊裕なる生活を送らうとすれば、たゞ統治的威力を利用して、苛重な小作料と高利貸で農民を搾取せざるを得ない。都市工業が発展することができないために、都市及び農村に蓄積された資本はたゞ土地購入に投下されるより外なく、そのために自作農は日々に益々減少する。同時に農村過剰人口は都市に吸収される方法がないために、その大部分は農村に密集し、そのために小作農は日々に益々増加し、農村の耕地は日々に分割されざるを得ない。耕地の過小分割の結果、現在の進歩せる生産技術を利用することができず、そのために生産能率が非常に低下する。各地方の人口の分配が不公平であるがために、東北西北の諸省においては、土地あるも耕作者がいないのに、東南諸省においては、農民は一戸平均僅に數畝（一畝は日本の約二百坪）を得るにすぎず、實際生活ができないといふやうな現象を呈するのである。そのために、農民は借金によつて、辛うじて生活し、一生涯高利貸の搾取を受けることになる。そのために、自作農の土地は彼等に奪ひ去られて自作農は小作農に變じ、小作農は農業労働者に變ずる、小作農は地主に制肘されるから、全世界にその比類を見ない高度の小作料を納めて耕作すべき土地を求めざるを得ず、かくて彼等の半死半生の生活状態は、實に農奴時代のそれに比して、より一層悲惨なものであ

る。農業労働者は非人間的な労役の拘束を課せられて、二本脚の牛馬となつてゐる。更に幾多の過剰人口はかゝる悲惨な小作農、農業労働者とならうとしてさへ、それがなれないから、流れて兵匪、流寇たらざるを得ないのである。鎖國時代には、家内手工業はなほ盛に行はれてをり、大部分の日用品は農村及び附近の市鎮によつて自給されてゐたが、開國以降は、帝國主義者が廉價な商品をもつて農村に侵入し、そのために家内手工業は崩壊し、農村における人口過剰の現象は日々に激成され、しかも商業資本の搾取は、日々に益々深化されてきた。國際農業、殊に南北アメリカ、及びイギリス、フランス、オランダ、日本の植民地（印度、安南、爪哇、臺灣等のごとき）は、その高度に發達せる生産技術及び貿易政策を用ひ、または特殊の有利な條件をもつて、比較的に低廉なる商品を支那に輸入するやうになつたが、支那の農産物はこれと競争すべき方法なく——殊に運賃が高く納税が苛重なために——そのために、長江沿岸沿海地方等對外交通の便利なところにおいては、外國農産物が市場を壟斷するといふ趨勢になつた。かくてそのために、農民の収入は益々減少し、農業の荒廢は僥倖的にさへ免れる方法がなくなつた。農村資本の缺乏は、一方生産技術が幼稚なるために、餘剰生産を蓄積すべき方法がないのと、他方更に、政治的搾取が農民の膏血さへも搾り、及び最近においては商業資本が都市に集中し、公債、特稅徵稅請負、商取引獨占の方法により、間接に農民を搾取し、農民の生産物を赤裸々に無償で、官僚軍閥買辦等に掠奪徵發せしめるとによるもので、今更農村資本問題でもない、そのために農業生産は完全に停止され、或は自殺的方法によつて地力を消耗せしめ、生産能率を大々的に低下せしめ、かくて土地の改良は完全に絶望となつたのである。

右に述べたやうな經濟現象は、表面上は生産過程における結果であるが、實際上は反動的な政治權力によつて促進されたものである。政治的搾取及び掠奪は、當然大多數の農民を壓迫して、破産流離に陥れる、國家的農業施設が荒廢すれば、當然生産技術の發達をより一層遅からしめ、耕地改良の方法をなからしめる。運輸交通機關の破壊は、當然交換過程を閉塞せしめ、農民をして廉價に農産物を賣却し、高價に工業品を購入せざるを得ざらしめ、生活程度が一層低下することになる。國家の反動的貿易政策は、たゞ外國農産物をしてより一層容易に自國農業を壓倒せしめるにすぎない。反動的財政政策は、たゞ一切の租税をすべて農民の肩の上に轉嫁せしめるにすぎない。がしかし、かゝる政治的因素はすべて、農村を加速度に破産せしめるのである。農民の破産によつて、統治者の反動をより一層強化せしめ、統治者はより苛酷なる收奪を行ひ、農業經濟及び全國々民經濟の滅亡を促進するのである。かく政治的原因と經濟的原因とが相互に循環し、遂に數十年來支那に内亂が絶えず、支那民族の物質的な文明と文化とを壊滅に歸せしめるやうになつたのである。かゝる現象を消滅せしめる方法がないならば、支那の人民は必然に死に場所さへもなく、まして社會主義的建設に對する希望は、少しもなくなるのである。

かくて彼等の見解によれば、右に述べたごとき現象を消滅せしめ、農民に解放を得せしめ、全國々民經濟を前方へと發展せしめやうとするには、次のごとき農業政策を採らなければならぬが、殊にその政策の中においても「耕す者はその田を有す」といふ方法が實に農業政策實行の前提であるといふのである。何となれば、すべての政治的及び經濟的搾取が農民に加へられる結果として、土地はより一層集中し、大地主の小作農及び農業労働者に加へる搾取はより一層激化し、農民離村の現象はより一層普遍化するからである。換言すれば、すべてが土地問題に集中歸着されるからである。現在においては全國の土地の約五〇%が小作農によつて耕作され、全農民の約五〇%が小作農であり、小作料は生産物の平均五〇%に達してゐる。現在に見るかゝる重大なる農村の危機に直面して、若しも先づ第一に農村における搾取を停止せしめ、農民を歸村せしめ、農業生産過程を恢復する手段を採らないならば、その他の一切

の農業政策、否な全國的政治施設さへもすべてこれに着手すべくもない。しかして先づ土地問題を解決し「耕す者にその田を有せしめる」ことが、實に農村における寄生蟲を消滅せしめ、農民を歸村せしめ、農業生産過程を恢復せしめる唯だ一つの手段である。またたゞかくしてのみ、革命勢力は、始めて大多數の農民の援助と擁護を受け、労働者の失業現象も消滅し、労働者の生活程度も向上し得るのである。かくて、彼等は「耕す者はその田を有す」との目的を實現する具體的方案及び順序として、次のごとく規定してゐるのである。

- 1、直ちに「耕す者はその田を有す」との法令を公布し、耕作せざるものに耕地を所有せしめない。
- 2、直ちに小作料免除を公布し、耕作中の小作農及び農業労働者には暫く原小作地使用権及び收益権を保留せしめ詳細なる解決を待たしめる。但し地主にして歸村して實際耕作に従事し得る場合には、地主小作農双方とも、暫く土地使用権及び收益権を共有せしめ、その形式は契約をもつてこれを定める。
- 3、國民會議において土地法を規定し、並に各地方の状況を斟酌して、夫々農民の占有耕作すべき耕地の最高額及び最低額及び國家の土地收用價格法を規定する。
- 4、個人に占有を許可したる耕地最高額外の土地は、國家において全國々有土地を擔保とし、五十年間の長期公債を發行し、國民會議において規定せられたる土地價格原則及び各地方政府の決定せる土地價格に照して、れを買収して國有となす。最低額以下の土地は、強制的に相互に合併せしめ、または組合に加入せしめて、これを經營せしめる。
- 5、國家以外の公共團體の所有地も、私有地國有法に照して國家これを買収して國有とする。

- 6、一切の軍閥貪官汚吏土豪劣紳等及びその他の反革命團體の全財産はこれを沒收して國有とする。
- 7、買収して國有とせる一切の土地は土地管理機關において、土地分配原則及び各地方の標準に照し、責任をもつてこれを耕作する農民に分配する。舊來の小作農、無地の農業労働者及び除隊せる革命軍人は、均等の機會において土地を受領すべきものとする。但したゞ使用権及び收益権に限る。
- 8、土地を受領せるも耕作せず、または懶惰となり耕作に努力せざる農民は、その土地使用権及び收益権を收奪さるべきものとする。私有地を耕作する農民にして、若し以上の條件を犯せる場合には、またその占有権を收奪する。
- 9、許可なくして土地を賣買することを得ず、已むを得ざる場合には、土地占有権及び使用権の移轉は、土地法に照し土地管理機關の許可を得てこれを行ふべきものとする。

吾々は、以上によつて、彼等の土地政策を見たが、更に彼等の農業政策一般を検するに次のごとくである。

- 1、寄生的に搾取を事とする大小地主を消滅し、耕作に従事せざるものをして土地を保有せしめず、しかして耕作に従事せんとする人民には隨時に耕作すべき土地を取得せしめる。すなはち「耕す者はその田を有す」を實行し、農民をして安心して土地を改良せしめ並にその生産力を向上せしめる。
- 2、地租を改正し、土地を丈量し、各地の收益狀況及び農民の收益狀況に照して、税制を定める。
- 3、積極的に科學的方法を利用して、水利及び一切の農業改良施設を振興し、内地の交通を發展せしめ、農業教育及び研究を普及し、農業調査を行ひ、模範農場を普及し、可及的に農村をして農業實驗及び農事改良を行はしめ、國內國外の資本を利用して、廣く農民銀行を設置し、農村に必要な資本を供給する。

4、農業組合を奨励促進する。生産組合を利用して、各農家をして自由に聯合せしめて大規模耕作を行ひ、進歩的技術をもつて農業改良をなさしめる。販賣購買組合を利用して、商業資本の搾取を消滅せしめる。信用組合を利用して高利貸を消滅せしめる。かゝる組合の進捗こそ、農業社會化の過渡的方法である。

5、國營農業及び公營農業を經營し、可及的に新しい技術と經營方法を應用して、農民をして徹底的に大農業と小農業の利弊を了解せしめ、農民をして漸次に自發的に個人經營及び組合經營の段階より農業社會化の段階に進ましめる。

6、速に移民及び開墾事務を開始し、人口と土地との比例を相對的に平均せしめる。

(四)都市農村の經濟的發展の均衡、商工業が農業を支配し都市が農村を支配するといふ傾向は、資本主義社會における一般的傾向である。何となれば、大量商品生産經濟が、自給自足經濟を破壊した後においては、かの大量商品生産の實權を握つてゐる都市商工業者が、自ら、實際上かの大量生産を行ひ難い農村の農業を支配し壓迫し得るからである。その結果として、都市が繁榮し、農村が疲弊し、都市が膨脹し農村が萎縮し、人口は都市に集中し農村が没落するがごとき現象が、不可避的に發生するのである。かゝる現象は、工業化の見地から見れば進歩的ではあるが、人口及び食糧政策の見地から見れば反動的である。何故に反動的であるかといふに、都市經濟と農村經濟との不均衡なる發展は、一方、國內における食糧が不足し、食糧は海外からの輸入に俟たねばならぬといふ畸形なる現象を引き起し得ると同時に、他方また、困難なる「缺」の問題を引き起し、社會主義的建設途上に巨大なる障礙を發生し得るからである。前者の現象はイギリスに、後者の現象はソヴェート・ロシアに、夫々顯著に現はれてゐる。

これに關して、彼等の政策を見るに、彼等はいふ。吾々は、經濟的發展の遅れてゐる支那においても、都市が繁榮

し膨脹し集中されるのは、これまた必然的趨勢である。しかし吾々は、農村の疲弊、萎縮及び没落を豫防せねばならず、また豫防し得ると信ずる。吾々は一方、組合によつて、農村の被壓迫被支配性を防止すると同時に、他方金融政策及び租稅政策によつて、都市と農村間の不均衡な發展を調節しなければならぬ。吾々は、消極的防止と積極的調節との二種の政策によつて、必ず國內食糧不足の弊を免かれ、困難なる缺の問題を解決し得ると信ずる。これが彼等の本問題に對する信條であるのである。

第七節 支那社會民主派の社會政策

支那の農民問題に重點を置く彼等社會民主派の農業政策は、右に述べたるがごとく、他の國民黨の諸分派に比して遙に進歩的であり、詳密なるものであるが、勞働問題に對しては、この社會政策なる項下に、次のごとく簡単にしか取扱はれてゐない。以下彼等の主張を聽かう。

吾々は、積極的方面においては、固より、種々の方策をもつて、社會主義の基礎を建設することに努力せねばならぬが、それと同時に、消極的方面においても、種々の社會政策を施行して、社會に現存する病弊を救済しなければならぬと信ずる。吾々は、極力勞働者の生活を改良するために、女工幼年工保護法、危險勞働保護法、地下勞働保護法八時間勞働制(地下勞働は六時間)、勞働者の罷業權を確定し、確實に工場法を施行して、勞働者をして漸次に生産管理に参加せしめ、種々の社會保險を實施し、職業紹介所を成立せしめ、勞賃と生活費増加の比率を規定し、精神勞働者と肉體勞働者の俸給の差額を縮小し、兵卒並に警官の生活を向上し、除隊兵に土地と資本を給與してそれを耕作せしめ、無償の平民病院、育兒院、寡婦撫恤院、孤老院を創設し、蓄妾、蓄奴及び人身賣買を禁止せねばならぬと信

す。

これが彼等の社會政策である。

第八節 支那社會民主派の文化政策

終に、吾々は、彼等の文化政策を見やう……

彼等の見解によれば、支那に特殊なる士大夫階級(註)が、知識を専有し、平民大衆は文字を學び書籍を読む方法と機会がなく、まして専門知識はいふに及ばない。これこそ支那の廣大なる平民大衆の痛苦並に屈辱の原因の一である故に彼等は、士大夫階級を消滅せしめ、大多數の平民大衆を解放するために、次のごとき文化政策を斷乎として敢行せねばならず、またしようとするのである……

(一) 文字普及政策——

- 1、文語を制限して白話を普及する。
- 2、一定期間を定めて、注音字母及び略字を普及し、並に發音を統一する。
- 3、明盲救済運動を普及する。

(二) 教育政策——

- 1、一定期間を定めて無償義務教育制を普及する。
- 2、政治教育を普及する。
- 3、普通の農業教育労働教育及びその他の職業教育を実施するが、その目標は農民の子弟及び各職業團體の職工

をして、直接に必要な教育を受け、その應用方法を學ばしめ、しかもその應用を學問に基かしめんとするにある。

4、社會科學及び自然科學に關する教育においては、實證的應用的研究を着眼點とし、これを全國各地方の學校に普遍的に深化せしめ、並に極力學術が社會と疎隔し、空論に陥り、新しい士大夫階級を發生する危險を防止する。

5、教育經費を確定し、各級教師の待遇を改良し、教職の安全を保障し、養老金制を規定する。

6、教育は社會事業なるが故に國家において監督するも、國家においてこれを獨占しない。

1、國家試験制を確立し、學校を卒業すれば卒業證書を受けるといふ制度を打破する。

8、教會の支那における文化侵略事業を停止せしめ、一切の教會學校は支那においてこれを回收經營すべきものとする。その他の外國文化機關もまた然り。

〔註〕拙著『支那の士大夫階級』参照(東亞研究會發行)

第九節 結 言

吾々は、以上において、支那の政治舞臺に南京派と共產派の中間派として、新に勃興し來つた革命行動派——社會民主派の支那社會機構、その前途に關する見解より彼等の經濟政策、社會政策文化政策の全般を檢討し來つたが、この一派の實際行動が客觀的に勝利の必然性があると否とに拘らず、南京派の不信用反動化、改組派の没落、共產派への参加に迷ふ浮游分子の存在と相俟つて、その活動その發展情勢についても、充分なる考慮を拂はねばならぬ。これ

がまた、支那政治を具體的に見る見地からも、閑却され得ない點である。現に支那においては、蔣介石派のこの派に對する彈壓、共產派のこの派に對する理論闘争が、展開されてゐるのである。

〔註〕 乃ほ福建政權の土地政策についての詳細は、拙著『支那農業經濟の諸問題』（學藝社發行）を参照されたい。

第十三章 支那の政治的危機

第一節 支那の危機の深化

最近に支那紙は、自國の危機を頻りに高調してゐるが、そのなかの或るものは、次のごとく論じてゐる。

『世界各國は最近いづれも一大危機にあると考へてゐるが、支那ほど甚しいことはない。支那には現在、他國に危機の到來することは、自らがその時に奮起すべき機會であるとして樂觀してゐる一部の人があつたが、その愚妄さは寒心に堪えない。詳言すれば、支那は目下、時々刻々危機にあらざるなく、しかも危機の重大さはすでにその極點に達してゐるのであり、一九三六年を待たない』——一九三四年二月六日上海『中華日報』社説。

以上の見解は大體において正しい。私はこゝに、支那經濟恐慌の深化、帝國主義の進出を土臺とする支那の政治的危機について、一應考察を試みやうと思ふ。

第二節 政治的危機の概念

支那紙は、自國の危機について、盛んに警鐘を亂打してゐるとはいへ、『危機』なる概念について、非常にルーズな見解しかもつてゐないやうに見える。支那においては今日、『外交の危機』、『事業の危機』、『蠶絲業の危機』、『農村の危機』、『金融の危機』などと、無暗に『危機』といふ言葉が濫用されてゐる。

しかし今、吾々にとつては、支那の經濟恐慌乃至經濟的危機の政治的危機への轉化、世界恐慌の世界危機への轉化が、重要な問題となつてゐる。かゝる場合には、吾々は「危機」なる概念について、明白に規定してをかねばならない。

吾々は今、政治的危機についての科學的見解を検討するであらう。

「一般に如何なるものが、革命的情勢の徴候といはれるか？ 次の三つの主要な特徴をあげれば、間違ひがないだらう。

(一) 支配階級が、從來のまゝの形式ではその支配の維持が不可能であること、すなはち何らかの形の「上層の危機、 $\times \times \times \times$ の不滿と憤激とを醸すところの隙間をつくる $\times \times \times \times$ の政治的危機。」 $\times \times \times \times$ のためには常に「上層の不滿」だけで十分ではなく、「下層」が從來のまゝでは、存続し「得なく」なることが必要とされる。

(二) $\times \times \times \times$ の苦痛と困窮とが極度に激成すること。

(三) (上)に掲げた理由によつて) 大衆の活動性が著しく高まること。大衆は「平和的」時代には黙つて掠奪され、動亂期においてはしかし全般にわたる危機の状態並に「上層」そのものに動かされて獨立の歴史的前進をはじめ。……革命的情勢の各々から $\times \times$ が起るのではなく、上に數へた客觀的條件に、更に一つの主觀的條件が加はつたところの革命的情勢から、はじめて $\times \times$ が起るからである。主觀的條件といふのは、 $\times \times$ 階級が $\times \times \times$ を倒す(或は動搖させる)に充分なる強さを有する $\times \times \times$ 大衆行動を起し得る能力である。 $\times \times \times$ はたとへ危急存亡の際にあつても、それを「 $\times \times \times$ 」とする力が加らない限り、決して自ら「顛覆する」ものではない。——レーニン著「第二インターナショナルの崩壊」白揚社版、第一五——六頁。この見解によれば、 $\times \times \times$ 過程の三つの發展段階が認め

られてゐる。

- 1、また下層の危機を伴はぬ「上層の危機」または「上層の政治的危機」
- 2、すでに「下層の危機」を伴つてゐる「全般的國民的危機」、すなはち「客觀的 $\times \times$ 情勢」または「政治的危機」
- 3、「革命的危機」または「直接的革命情勢」

吾々は、以上のごとき革命的過程の三つの發展段階を認めると同時に、「政治的危機」を論ずる場合には、廣い意味、輕い意味における「上層の政治的危機」と狭い意味における「全般的國民的危機」乃至「政治的危機」とを、各々の獨自性と、辯證的轉化の關係において把握しつゝ、この兩者を包括せしめる。

かゝる意味において、現在の支那の政治的危機を検討するにあたり、検討の便宜上、豫め二つの危機についての、ヴァルガ及びクラウスの見解を見ておくことにする。

(一)「上層の危機」についてのヴァルガの見解

- (1)、 $\times \times \times \times$ の個々の間には、この恐慌によつて減少した總利潤の分け前を争奪する闘争がはじまりつゝある。
- (2)、ブルジョアジーの個々の層の利潤の分け前は國家の經濟政策(關稅政策、租稅政策、カルテル政策)に強度に左右されるものである。だから經濟政策をめぐつて $\times \times \times \times$ の個々の層の間には軋轢が絶えない。經濟政策の危機はその結果である。
- (3)、大抵の國では國家財政の不足を招致してゐる。
- (4)、恐慌は、 $\times \times \times \times$ に對するブルジョアジーのヘゲモニーを脅かした。 $\times \times \times \times$ をブルジョアジーの指導から切り離し、農民運動におけるプロレタリアートのヘゲモニーを獲得する客觀的可能性は存在してゐる。

京政權その他を支持しつゝ、自らの階級的陣營を防衛しつゝある。他面、帝國主義ブルジョアジーとの對立を藏しつゝも、支那ブルジョアジーの弱さのために、彼等の庇護、彼等の少許の分前に浴しつゝ、漸次從屬化しつゝある、外支合辦、アメリカの棉麥借疑、國際聯盟との技術的提携等々に見るがごとく。

(六) 支那財政の窮乏

支那財政は支那銀行からは内債によつて極めて、不利な條件の下に、辛うじて維持されて來たが、都鄙を通じての窮乏化、滿洲國の獨立による稅收の喪失、對外的な軍費の増大等により、最近においては極度に窮乏化し、中央財政のごとき毎月一千二、三百萬元の不足を生じ、各省財政もまた極度の窮乏状態にをかれてゐる。

都市における現銀の集中のうちにも、銀行の公債引受飽和状態に陥り、内債の起債の困難化は、宋子文の辭職、外債の起債、内債償還基金としての關稅の引上等を招來したのであるが、支那國家の財政は、決して健全化されず、益々財政的危機を辿りつゝある。

(七) 民族闘争及び階級闘争の激化

支那の經濟的危機にあつては、支那の高利貸資本、商業資本の搾取、並びに封建的搾取は、より深刻に感ずる低位の社會發達段階にある弱小民族において、殊に破局的な重荷を負はしめる。かくて支那國內における弱小民族の支那支配階級に對する、民族としての闘争が、諸方面において激化しつゝある。内蒙古における蒙古民族、新疆における回教民族、雲南、貴州、廣西における苗族、猺族、その他の弱小民族の獨立運動乃至革命的叛亂のごとき、邊境における帝國主義の侵略につれて、漸次表面化しつゝある。しかも、支那の支配階級はこれに對して、殆んど全く無力である。

支那の經濟的危機の深化につれて、地主及びブルジョアジーの封建的及び資本主義的搾取と抑壓は強化しつゝある。農村においては、租稅小作料の増加、農業勞働者の勞賃引下、都市においては勞賃の引下、勞働時間の延長、勞働者の誠首が行はれ、支配階級の被支配階級への攻勢が展開されてゐる。その反面において、農民暴動、勞働争議は、最近において漸次に活潑に、各地において行はれてゐる。

支那支配階級は、かゝる勞農大衆の反對に抗して、白色テロをもつてこれを鎮壓するとともに、南昌行營からの蔣委員長の命令によつて、今や勞農大衆の結社、ストライキ、サボタージュを嚴禁するとともに、勞働時間の延長を許し、勞農大衆の抑壓の條件の下に、勞資の協調を提唱しつゝある。たとへ勞働者虐待を禁止するとはいへ、かゝる無力化されたる勞農大衆は、經濟的危機の下においては、反動の強化に抗して蹶起する外はない。各地における暴動、争議の擴大、激化とともに、他方勞農獨裁政權の下にある支那ソヴェト區域は、勞農大衆の支持の下に、その勢力圏を擴大しつゝ、南京政權との武力闘争を繼續しつゝある。この擴大されつゝあるソヴェト區域に對しては、帝國主義列強も同一の利害關係を有し、アメリカの棉麥借款のごとき、その大部分は道路築造費、江西善後費の名目の下に、ソヴェト區域攻撃の費用に用ひられ、飛行機のごときは、ソヴェト區域の爆撃に用ひられられてゐる。かくして支那の農民運動は、完全にブルジョアジーのヘゲモニーから切り離されてゐる。

第四節 支那の政治的危機の見透しとその重要性

以上のごとき情勢の下に、支那の支配階級は、その支配體制を根本的に震撼させられてをり、その結果、藍衣社の擴大、新生活運動の提唱による軍閥のファツショ運動の強化、産業統制によるブルジョアジーの努力、土地國有農業

集團化等の要望による地主の努力、これらすべての支那支配階級の斷乎たる方策、農村における暴動、都市における争議による勞農大衆の闘争の激化、かゝる上下兩層の不安と憤激とは、支那の政治的危機の成熟を示證するものである。

しかしかゝる政治的危機の成熟の程度は、支那の各地において、決して均等的に發展してゐるものではない。政治的危機の發展は、經濟的危機の發展と同じく、全く不均等的の發展過程を辿るものである。

それとともに、支那の經濟的危機は、世界恐慌の深化につれて、益々深化し、やがて益々政治的危機を深化する外なく、決して支那の政治的危機の緩和——直線的ではないが——を期待することはできない。

なほまた吾々は、植民地及び半植民地の政治的危機は、帝國主義諸國におけるよりは、概して尖鋭化してゐるものと、認識して大過ないのである。

支那における經濟的危機の政治的危機への轉化の問題は、支那研究上最も中心的な問題であるが、從來これについての指針的な勞作は甚だ乏しい。しかもこの問題はまた、日本にとつても、重要な教訓を與へるものである。

第二篇 ソヴェート運動篇

依然湖南西部において討伐軍を惱ましてゐる。

川陝ソヴェート區は依然として屹立するも、蕭賀軍の困守不振と主力軍の無軌道的彷徨、その渡江の可能性の缺如等により、未だ星雲状態を脱せず、どこに凝化するか一向見當がつかないといはれ、西北赤化は進捗してゐないと斷ぜられてゐた共産軍の状態は、主力軍の四川侵入、劉文輝軍の共産化、四川將領の動搖等により、漸く四川凝化、コミンテルンルートの実現といふ見當がつくやうになつたといひ得る。

第二篇 ソヴェート運動篇

第一章 支那ソヴェートの史的發展

第一節 支那革命研究の必要

アジアの東北には、世界における社會進化過程を指示する縮圖が展開されてゐる。すなはち封建社會支那と資本主義社會日本と共產主義社會ソヴェート・ロシア、この三つの異なる社會形態が、奇しくも國境を隣りつゝ横つてゐる。こゝに相互に異なる三つの頂角が錯綜してゐる。しかしてソヴェート・ロシアにおいて社會主義的建設が巨大なる躍進をなしてゐるとき、封建社會支那にも、ブルジョア民主主義革命が、燎原の火のごとく、四百餘州を席捲しつゝある。かくして全世界のプロレタリアートに對して、ロシア革命の研究と同時に、支那革命の研究も、決してゆるがせにすることのできない事件とはなつた。

しかし、帝國主義ブルジョアジーは、自國の勞働者農民が、支那革命の眞相を知ることと極度に恐怖してゐる。彼等は、支那革命の眞相を歪曲し、自國の勞農大衆を欺瞞することに努めてゐる。吾々はかゝる隱蔽、曲歪を蹴つて、……支那革命の眞相——支那革命の力がどれだけ成長してゐるか、またそれが全世界の帝國主義支配に對してどんな影響を及ぼすかといふことを、具體的にはつきりと知らなければならぬ。

第二節 支那革命の特質と共同戦線崩壊後の革命戦術の推移

支那革命の特質は、世界資本主義の危機において半植民地に發生した反帝國主義革命であり、資本主義が一定の程

度に發達せる封建社會に發生した反封建勢力のブルジョア民主主義革命であるところに存在する。そしてブルジョア民主主義革命とは、一般に、農業革命を基礎として、封建的政治支配を××革命である。支那においても、勞農大衆は、このブルジョア民主主義を實現せずして、直ちに社會主義××に飛躍してしまふことは出来ない。そして支那人口の八〇%以上を占める農民の農業革命こそが、ブルジョア民主主義革命の車軸であり、基礎である。そこで支那革命の發展は、必然に、封建的關係から徹底的解放のために、農民の土地革命——土地を封建的地主から農民革命の××する農業××——にまで到達せざるを得ない。

支那の反帝國主義的ブルジョア民主主義革命——所謂『國民革命』——は、當初においては、小ブルジョア黨たる共産黨との共同戦線の下に、革命的××行動——所謂『北伐』によつて、一九二六年に開始された。この北伐によつて、支那の農民運動は、先づ地域的に擴大し、北伐軍が占領した地域において、農民ははじめて自からの組織をもつ自由を與へられた。その地域は従来の廣東一省から廣西、湖南、湖北、江西、河南等揚子江流域一帯の諸省に擴大され、××農民の數も、急激な増加を示した。かゝる農民運動の地域的擴大は、必然にまたその質的深化を伴つた。元來、湖南、江西、湖北等の中部支那諸省は、農村における階級分化が最も進んでゐるが、これらの諸省においては、國民黨のもつ農業綱領に許容されてゐた小作料の低減から出發した農民闘争は、急激に、その限度を突破して、農業××の本質的問題たる地主土地の××、農民の×××の樹立等の問題にまでも進展した。かくして湖南、湖北において勞農政權が樹立されるやうになつたが、地方において、北伐によつて僥倖しようとして、國民黨に加はつた軍閥、封建地主、ブルジョアジーは、農民××、××に直面して、急激に反動化した。彼等は、農業革命の段階にまで進展した農民が、益々闘争力を強大にした都市プロレタリア勢力と合流する前に、これを徹底的に粉碎する必要を痛感して

きた。その結果、國民革命軍の上海占領後、蔣介石は先づ四月十二日にクーデターを行つて暴壓の火蓋を切り、李濟も四月十五日廣東においてクーデターを行ひ、次で五月二十一日には湖南において有名な『馬夜事件』が起り、封建軍閥唐生智の部下許克祥は、武力をもつて勞働組合の襲撃を開始した。かくて、七月十三日共産黨は國民黨脱退宣言を出し、七月十五日には、國民黨もまた正式に共産黨との分裂宣言を發表した。

支那大革命は、かくして、國民黨の反動化、國共兩黨の共同戦線崩壊によつて、その第一の幕を閉じたが、それと同時に支那革命はより高い段階に進み、偉大なる悲劇もそれを起點として展開されることになつた。

國共兩黨の共同戦線崩壊後、一九二七年八月七日、支那共産黨は、最初の全體會議を南昌において召集した。所謂『八・七會議』がこれである。この會議において討論された『支那共産黨の政治任務と戦術に關する決議案』は、一九二四年以來の支那プロレタリア運動の戦術を根本的に變更したもので歴史的重要性をもち、この決議は八月十一日の擴大會議において、完全に正確なものであることが追認批准された。それによれば、過去における共産黨の日和見主義が勞働運動の發展に障礙であつたことを嚴正に批判し、勞農大衆自身の××××、プロレタリアート××への前進を明白に高唱し、實際戦術としての勞農大衆の××××を組織するために、各地に革命委員會を設け、臨時革命政府の性質を保持し、××××の後、ソヴェート代表會議を組織して、政權をこれに引き継ぐ過程を詳細解明し、『土地革命を中樞とすべき現段階においては、その障礙たる地主、劣紳、軍閥、反動資本家の××』を當面の任務であると規定した。

この新戦術の動機となつたのは、かの一九二七年八月一日賀龍、葉挺比に指導された南昌暴動であるがこれを口火として、國民黨の勢力圏内において、廣汎なる××××が展開され、湖南、湖北、江西、江蘇、廣東の諸省にわたつ

て、六十餘ヶ所のソヴェートが××せしめられた。かゝるバルチザン××は、一九〇五年十二月のモスコイ革命直後のロシアに、その古典的例證を見出し得る。それは個々の革命家、または革命的小集團によつて行はれる××××であるが、この闘争形態は、當時、政治的危機が革命状態にまで尖鋭化したこと、また農村及び都市における経済的窮乏、飢餓、失業等が極度に達したことによつて、自然發生的に生れにものである。レーニン××は、バルチザン闘争は「大衆的運動が事實において内部にまで發展し、しかも内部における「大なる衝突」の中間に、多少なりとも長い時期が横はるやうな場合には、不可避免的に起るところの闘争形態である」と規定し、この自然發生的な××をプロレタリアートが、意識的に組織し、これを……的に指導しなければならないと述べてゐる。

ついで同年十一月、支那共産党中央執行委員會議は、政治状態に關する決議をなしたが、それによれば、南昌會議以後三ヶ月間の革命的企圖の失敗にも拘らず、革命のかゝる部分的失敗は、黨の戦術の非妥當性を立證するものではなく、新たな情勢を詳察してこれに適應すべき××を決定することこそは黨の任務であるとし、

「現下の状態に處する支那共産黨の一般戦術は、一、大衆の自然發生的な××に高度の組織性を與へ、二、相互に聯絡のない農民闘争をできるだけ廣汎な農民の闘争に結合すること、三、労働階級の××と農民運動を相互に聯絡援助せしめること、等である。しかし若し農民闘争が比較的廣汎なる××の見込のない場合には、黨はこれをバルチザン××に××し、××が一定の地域内において比較的長期に維持し得らるゝ場合にはソヴェートを組織し、一切の反革命分子に對しては假借なき××を加へ、「地主の土地を沒收しソヴェートにおいてこれを分配する」といふことを土地革命の重要スローガンとして掲げ、極力窮乏大衆を労働政權に組織せしむべきである。」

とした。かの有名な廣東コンミュンの出現は、この十一月會議直後の十二月十一日であつた。しかし廣東におけるソ

ヴェート政權は、反動軍閥の暴壓の下に、三日にして粉碎された。かくしてコミンテルンは再び戦術を新にするの必要に當面し、一九二八年二月十五日のコミンテルン執行委員會議は、支那問題に關して、重要な決議をなした。それには

「過去半ヶ年の經驗に照して、(一)労働運動と農民運動の並行的發展を期し、(二)近い將來の革命の高潮に備へるために日和見主義的闘争を避けて大衆の組織に全力を傾倒し、これをソヴェートに結合すること、(三)ソヴェート化せる地域においては遊撃隊の支隊組織を黨の主要任務とすること、(四)コミンテルン執行委員會議は帝國主義の強烈なる反革命的干渉の現下の時期に際し支那革命を全力をあげて支持するものである」

等々を指摘力説した。ついで一九二八年六月に召集されたコミンテルン第六回世界大會も、前記二月決議の精神を、支那問題に關するテーゼ及び決議に詳細に展開してゐるが、同年七月初旬に、コミンテルンの直接の指導の下に開かれた支那共産黨第六回大會も、コミンテルンの分析に完全に同意して、二つの政治的偏向を排撃して、革命の一時的退却の時期を正しく評價し、新时期におけるレーニン主義的方針を確立した。

二つの政治的偏向とは、右翼日和見主義と一揆主義——盲動主義——の危険である。右翼日和見主義——「吾々がやり過ぎた。やはり左翼國民黨と共同しなければならない」といふ見解——に對して、大會は「國民黨の各派は完全に反動である」、「國民黨の各派の打倒を準備することは黨の全目標である」と決議して、右翼日和見主義はレーニン主義の原則に全く反するものであるとして排撃した。他の一揆主義は、「間斷なき革命」といふトロツキー主義的理論から出發するが、この誤謬を、「現下の情勢」における力關係の分析に基づいて解決し、「(一)黨と大衆とを分離する危険は、一揆主義と日和見主義である、(二)一揆主義は敵の勢力を省みず、大衆を顧慮せざる少數人の革命的冒險

である、(三)、一揆主義は「ルンペン・プロレタリアの意識である」と断定した。この二つの政治的偏向を排撃し、世界資本主義第三期に適應して、黨の闘争の中心方針を大衆闘争の任務に置き、次のごとく決議した。

一、新しき革命に際しては、武装闘争をもつて國民黨権及び帝國主義を打倒せねばならぬ。

二、全國的範圍に革命闘争の必要を宣傳し、もつて新しき革命を準備することは、當面最も重要である。

三、大衆獲得こそは現下の全方針である。

四、黨は一層日常闘争の指導を遂行せねばならぬ。

五、革命の高潮の準備には正に大衆を組織しなければならぬ。

なほ第六回大會は、支那共產黨にとつて最も重要な農業問題に對しても、從來の誤謬を克服して、正確なしかも詳細な農業綱領を決議したが、この綱領は、何よりも先づ、從來の日和見主義的誤謬を一掃して、すべての地主——小地主も含む——の土地没収といふ革命的立場をもつて貫かれてゐる。それは半地主的な富農に對する階級闘争の發展に關しても、レーニン主義的正確さを保持し、「農民運動の發展はなほ半地主的な富農への反對にまで到らねばならぬ」と決議してゐる。またこの決議は「ブルジョア民主主義革命の勝利が、資本主義發展の出発點とはならず、社會主義發展の第一歩である」と規定した點においても、第五回大會の決議と、本質的に區別される。正にそれは、支那革命の新時期、ソヴェート革命の段階に充分に適應し、農民革命運動がレーニン主義的指導に向つて巨歩を進めたものである。

支那におけるソヴェートの發展は、かゝる方針の下に躍進したが、越えて一九二九年六月——七月、支那共產黨中央執行委員會第二回擴大會議が開かれ、大會後一ケ年間の状態を具さに検討し、農民運動並にソヴェート樹立の方針に

ついて、大要次のごとくに決議した。

一、土地革命を擴大深化すること、

大革命失敗後二年の今日、各地におけるソヴェート區域及び……の依然たる存続發展の事實は、軍閥戦争の繼續によることは固よりであるが、その根本的原因是、農民大衆の土地没収要求の發展にある。しかして土地革命の徹底的完成は無論全國労働大衆が勝利した後に實現さるべきものであるか、勞農大衆の最後の勝利なくしては一切の農村土地革命なし、と見るのは一つの誤謬である。現在の客觀的諸條件は、農民の土地革命の發展過程において……を組織し、……の高潮を推進することを命ずる。故に黨は廣汎なる農民大衆の土地闘争を積極的に誘發指導せねばならぬ。

二、農民に對する指導を強化し更に組織的に運動を進行せしめること、

過去一ケ年間、農民運動の不斷の發展にも拘らず、これに對して、黨は計畫的指導を與へなかつた。すなはち農民運動の大部分は、自然發生的形態をとり、そのために多くは邊僻の地方に發展して、主要産業區域及び中心都市の周圍には、極めて少なかつた。かくのごときは、黨の革命的任務から見て、重大なる缺陷である。農民運動の中心的スローガンは疑もなく、「地主の土地を没収して農民代表會議の分配に任せよ」であるが、過去二ケ年間の土地闘争の經驗は農村の土地革命における富農の反革命性を明白にした。故に今後、土地革命の實踐にあつては、更に一步を進めて富農反對を叫ばねばならない。すなはち富農のヘゲモニーを貧農の手に掌握することが、黨としては焦眉の問題である。かくて黨は農民大衆を……的に……に驅り、その……を擴大し、農村の階級分化を尖鋭化し、且つバルチザン闘争の新團體を作り、ソヴェート樹立の方針をもつて、進まねばならない。

三、バルチザン闘争を指導してソヴェート地域を拡大し……を建設すること

さきに第六回大會は現下における支那農村の諸條件に適應して、バルチザン闘争及び自然發生的……中に……を建設し、同時にソヴェート地域において、徹底的に黨の土地政策を實行することにより、ソヴェート地域を拡大し、且つできる限り、……の組織を拡大することをもつて、支那革命の高潮の主要條件の一であると指摘した。過去一ケ年間の農村革命過程において自發的農民……の爆發、バルチザン闘争の擴大並に……組織の新たな發展の事實は、確に看取されるのであるが、黨は更に注意してバルチザン闘争をより組織化することにより、農民……のスローガンをより正確に實行することにより、一揆主義や……主義その他の誤った行動を、斷乎として糾正することによつて、より廣汎なる大衆の擁護を實現することができるのである。なほ……の行動は、客觀的及び主觀的條件、すなはち軍閥闘争の形勢、農民闘争の形勢、……の組織的成分及びその地理的條件によつて決定されるべきもので、機械的な一般的指示を與ふべきものではない。」

要するに、一九二七年國民黨との絶縁後におけるコミンテルン及び支那共產黨の革命戦術は、支那現下の客觀的的主要條件が、……及び……の前提としてのブルジョア民主主義革命の徹底的實現過程において、農業革命がその中樞をなすに鑑み、先づ土地革命の實行を期すべく、誤れる極右翼的及び極左翼的日和見主義闘争を避けて、農民大衆の組織に全力的に努力し、微力なる自然發生的農民……をバルチザン闘争に指導し、これによつて土地革命の舞臺としてソヴェート地域を拡大し、しかし全國的革命的な基本動力たる……の擴張を計るにあつたのである。

第三節 支那ソヴェートと共產黨の發展

さきに、一九二七年六月ごろ、國共兩黨の共同戦線が崩壊し、顧問ボロジン及びガリン將軍は武漢を去つたが「予が漢口を去るに際して、支那共產黨の手に残つた兵力は總數八千にして、その他は或は武装を解除され或は支離分散した。コミンテルンの唯一の期待の的であつた支那の農民革命は完全に敗北した」とは、ボロジンのコミンテルンへの報告の一節だと傳へられる。しかし、國民黨の完全な反革命化により、闘争の大衆生と多數の革命分子は失はれたにしても、支那の農民大衆は、前よりはずつと明確な目標をもつて、土地……のために……を開始し、所謂「殘存の八千」と「支離分散の……」こそは、革命的農民大衆の……を得て、爾來農民闘争の……として活動を繼續し、着々としてその組織を恢復し擴大強化するにいたつたのである。すなはち一九二七年八月ごろから、湖北、湖南、廣東の諸省では、強大な農民闘争の波が高まつた。革命的農民はそれぞれの村で、……バルチザン……(……隊)……して、地主の……し、小作證書を焼き棄て、土地革命に着手し、また時として地方の小都市を一時的に占領した。バルチザン闘争は、全南部支那に擴つて、それらは三千、五千、また屢々一萬に及ぶ兵力はもつにいたつた。この闘争は、有名な賀龍、葉挺軍の八月一日の「南昌暴動」をもつて、口火を切られた。その後張發奎軍に南昌を追はれるとともに、……バルチザン隊を加へて廣東に入つたときには、その兵力は始めの二萬から五萬まで増加した。八月末には一時汕頭を占領し、十月始には廣東省の東半を征服したが、間もなく政府軍に攻撃されて、省内に分散した。この南昌暴動は、國民黨の白色テロ開始後の、最初の大規模の武装農民闘争として、歴史的な意義をもつてゐる。當時なほ日和見主義的誤謬のあつたがために、各地の農民闘争を眞に統一せる力に集中することができなかつたとはいへ、それは支那共產黨に對して、農民……闘争を如何に指導すべきかの問題を提起し、正しき指導の確立せしめた。また同時に、それは海陸豊及び廣東ソヴェートのための……を意味した。」

南昌暴動の敗北で分散した共産軍の一部は、廣東省の東南部にある海豐縣、陸豐縣——「小モスカワ」といはれるほど農民運動の發達したところ——の革命闘争に参加し、遂に一九二七年十一月十七日に、支那最初のソヴェート政權を樹立した。ついで同年十二月十一日には、廣東の労働者農民もソヴェート政權の樹立を宣言した。廣東ソヴェート政權は、五千の労働者と農民に守られ、大衆の熱烈な支持があつたに拘らず、強大な反革命軍と戦はねばならず、三日にわたる激烈な市街戦の後、勞農軍は敗北して、再び白色テロの横行するところとなつた。海陸豐ソヴェートは、廣東ソヴェートの敗北後も、數ヶ月の間保持されたが、その後反動の攻勢によつて、公然の……は消滅したが、その實體は存続し、闘争を續け、最近再び建設された。

越えて一九三〇年三月には、廣西省にある共産軍が、佛領印度支那に近い龍州を占領し、龍州ソヴェート政權を樹立し、フランス帝國主義の教會、銀行、商店、工場を沒收し、フランス飛行機を落したが、反動軍及びフランス軍との交戦によつて、敗北に歸した。同年七月二十八日には、湖南省の首都長沙に長沙ソヴェートが樹立され、外人全部の退去を餘儀なくし、なほ大砲數門、機關銃十數門をもつて、反動軍並に帝國主義軍艦と砲火を交へ、米國水兵に重傷一名、輕傷數名を出したが、反動軍並に帝國主義軍艦の反撃に遭うて、八月七日一先づ長沙を放棄し、江西省方面に轉戦し、時期の到來を待つことになつた。

かく支那革命は、南昌暴動に火蓋を切り、ソヴェート闘争の段階に入り、海陸豐、廣東、龍州、長沙と斷えざる發展を示してをり、殊に廣東、龍州、長沙諸ソヴェートの……は、全世界のブルジョアジを驚倒せしめ、巨大なる……的影響を與へたのである。かゝる諸々の大地域、大都市にソヴェート………されたのみでなく、支那革命のもつ幾つかの特殊な客觀的條件は、支那………の組織及びソヴェート………を擴大強化するのであつた、それは、

- 1、支那一般經濟の落伍及び經濟的發展の地理的不均衡狀態
- 2、支那豪紳資産階級の統治の政治上經濟上における崩壊過程
- 3、全革命狀勢の平衡的發展
- 4、土地革命の深化等

である。かくて今や廣西、廣東、湖南、湖北、福建、安徽、江蘇、河南、河北の九省に亘り、十四乃至十六………の………をもち、これら諸省の外、浙江、四川、吉林、黑龍江の諸省に農民………を有し、共産軍は飛行機四臺、武器約七萬挺、委員約十萬を擁し、反動政府軍に對して隠然たる一大敵國を形成してゐる。この………は、眞に労働大衆の解放を使命とし、確固たる主義、政綱、規律に指導され、貧農五七・七二七%、兵士二七・七二七%、労働者三・六三六%、浮浪者其他一〇・九〇九%から成るのであるが、反動勢力は一樣に「赤色土匪」とか「共匪」とか呼んでゐる。この………こそ、勞農大衆の唯一の………、ソヴェート………を強大にし、その解放を確保するもので、以上の諸省にわたつて廣大なる………區域が展開され、中には恒常的にソヴェート………を………してをり、福建西部、海陸豐、江西東南部、湖北東部のごときは、その代表的なるものである。

第四節 ソヴェート地域代表大會とソヴェート中央 準備委員會臨時常務委員會

一九二七年夏以來、支那の廣汎なる範圍において、幾多の小規模なソヴェート地域が發現した。しかし當時は、な

ほ各自に……を行ひ、全國的な統一はなかつた。それで、湖南の一縣には、すでに一年以上ソヴェート政権が……するに拘らず、居民は地域外の状況及び……の態度について、何等の理解なく、したがって自身の前途に對して、甚しく悲觀的であつた。そこで黨は、ソヴェート地域のかゝる孤立性と戦ひ、その相互の連繫を企圖し、より有力なる團結を通じて、一の強大なる……を結成する必要に迫られた。かくて黨は、第一回全國ソヴェート地域代表大會を召集し、有力なる労働組合代表をも参加せしむるに決したのである。

この大會前、一九三〇年五月五日から十二日まで、上海に準備大會が開かれ、來會するもの五十七名、その中には各……代表、各ソヴェート地域代表、支那共産黨及び全國總工會代表があり、五月卅日五卅州事件記念日に、某ソヴェート地域内において正式大會を開いた。この大會は、支那ソヴェートの十大政綱、ソヴェート組織法、土地暫行法、労働保護法等を發表した。これらの政綱法令は、今や反動化せる國民黨及び國民政府の政綱法令と相對立して、國民政府打倒の有力なる政権を形式することになつた。この大會は、全世界の深甚なる注意を誘起するに充分であり、その偉大なる意義について、大會は次のごとく宣言してゐる——

『今や支那においては、すでに明確に、二つの異つた政權組織、二つの異つた政治制度が存在してゐる。一は豪紳地主、買辦、ブルジョアの國民黨政權であり、他は労働者、農民、兵士、勤勞大衆のソヴェート政權である。この二種の政權を代表する、二種の異つた階級の最後の……は、正に支那の解放と、労働者、農民、勤勞大衆の運命を決定せんとしてゐる。のみならず、正にそれは、全世……界の偉大なる運動である。』

この大會の齎らした一般の成果は、ソヴェート地域に對する明確なる政策の基礎が確立され、同時に支那ソヴェート政府の統一的な軍事政策が確立されたことにある。これと同時に、ソヴェート地域外における各革命的組織の擴大

強化のためにも、非常な影響を與へ、革命互濟會——赤色救援會——は、共産軍に對して多數の醫師、看護婦を送り、ソヴェート地域に對して多數の教員を送るなど、その活動が異常に活潑になつてきた。その大會の残した最初の具體的成果としては、支那全國ソヴェート中央準備委員會臨時常務委員會が成立したことである。この臨時常務委員會は、一九三〇年七月二十三日上海において組織され、ソヴェート地域代表大會主席團の第一回全國ソヴェート大會召集宣言及び全國ソヴェート地域代表大會の決議に基づいて、同日臨時常務委員會組織大綱並びにソヴェート中央準備委員會工作計畫大綱を通過した。

臨時常務委員會組織大綱

(一)中央準備會全體會議前においてソヴェート地域代表主席團は、上海にある支那共産黨中央、全國總工會、支那共産青年團中央、革命互濟會總會、上海工會聯合會、反帝國主義同盟、自由運動同盟、左翼作家同盟、社會科學家聯盟等の代表會議を召集して、臨時常務委員會を成立せしむ。中央準備委員會が正式に全體會議を開けるときは、臨時常務委員會は直ちにこれを取消す。

(二)臨時常務委員九名を以てこれを組織し、主席一名秘書長一名、組織宣傳部長各一名、編輯主任一名、編輯委員四名を設け何れも常務委員これを兼任す。

秘書處、組織部宣傳部及び編輯委員會には、事情を酌量して事務擔當者若干名を置くことを得。

(三)臨時常務委員會は毎週一回開會、主席これを召集す。必要なるときは主席は臨時會議を召集することを得。

(四)臨時常務委員會は「中央準備委員會工作計畫大綱」に基づき更に具體的なる詳細の各種工作計畫を討論し、下級準備委員會を指導督促して忠實にこれを執行せしむべし。

(五)秘書處、組織部、宣傳部編輯委員會の各責任者は毎週一回工作會議を舉行すべく秘書長これを召集す。

(六)秘書處、組織部、宣傳部、編輯委員會は夫々責任者工作について責任を負ひ、一定の計畫のもとに忠實に常務委員會の決議

を執行し、經常的工作關係を樹立すべし。

- (七) 秘書處は常務委員會の文書、記録、會計交通及び其の他常務委員會の指定せる各種の工作を管理すべし。
- (八) 組織部は計畫に基き經常的に下級組織の工作を考察指導督促し、各種の統計調査を制定し、發行機關を樹立し下級組織と經常關係を樹立し並びに其の組織工作を管理すべし。
- (九) 宣傳部は全國に亘り各種の宣傳材料を蒐集し、宣傳大綱、傳單、パンフレット及び畫報を編輯發行し並びに下級機關の宣傳工作を考察批判組織すべし。

- (十) 機關誌(週刊)の發行に關しては常務委員五名を以て編輯委員會を組織し、毎週一回開會、編輯主任これを招集す。
- (十一) 秘書處、宣傳部、組織部及び編輯委員會は夫々別に各級の工作計畫を定むべし。

ソヴェート中央準備委員會工作計畫大綱

- (一) 一個月内に全國の勞働組合、農民委員會ソヴェート區域、赤衛軍及び各革命團體代表の全體會議を招集し、正式中央準備委員會を成立す。
- (二) 各級準備委員會組織大綱を制定し、直ちに各省縣區及び工場農村學校軍隊町内の準備委員會を組織すべく全國に通告す。各工場農村學校軍隊町内の準備委員會は民衆大會において直接に選舉せる委員を以てこれを組織すべし。
- (三) 中央及び各級準備委員の各種工作には夫々責任者を置き健全にして、積極的に準備工作を擔任し得る組織となすべし。各級組織は經常的に密接なる關係を保有し上級機關は經常的に下級機關の工作を考察指導督促し、下級機關は經常的に、上級機關に向つて報告し且つ其の指導を受くべし。
- (四) 中央準備委員會は通告、指令、機關誌をもつて工作を指導する以外に、必要なるときは人を各省區に派遣し、決議命令を傳達し直接に工作を指導すべし。
- (五) 中央準備委員會全體會議は直ちに全國ソヴェート出席代表大會選舉法及びソヴェート組織法を制定してこれを公布し、且つ

全國に通告し限定期間内に準備工作を完成すべし。

- (六) 中央準備委員會組織部は全國組織工作に關する詳細なる計畫を制定し、且つ各級準備委員會の忠實なる執行を督促すべし。
- (七) 中央準備委員會、宣傳部は全國宣傳工作の詳細なる計畫を制定し、各級準備委員會の忠實なる執行を督促すべし。
- (八) 中央準備委員會、宣傳部は、總宣傳大綱を制する以外に各種の特殊問題、例へば「軍閥混戦への反對」、「世界大戰への反對」ソヴェート聯邦の「擁護」、「八一デモ」等の問題に對しても臨時宣傳大綱及び宣言、傳單、標語畫報等を編輯發行すべし。
- (九) 中央準備委員會は機關誌週報を發行すべし。これは中央準備委員會が政治主張を發表し、全國の「運動を指導するものにして必ず絶大な注意と努力を以てこれを處理すべし。
- (一〇) 各款準備機關(特に省令)は、夫々できるだけ機關誌を發行し、各工場準備委員會も最大の努力をもつて、工場小新聞を發行すべし。

- (一一) 各「××團體の刊行物には、特別欄を設けて準備大會の宣傳をなすべく、一切の宣傳、××及び各種の大衆闘争の指導は、夫々「全國ソヴェート大會を××せよ」、「ソヴェート政權のために××せよ」といふことを中心スローガンとなすべし。
- (一二) 中央準備委員會は、必要時期において、全國にゼネラル・デモンストレーションを舉行すべく命令すべし。

かくて臨時常務委員會は、着々その任務を果し、編輯委員會は「支那ソヴェート」(支那蘇維埃)を機誌として創刊し、八月二十日には正式に中央準備會が成立し、更に十一月七日ロシア革命十三年記念日を期して第一回全國ソヴェート代表大會が招集されることとなつた。

第五節 支那ソヴェート政權の特質とその組織

ソヴェート政權の特質を述べるに先だつて、その建設過程を見よう。ソヴェート地域建設の第一は、バルチザン：

を適用して、主として農業労働者の組織し、これが擴大を計り、ついでこの組合及びバルチザン部隊、その他の代表者をもつて、……を……することである。この委員會組織の段階は、ソヴェート……への………ざる過渡的段階である。この段階における農民組合は、まだ基本的農民大衆を獲得し得ない組織であるが、もしもこの組織が農民の多數を獲得した場合、その地域の土地革命はすでにそこにソヴェート………程度に達したことを意味するのである。

かゝる建設過程を経て成立したソヴェート政權は、次の六つの特徴をもち、反動政權と斷然區別される。

1、ソヴェート政權は勞農大衆の革命的政權であり、激烈なる革命闘争を通じて創造されたものであるから、大衆と密接な不可分離の關係を有し、軍閥の政權のごとく、大衆を搾取することなく、また大衆から敵視されることはない。

2、ソヴェート政權は勞農大衆自からが……の……を代表として選舉して組織されたものであるから、最大多數の大衆と一團をなし、中間に何等の障壁もなく、したがつて自己の誤謬を容易に検討し自からの……による損失を恢復し易い。

3、ソヴェート政權に参加する人々は、勞農大衆自からの意志によつて選舉されまた更迭されるものであるから、官僚主義を發生しない。

4、ソヴェート政權の委員に参加する人々には、大衆の各層を含むが故に、相互の親密關係を發生し、しかもいづれも生産者であるから、何等の搾取關係を發生せず、官僚地主及び資本家を發生しない。

5、ソヴェート政權に参加する人々は、勞農階級の………であるから、大衆の政治的訓練を組織的效果に成しと

げ得る。

6、ソヴェート政權は民主集中制にして、しかも最も徹底した民主であり、最も痛苦大衆に接近してゐるから、勞農大衆自から直接監督するに便利な政治機關組織である。同時にまた、最も集中し最も權威ある政治機關組織にして、一切の權力は代表會議に集中され、各ソヴェート政府委員は代表會議において選舉され、一切の結合及び重大問題は必ず代表會議の討論を経たる上、ソヴェート執行委員會によつて執行される。かくてソヴェート政權こそが、最も完全な民主共和制である。

かゝる六つの特徴をもつソヴェート政權が、實際支那のソヴェート地域において、從來如何に組織、運用されてゐたかは、吾々にとつて興味深い問題である。

先づ福建省西部（閩西）ソヴェートのそれを見るに、閩西ソヴェート政府の下に、縣、區、郷の各級ソヴェート政府があり、各級ソヴェート政府は、その地域内の大衆大會によつて選舉された代表によつて會議が開かれ、こゝにおいて勞農大衆の一切の問題が決定され、且つ委員が選舉され、この委員が政府を組織し、大會の決議を執行するのである。縣ソヴェート代表は、各郷大衆大會の中から一定數だけ選舉され、更に複選の上大會に出席する。勞働者は職業を、………は夫々隊を單位として、一定數の代表を選舉し、更に複選の上縣大會に出席する。閩西ソヴェート代表は、區縣二回の複選を経たる上、閩西大會に出席するのである。閩西ソヴェート地域内の人民は、十六歳以上なれば、男女を問はず、被選舉權、選舉權を有し、過去において搾取階級であつたもの及びその手先であつたものは、いづれも被選舉權、選舉權を剝奪された。現在各級ソヴェート政府の代表並に委員は、いづれも窮苦な勞働者、農民、兵士、及び革命的な學生、小商人である。各級ソヴェート代表大會は、定期に舉行され、一切の問題を決定し

た若しも或る代表が選挙地大衆の意見を代表し得ない場合には、大衆は自動的に大会を招集して、その代表たる資格を剥奪し、別の代表を選挙し得ることになつてゐる。政府委員が、代表大会の決議を執行することを希望せずまたその執行に努力したい場合には、代表大会はその委員たる資格を剥奪し、別の委員を選挙し得ることになつてゐる。かくてそれは絶対的民主制の標本である。上海の一手工業労働者の閩西ソヴェート視察記には、そのソヴェート組織について、次のごとく記してゐる。

『去年（一九二九年）の五月……が……すると、農民はそれまであつた農民協會を解散して、各縣、各區、各郷ごとに、革命委員會を作り上げた。そしてそれから代表者を出して、労働者農民兵士代表大會を開き、正式にソヴェート政府委員を選挙して、政治機關を確立した。そして第一の仕事として、土地の……をやつた。去年の暮には、各縣、各區、各郷のソヴェートは全部完全に組織され、大衆はソヴェートこそが、自分たちの……であることをハッキリと認め、自分たちの作つたソヴェートの決定だけに服従するやうになつた。革命勢力が擴大するにつれて、軍事上にも政治上にも經濟上にも、統一的な指導と統制とが必要となつてきた。そこで本年（一九三〇年）一月、各縣のソヴェート機關は閩西地方全體のソヴェートを組織しようと準備を始め、三月十八日、パリ・コムミュン記念日に、龍巖市で『全閩西労働兵代表大會を開き、正式に閩西ソヴェート政府を同市にもつことになつた。この代表大會に送る代表者の選挙は非常に慎重に行はれた。農民代表は區郷を單位として、最初郷民大會を開き、三百人に一人の割合で選出された代表者によつて、區代表委員會が作られ、そこから更に十人に一人の割合で、選出された代表者によつて、縣代表委員會が作られ、その縣委員會から農民一萬人につき一人の割合で、全閩西ソヴェート委員會に送られる正式代表が選出された。労働者の代表は市、區を單位とし、市、區の大會から三十人に一人

の割合で縣委員會に送られる代表者が選ばれた。この縣委員會から労働者三百人につき一人の割合で、全閩西ソヴェート委員會に送られる正式代表が選ばれる。學生や教員は、各市、區の文化委員會から選ばれた代表の中から、更に一縣につき一人の割合で正式代表が選ばれ、全ソヴェート文化委員會が形成された』

〔註〕一九三〇年四月十一日『紅旗日報』プロレタリア科學研究所編『ソヴェート支那の成長』第三三—四頁掲載

次に江西省（西部）ソヴェートのそれを見るに、ソヴェート地域内の人民は、地主、豪紳、富農の外は、十六歳以上いづれも選挙権被選挙権を有し、郷を基礎として、農民は五十人につき代表一人、労働者は十人につき一人、自由職業者は農民と聯合してまた少數の工場は直接に、夫々その代表を選挙し、郷ソヴェートを組織し、七人の委員を選挙し、三人を常務委員とし、夫々事務を分擔せず、合議制を採つてゐる。區においては、農民は一人につき一人、労働者は二人につき一人、工場は直接に夫々代表を派遣し、區ソヴェートを組織し、十三人の委員を選挙し、七人を常務委員とし、その内が軍務、財政、社會保險、教育の四部に分れ、別に人民審判委員會、土地委員會があり、前記の四部に對抗し、主席一人を互選し、常務委員は各自一部または一委員會の經常事務を兼任してゐる。

終に安徽省六安第六區ソヴェートのそれを見るに、ソヴェート條例六章十一條が制定されてをり、それによれば労働……の原則に基づいて、職業代表と地方代表の二方法によつて、代表を選挙することになつてをり、區内の人民は、種族、男女、居住の長短に拘らず、

- 1、農工商業に雇はれてゐる労働者使用人
- 2、手工業者及び體力労働者
- 3、搾取を目的としない自己労働農民

- 4、生産的な並に社會に有益な、労働事業によつて生計を維持しつゝある小學教員、醫師、自由職業者
 - 5、過去においてプロレタリア闘争に努力したもの
 - 6、ソヴェート下の各種軍隊内及び兵士
- は、いづれも選舉權被選舉權を有するが

- 1、土豪劣紳地主反動派
- 2、統治階級の反革命的行為に任じたもの及び反革命者
- 3、經濟的搾取をなし及び財産を有し、自から労働しないもの
- 4、一切の僧侶、道士、卜筮、占者、基督教信徒及び迷信宣傳者
- 5、流氓、地痞、永久に生産から脱離してゐる寄生蟲たるもの
- 6、自己の利益を増加するために労働者に雇傭してゐるもの
- 7、選舉權を有するも選舉期間において反革命行為をなしたもの
- 8、殘廢疾病のため精神の錯亂してゐるもの

は、選舉權被選舉權を有しないことになつてゐる。代表の比例を見るに、労働者は四百人につき一人、農民は五百人につき一人、兵士は四五十人につき一人、都市貧民は百人につき一名になつてをり、その比例で夫々代表を選舉するが、過半数をもつてこれを決定し、各種代表には青年、婦人も参加し得ることになつてゐる。選舉方法を見るに、労働者、農民、兵士、貧民、婦人は、夫々別個に選舉を行ふもので、労働者は市鎮工場地方を單位とし、労働組合において、一市鎮、一工場または一地方の労働者全體會議を招集してこれを選舉し、農民は選舉區を單位とするが、六安

は六區に分れてをり、農民組合において、一區内の農民會議を招集してこれを選舉し、手工業者、肉體労働者、小學教員、店員は、労働組合に参加して選舉する。更に代表選出の方法を見るに、出席した選舉權者は選出すべき代表若干名を決定しをき、會議において選舉權者二名によつて五名を提議し、過半数の同意を得て正式代表として、推舉法によつて推舉し、舉手によつて表決されることになつてゐる。選舉期日は準備會において決定し、期日前に各區各團體に通知し、當日は代表を派遣して選舉を監視指導することになつてゐる。

従來、諸ソヴェート地域において行はれてゐたソヴェート政權の組織は、略ぼ前に述べた三地域のそれによつて窺ひ知ることが出来るやうに、絶對的民主集中制であつたが、大衆の選舉を経ず少數の首領または×××××によるソヴェート委員の任命、勞農兵代表の比例の不統一、選舉ブルジョアの制限、各種委員會の組織方式の不統一等幾多の誤謬が起されてゐた。しかるに全國ソヴェート地域代表大會は、ソヴェート政府（人民委員會）組織法を制定し、かかる従來の誤謬を矯正した、すなはち組織法は、全國ソヴェート地域におけるソヴェート組織の不統一を統一し、根本的に大衆の選舉による委員制を確立し、郷、區、縣、各級ソヴェートにおける委員の成分——勞農兵——の比例及びソヴェート政權の下に立つ各種委員會の組織方式を具體的に規定し、選舉に關しても、反革命者を除く外、選舉に制限なく、且つ、最も直接にして最も簡單なる選舉方法を確定し、かくて廣汎なる大衆をして廣く政權に参加せしめ、大衆をしてソヴェート政權が大衆の政權であると認識し、これを敢然として擁護し得せしめるやうにしたのである。

第六節 支那ソヴェートの一般闘争と一般政綱

現在廣汎なる範圍にわたつての支那ソヴェート地域の出現は、主として農民大衆の革命闘争の中に醗酵されたもの

であり、彼等は過去において勇敢に闘争したが、現在においても、不斷の闘争を繼續してソヴェート政權の樹立、反革命勢力の掃蕩、大衆の眞個の解放のために猛然として進みつゝある。しかし彼等の闘争の主要形式は(1)清算、(2)ストライキ、(3)豪紳所有穀物の沒收と所有家畜の沒收、(4)小作料の反對、(5)高利地代反對、(6)苛捐雜税の反對、(7)收捐收稅吏員の罷免、(8)反革命の肅清、(9)積穀の沒收、(10)地主所有穀物の沒收分配、(11)釐金局の廢止、(12)地租專帳、地券、債券の××、(13)帝國主義者の財産沒收、(14)一切の地主所有土地の無償沒收、(15)自衛團の武裝解除、(16)バルチザン部隊の組織、(17)都市の占領、(18)ソヴェート政權の樹立等である。

〔註一〕反革命の掃蕩についての六安第六區の蕭文條例については、拙稿『支那ソヴェートの現勢とその施設』(『東亞』第三卷第十二號)参照

しかし支那大衆のかゝる革命的闘争に對して、ソヴェート政權もまた、すべて帝國主義の××なる經濟的政治侵略、封建的な軍閥制度と官僚制度の統治、地主階級の封建的特權による壓迫搾取、ブルジョアジーの苛酷なる搾取を廢止し、眞に支那の解放と勞農勤勞大衆の解放のために奮闘しつゝあつて、その政權下において、次の『支那ソヴェートの十大政綱』を嚴格に執行すべく決議されてゐる。この十大政綱は、支那共產黨の第六回大會において決定された『支那の十大政綱』から發したものであるが、過去における闘争の經驗が以前より具體的に規定されており、ブルジョア民主主義革命の段階の特性を表示するものである。

1、帝國主義の一切の特權を取消し、帝國主義が從來強制的に締結せしめ及び國民黨が獻媚賣國的に締結した一切の條約を完全に無効にし、一切の外債を取消し、一切の在支帝國主義銀行企業及び工場を取消すこと。

2、軍閥制度を取消し、勞農の獨裁を實行し、現在の兵士には土地と職業を與へ、官僚制度を取消し、勞農兵貧民の代表會議によつて政權を管理すること。

3、勞働保護法を頒布し、八時間勞働制を實行し、幼年工は毎日六時間勞働とし、普遍的に勞賃を増加し、最低勞賃を毎月四十元に規定し、女工の産前産後の休暇は八週間とし、その勞賃は規定通り支給し、資本家に對しては失業保險料を徴收して失業勞働者を救済し、社會保險制度を實行して勞働者の疾病養育老弱等を救済し、勞働検査所を設立し、勞働組合代表をこれに参加せしめて本法令の實行を監督せしめ、若し資本家にして勞働法に違反したる場合には、必ず嚴重に處分し、事情によつてはその工場を沒收すること。

4、地主階級の土地を沒收し、教會、廟宇、祠堂の占有する土地及び反革命的な富農の土地を沒收して、土地を占有せずまたは土地の少い農民に分配して使用せしめ、土地の賣買小作擔保制度を禁止して、一切の封建的搾取を廢し、且つ土地の國有を實行すること。

5、民族自決の原則に根據し、一切の少數民族は完全に分立し及び自由に聯合する權利を有すること。

6、一切の革命大衆は完全なる集會結社言論罷工の自由權を有すること。

7、一切の苛捐雜税を取消し、統一累進税を實行すること。

8、政府は農民銀行を設立し、農民に資本を貸與して、高利貸資本の搾取を消滅せしめ、組合事業組織を援助して、投機商人の詐欺的搾取を消滅せしめること。

9、政府は水利を建設し、新式農具を供給し、種子を改良し、共營農場を獎勵して、農業生産を向上せしめること。

10、ソヴェート聯邦及び全世界のプロレタリアートと聯合し、一切の被壓迫民族の革命運動を援助すること。

第七節 支那ソヴェートの革命闘争と軍事政策

支那ソヴェートは、遊撃隊、及び共産軍によつて建設擁護されてゐるが、ソヴェート地域の擴大にはこれらの武装勢力による軍事勢力の擴大と統一的指導を必要とする。かくてソヴェート地域外においても、軍閥軍隊への×××、勞農大衆の××が實行され、勞農大衆の×××が廣汎に計畫實行されつゝあるが、殊に×××の擴大強化は、最も重要視されてゐる。

かくて一九二八年の支那共産黨大會は、現下における支那農村の諸條件に適應して、バルチザン闘争及び自然發生的×××の中に、共産軍を建設し、且つでき得る限り×××の組織を擴大することをもつて、支那×××の主要條件の一であると指摘したが、またバルチザン闘争を充分に組織化することができなかつた。そこで、一九二九年六——七月の第二回擴大會議は、バルチザン闘争をより組織化し、×××の擴大を計ることの重要なことを指摘したが、それでもまだ、「×××の行動は、客觀的及び主觀的條件、すなはち軍閥戦争の狀態、××××の組織的成分及びその地理的條件によつて決定されるべきもので、機械的に一般的指示を與ふべきものではない」といふ程度であつた。しかるに×××の偉大なる發展と闘争の經驗に基づいて、今や明確にその方向を指示するやうになつた。すなはち第一回全國ソヴェート地域代表大會は「全國的ソヴェート政權樹立のためにはより激烈なる階級闘争を避くべからざるものと認むるが故に、支那×××の大擴張を期す」と宣言し、この問題が徹底的に討論された結果、共産軍の今後の發展方向は重要交通路及び主要都市たるべきことを確定し、これがためには集中進攻法を採り、都市の闘争

及び軍閥軍隊の××の展開に策應して、敵の比較的大部隊の占領及び主要都市の××を期すべきことを決議した。これは支那ソヴェート政權の統一的な軍事政策を確立したもので、その戰術に一新紀元を劃したものと斷ずるに足りる。支那×××の一九三〇年七月前後における中部支那の主要都市への積極的進出殊に武漢の包圍攻勢は、正にこの決議の文字通りの實踐であつたのである。

×××は、支那軍閥軍隊のごとく、政府の軍事指導に干渉し、政治機關を壓迫するがごときことなく、たゞ軍事關係の諸問題は、軍とソヴェートと合同會議において解決される。また×××は、人民の革命的武力で、軍閥軍隊のやうに軍長の私兵ではなく、大衆の解放のために戦ふもので、軍長のために戦ふものではなく、充分に給養され、勇敢なること、軍閥軍隊の比ではない、かくて軍閥軍隊は、精銳なる武器を豊富にもつてはゐるが、×××に向つては苦戦しなければならず、時には革命的武力に對して戦はずして降服するものさへある。現在共産軍の兵士の二七・七二七％は、軍閥軍隊の下で×××をして降服してきたものである。

第八節 支那ソヴェートの經濟闘争と經濟政策

支那ソヴェート地域においては、今もなほ不斷の經濟闘争が行はれてをり、革命大衆は(1)清算、(2)豪紳所有穀物の沒收と家畜の沒收、(3)高利貸の反對、(4)苛捐雜税の反對、(5)收捐收税×××、(6)釐金局の破壊、(7)債券の××等を敢行してゐる。

今具體的に海陸全ソヴェートにおける經濟闘争を見るに、あらゆる耕地の境界線(畦道)——地主所有の限界は、完全に破壊され、地主の私有土地が農民小作人を搾取するためのあらゆる土地借受證書、金錢借用證書などは完全に

××、あらゆる質屋の財物は完全に××されて××入質者である貧民に分配され、あらゆる反革命家、豪紳地主の財産没収によつて、ソヴェート政府の経費に充て、貧民救済に充てられ、公共的建設事業の資金となり、ソヴェート軍隊の擴充に用ひられた。

かく革命大衆が、廣汎な經濟闘争に果敢を實行してゐると同時に、ソヴェート政府は、黨の決議に基づきその地域の經濟的條件にしたがひ、革命的經濟政策を着々と實行してゐるが、今その主要なる施設を見よう。

1、穀物政策

ソヴェート地域外に諸穀物移出のために、穀類集中策を採つてゐる。それは貿易獨占を意味する。また地方にとつては、穀類不足のためにその移出が禁止されてゐるところもある。内部商業も政權の手に集中されつゝある。しかしかかる獨占形態は、穀物を賣却し若くはこれを石油及び工業品と交換するにあつて、種々の經濟的困難を免れない。例へば江西省のソヴェート地域における穀物相場は銀一元につき七擔であるが、地域外の相場は銀一元につき四擔であり、そのためにこの値鞘を利せんとする投機商人がある。これとは逆に、萍郷、醴陽地方は甚だ穀産に乏しく、地域内の消費米麥を移入せねばならない。なほソヴェート政權は食料品のみならず、農産原料——棉花、薪材、紙の獨占權をもつてゐる。

2、小企業政策

製紙地として知らるゝ福建西部のソヴェート政權は、製紙小企業の組織化に努めてゐる。企業繼續の權利は、企業が課税に應じ、且つ八時間労働制及び勞賃値上が承認したる場合にのみ與へられてゐる。但しソヴェート政權の諸課税率が著しく低いために、個人企業は欣然として前記の條件に承服してゐる。小商人の投機行爲の默認は、投機を絶

滅しては商品取引の困難なるがためである。鑄鐵、陶磁器製造、整理しつゝある。

3、組合政策

兩廣ソヴェート地域はその成立とともに、八時間労働制並に勞賃値上を法律をもつて規定したが、この法律は更に萍郷、醴陵、江西東部、福建西部にも行はれてゐる。兩廣にはすでに手工業労働者の職業組合がある。更に福建ソヴェート地域の二三には生産組合及び消費組合を組織したところもある。

4、金融政策

平民銀行、農民銀行、信用組合が開設された地域もあり、これらは大衆の需要に應じて、生産資本の低利融通を目的とする。

従來、地主、商人、高利貸の借金證書は×××でられ、或るソヴェート地域では、抗債條例といふものが實施され、利子付債務にして、富者が貧者に負へるものは償還し、富者が富者に負へるものはソヴェートに歸し、貧者が富者に負へるものは無効とし、商店間の相互債務等はそのままにすることく規定されてゐる。

5、財政政策

ソヴェート政權の財政は、主として農業に對する累進税によつて維持されてゐるが、地租額はこれを收穫の一〇%乃至一五%を課せられてゐる。この税率は、従來の小作料に比すれば、非常に低いものである。たゞ湖南の平江及び瀏陽地方は、共產軍維持の必要上、この關係において、非常な困難を免れない。

なほ財政は、油、茶、紙、竹木に對する課税、商店、行商に對する課税によつて補助されてゐるが、その税率は軍閥時代に比して、非常に低い、これらの財政政策の綱領は、十大政綱第七條、土地暫行法の第七條に規定されてゐる。

大衆の負擔を軽減し、共産軍の發展を計るために、行政費は非常に整理されつゝある。

6、工業政策

小企業の組織化の外、ソヴェート政權は、自からの財産をもつて平民工場を開設してゐるところもある。

第九節 支那ソヴェートの農民闘争と農業政策

支那ソヴェートの農民大衆は、前に述べたごとく、(1)小作料反對、(2)積穀の均分、(3)地主所有穀物の廉價賣却の××、(4)地租豪帳、地券の××、一切の地主土地の無償沒收等、依然として果敢に闘争しつゝあるが、ソヴェート政權は、土地問題の解決、農業生産の向上のために、徹底的な農業政策を採りつゝある。

従来ソヴェート政權の採つた土地政策を見るに、地主、豪紳、反革命者の土地を沒收し、これを農民に分配使用せしめることであつた。これらの土地を如何に處分するかは、土地委員會によつて行はれるが普通次の方法がとられてゐた。

1、**共耕制度**——ソヴェートによつて沒收された一切の土地を、人口状態を調査して、耕作に堪へ得る労働者を若干組に分ち、他方一郷を單位として土地を若干部分に分け、ソヴェートの指定によつて、或る一組をして一劃の土地を耕作せしめる。そして郷ソヴェートの下に耕作委員會を設け、各組長を指揮し、耕作を指導監督する。生産物は先づソヴェートの手に納め、共同的に分配する。これは湖南、江西、福建の寺社領、公有地等において多く行はれてをり、共營農場の組織である。

2、**分耕制度**——各省委員會の報告によれば、大衆の沒收した土地は、未だ必ずしも全般には分配されてをらぬが

地域によつては、人口或は労働單位に照し、男女同等に分配し、死者の土地はこれを沒收して、更に新に分配する原則を採つたところもある。

しかし土地分配の原則は、地方によつて異なる。例へば湖南省においては、成年農を一人前、青少年及び六十歳以上の老年を半人前に計算して、家族數に應じて分配した。第二の原則は家族數以外に土地の良否を考慮に入れた。更に労働能力を標準に分配を行つた地方もある。何故なれば一定地域の土地を與へた農民にして、生産手段を有しない場合には、土地は未利用のままに放置され若くは賃貸されるからである。土地の分配は、機械的方法を避けて慎重に行はれた。

土地分配の實現された地方の例に徴するに、土地××における富農の役割は、看過し難いものがある。土地分配には富農をも引入れ、その所有地の一部を割取せざるを得ない關係上、彼等の必然的な反抗に當面しなければならぬ。しかも支那農村における窮乏小作農は老大な比率を示し、農民の七五%は土地に不足し、土地の分配を要求する實情にある。例へば福建省の西部地域においては、富農は僅に五%にすぎないが、有力なる反革命者であつた。かくて黨は富農に對して、その雇傭する農業労働者のために八時間労働制を要求し、若しも富農がソヴェート政權に對して反革命的行為を採つた場合には、これを沒收若くは分割して、その所有地を分配した。

3、**春耕條例**——この條例は、「土地農有」(土地は農民の所有に歸する)の原則を根據として發布されたもので、(1)自作農の土地は沒收せず、自身耕作せしめ、(2)地主の土地は沒收して小作農に使用せしめ、(3)反革命者及び公有の土地は沒收して、土地をもたぬ農民に分配して使用せしめた。

その他の農業政策としては、軍閥時代に荒廢し切つた水利施設の修理に、各ソヴェートとも大なる努力を拂ひ、農

民銀行、信用組合を開設し、農民の生産資本殊に農具購入費に低利資金を融通した。これらの農業政策は、國民黨が地権平均、小作料値下、水利の改良等々を口にしながら、實行しないのに比し、より徹底的に革命的農業政策であったが、黨は、過去における諸ソヴェート地域における農民の土地闘争を通じての貴い経験に基づき、これを綜合して、土地暫行法を發布したが、これこそは、その十大政綱とともに共產黨の農業政策を窺ふに足るものである。

十大政綱中農業政策に關するもの――

1、地主階級の土地を沒收し、教會、廟宇、祠堂の占有する土地及び反革命的な富農の土地を沒收して、土地を占有せずまたは土地の少い農民に分配して使用せしめ、土地の賣買、小作、擔保制度を禁止して、一切の封建的搾取を廢止し、且つ土地國有を實行すること(第四條)

2、一切の苛捐雜税を取消し、統一累進税を實行すること(第七條)

3、政府は農民銀行を設立し、農民に資本を貸與して、高利貸資本の搾取を消滅せしめ、組合事業の組織を援助して、投機商人の詐欺的搾取を絶滅せしめること(第八條)

4、政府は水利を建設し、新舊農具を供給し種子を改良し、共營農場を獎勵して農業生産を向上せしめること(第九條)

土地暫行法――

一、すべて地主に屬する土地は、一様に無償にて沒收す。

(註釋)1、凡て土地を占有し自から耕作利用すること能はずして地代を搾取するものを地主とし、かゝる地主の土地は一様に××す。

2、富農にして土地を占有し、自から使用する以外に一部分を他人に賃貸する場合には賃貸部分の土地は一様に××す。

二、すべて祠堂、廟宇、教會、官有財産の占有に屬する土地は一様に無償にて沒收す。

3、これら祠堂、廟宇、教會官有財産等々の土地は大牛豪紳、僧尼、牧師、族長の私有にして、表面上は一姓一族或はその地の農民の公有に屬するも、實際上は族長、會長、豪紳に獨占され、農民の搾取に利用されてをり、それ故にかゝる土地は一様に沒收す。

三、積極的に反革命運動に参加したるもの、土地は無償にて沒收す。

4、革命に反對し及びソヴェートの法令に違反したるもの、土地は一様に沒收す。

5、反革命的富農の土地は一様に沒收すべきも、地主富農に欺瞞影響されてゐる中農貧農大衆は、あらゆる宣傳教育の方法により富農と同視する能はざるものなることを訓練すべし。

四、沒收したる土地は一様にソヴェート政權に歸し土地の少きかまたは土地のなき農民に分配して使用せしむ。一切の土地賣買、

小作、擔保――等々を禁止し、從來の地券、小作契約、擔保契約等は一律に無効とす。

6、土地の賣買、小作擔保制度を取消すは新しき地主豪紳の發生を防止するためなり。

7、農民に分配して使用せしむるものにして、土地を耕作せざるものは土地使用権を享有する事能はず。

五、土地の分配方法は郷ソヴェート代表大會において決定す。

8、土地の分配は郷を以て單位とす。何故なれば各地の關係と土地分配狀況とは極めて複雑なれば一致せる處理方法あるを得ず、たゞ各郷の實際狀況によつてのみ處理方法を決定し得ればなり。

9、土地分配には二種の處理法に依り、一は一切の土地の平均分配にして二はたゞ沒收したる土地を分配するのみにして原來

- の農民には變動なきものなり。分配の標準にも二種あり。一は人口による分配にして、二は労働力に依る分配なり。各郷ソヴェートは該郷の實際状況によりて適當なる處理方法を決定することを得。
- 10、大規模農場は細分することを得ず、共營農場生産組合等を組織して共營生活を實行し、生産力の減退を防止すべきものとす。
- 11、郷ソヴェートにおいて土地分配に困難を發生したるときはソヴェート政權に提出してこれを決定す。
- 12、地主または反動的富農の農具家屋を沒收したるときは農具家屋に缺乏せる農民にこれを分配使用せしむべく故なくして破壊することを得ず。
- 13、郷ソヴェートは耕作労働力に缺乏せる家庭(例へば孤兒、寡婦等のごとき)に對しては、同時に彼等の生活を維持すべき實際方法を決定すべく、最良の方法は社會的救済による處理方法とす。
- 14、赤色地域にしてすでに土地を沒收せるものは舊來のまゝとし、未だ土地を分配せざるものあるときはソヴェート政權の認可を俟つて更に土地分配を決定すべきものとす。
- 15、農業労働者はソヴェート政權の労働法令により特殊の保護を享有するものなれば必ずしも土地の分配に與らず。若しソヴェート會議にして同様に土地分配を決定したるときは、同時に耕牛農具を分配し、彼等を集合して共營農場を組織せしむべし。
- 16、土地分配後には縣ソヴェート政府より土地使用書を受領すべし。

六、大規模の山林、河川、湖沼、鹽田、農場、桑地にして原來政府の經營に屬せるものはすべてソヴェート政權の國家所有に歸す。

七、從來軍閥豪紳が農民を搾取せる地租契稅其他一切の課稅等は一樣に廢止す。土地を使用する農民は相當の公益

費を納付すべく、その額は該地ソヴェートにおいて累進税の原則に基づきこれを規定す。

- 17、從來軍閥豪紳は各種課稅の名義をもつて農民を搾取し、時としては地主の農民に對する搾取よりも更に苛酷なるものあるをもつて一樣にこれを廢止す。
- 18、ソヴェート政權は一切の公益事業、例へば農民銀行の設立生産消費組合の組織教育事業の處理孤兒寡婦の維持等を行ふべく殊に果敢なる革命闘争進行中において共產軍の一切の軍事費用は更に重要なれば、農民は耕作所得の中より相當の公益費を納付すべきものとす。
- 19、累進税の原則とは所謂多きものほど公益費を納付すべき比例も同時に増加すべく、殊に農民労働者を使用して耕作する富農の納付すべき公益費の比例は、獨立労働農民に比して増加すべきをいふ。
- 八、各縣にして特殊の事情あり本法令に包括する能はざるときは縣ソヴェート代表大會に於て處理方法を決議す。
- 九、全國ソヴェート政權が成立し正式の土地法令を頒布したるときは本暫行法令は即時これを廢止す。

第十節 支那ソヴェートの労働闘争と労働政策

支那のプロレタリア大衆は、今なほストライキによる闘争を怠つてゐないが、ソヴェート政權もまた革命的手段によるプロレタリアの解放に努力しつゝある。兩廣ソヴェート地域は、その成立と同時に、八時間労働制並に勞賃値上を法律をもつて規定したが、今やその法律は、その後更に、萍鄉、醴陵、江西東部、福建西部にも行はれた。しかし福建地方の黨員では、まだ黨の力の及び難いやうな手段を憧憬してゐるが、かくのごときは黨が過渡期を経過しつゝあること、それ故に黨の政策が缺の問題の克服に向けらるべきものであることを理解しないためである。例へば穀物

は豊富であつても、商品の不足なソヴェート地域の政權が、労働者の勞賃値上要求に對し壓迫方針を採つたのは、勞賃値上による物價騰貴が農民の生活條件を悪化するからであつた。しかし黨は今や、斷然その革命的な勞働政策を確立した。

十大政綱中勞働政策に關するもの――

1 勞働保護法を頒布し、八時間勞働制を實行し幼年工は毎日六時間勞働とし、普遍的に勞賃を増加し最低勞賃を毎月四十元に規定し、女工の産前産後の休暇を八週間とし、その勞賃は規定通り支給し資本家に對しては失業保険料を徴收して失業労働者を救済し社會保險制度を實行して労働者の疾病養育老弱等を救済し社會保險制度を實行して労働者の疾病養育老弱等を救済し、勞働検査所を設立し勞働組合代表これに参加して本法令の實行を監督する。若し資本家にして勞働法に違反したるときは必ず政府に報告し、事情によつてはその工場を××すること。(第三條)

勞働保護法――

第一章 勞働時間

- 第一條 八時間勞働制を實行す。
- 第二條 未成年労働者の勞働時間は六時間を超過することを不得す。
- 第三條 地下労働及び特殊の苦痛労働においては勞働時間を減少すべし。
- 第四條 夜間労働時間は短縮すべく最長四時間を超過することを不得す。
- 第五條 勞働時間内の休憩時間及び食事時間を規定すべし。
- 第六條 一切の規定外労働を禁止す。

第二章 休憩時間

- 第七條 毎週少なくとも繼續して廿四時間の休憩を與へ規定の勞賃を支給すべし。
- 第八條 左記革命記念日及節季日には作業を停止し休日と與へ規定の勞賃を支給す。
 - 1、二月七日京漢鐵道労働者流血記念
 - 2、五月一日(メーデー)
 - 3、十二月十一日(廣東暴動)
 - 4、新年、端午、中秋等の節季日
 - 5、地方革命記念日

第九條 休日及び記念日節季日前一日の勞働時間は六時間を超過するを得ず。勞賃は規定通り支給す。

第十條 労働者が一年以上繼續労働したる場合には毎年定例休暇を與ふべし。この休暇は少なくとも二週間とし勞賃は規定通り支給す。

第三章 勞賃

第十一條 一般勞賃は該地ソヴェート政府機關規定の最低勞賃(四十元)以下たることを不得す。

第十二條 第九條及び第十條に規定する休憩時間中において、若し該地労働組合が特に労働時間の延長を承認したる場合には、その超過時間の勞賃は倍額を支給すべし。

第十三條 勞賃支拂期は毎週一回と規定すべし、長くとも二週間を過ぐるを得ず。

第十四條 勞賃の支拂は一様に現金また現金と同價の通用紙幣たるを要す。如何なる形式による勞賃の滞拂及び勞賃控除をも禁止す。

第十五條 存工または貯金制度を禁止す。

第十六條 雇主の罰金を禁止す。

第一章 支那ソヴェートの史的發展

第十七條 包工制、包工頭制及び一切これに類似の制度を取消す。

第四章 女工及未成年労働者

第十八條 十六歳未満の男女労働者は絶対に雇傭を禁止す。

第十九條 苦痛過激及び衛生に妨礙ある労働には婦女及び二十歳未満の未成年労働者の従事することを禁止す。

第二十條 婦女及び未成年労働者の夜業及び規定外労働を禁止す。

第二十一條 婦女及び未成年労働者にして成年労働者と同様の労働をなす場合には同様の労働を得べきものとす。

第二十二條 女工は産前産後において各々六週間、月経時においては五日間、完全に労働を停止し規定の労働を支給す。

第二十三條 雇主は女工のために託児所を設置すべく、女工の哺乳時間は毎回少なくとも三十分とし三時間毎たるを要す。この休憩時間にも規定の労働を支給す。

第二十四條 徒弟制度を廢止す

第五章 保障及び救卹

第二十五條 雇主はソヴェート政權の工場法を遵守し工場内に最も完備せる衛生、清潔、危險防止等の諸設備をなし、労働者の健康保持、不幸事件の發生豫防に盡力すべし。

第二十六條 労働者又は労働者の家族に疾病、傷害等の事故の發生したる場合には工場はその恢復まで給費治療せしむべし、この停業期間日の労働は控除することを得ず。

第二十七條 作業のため死傷または癱疾となりたる労働者に對しては政府及び労働組合の規定により救卹金を給與すべし。

第二十八條 雇主は労働組合に出資し労働者文化補助事業を經營せしむべし。

第二十九條 労働組合員が組合事務處理のため作業する能はざるときも規定の労働を支給すべし。

第三十條 雇主が停業を宣告し該地方政府機關の認可を得たるときは少なくとも一個月前に労働者に通知し労働者に最低限度二個月の退職金を支給するを要す。

第三十一條 労働者が事故のため請暇して作業を離れたるときといへども少くとも二個月内ならばその原地位を保持することを許す。

第三十二條 労働者がソヴェート軍隊に服務を命ぜられたるときは工場は労働者一箇月分の手當金を支給すべし。

第六章 労働組合

第三十三條 労働組合は労働者の利益を代表する機關にして労働者を代表し雇主と團體契約を締結する權利を有す。

第三十四條 労働組合は労働者の經濟生活改善及び教育文化補助事業を計畫し並にソヴェート經濟の發展に賛助すべし。

第三十五條 労働組合は労働監察員を派遣し隨時労働保護事業を觀察すべし。

第三十六條 労働組合にして労働者に不利なる労働契約を發見したるときはこれが解除の要求を隨時に提出することを得。

第七章 社會保險

第三十七條 左記各項につき社會保險を實施す。

1、疾病時醫藥手當

2、能力暫時喪失手當（受胎及び病人看護等のごとき）

3、失業手當

4、殘廢老衰手當

5、死亡失踪労働者家族手當

6、養育結婚葬儀非常災難手當

第三十八條 保險を實施する場合にはソヴェート政權の法律により労働者に比例し雇主より保險料を納付せしむべし。

第三十九條 社會保險は労働組合において責任をもつてこれを處理す。

第一章 支那ソヴェートの史的發展

第四十條 雇主にして本法に違反したるときは政府の行政處分または司法處分を受くべきものとす。

第四十一條 勞働保護法違反事件の審理及び處理に關する細則は別にこれを定む。

附 期

第四十二條 本法は第一回ソヴェート代表大會の認可を経たる日より效力を發生す。

第十一節 支那ソヴェートの文化闘争と文化政策

ソヴェート地域において、革命大衆は、舊文に對して依然たる闘争を繼續し、ソヴェート政權の援助の下に、新文化を建設しつゝある。

ソヴェート地域においては、一切の封建的制度、禮教觀念、迷信思想、男女の差別は、すべて完全に打破された。また冠婚葬祭の儀式も、すべて廢除された。ソヴェート地域では、決して宗教撲滅を命令してはゐないが、農民は積極的自發的に神佛の偶像を破壊し、寺院を俱樂部や學校に改造しつゝある。特に青年勞働者農民は、たゞ×××の××のみがその生活を幸福にすることができ、×××や×××の××に、幸福を祈るなどといふことは、全く支配階級がプロレタリアを欺瞞するための手段だといふことを如實に知つてゐる。それ故に、支那在來の『門聯』——門口の兩側に貼る芽出度い文句を書いた紙——の文句も、封建的、宗族的、功利的なものから、共産的、社會的、共同的なものに變つてきた。反動的なポスターは革命的なポスターに變つた。女子は完全に解放され、結納金は廢止され、結婚離婚は絶對自由となり、單にソヴェート政權に登録することによつて、直ちに有效と認められるやうになつた。

ソヴェート政權の布告文は完全に口語體を使用し、稍々大きなソヴェート地域においては、日刊、三日刊または週

刊の革命新聞が発行されてゐるが、その大半は謄寫版刷または石版刷で、稀に活版刷のものもある。これらの新聞は各地の扉や壁の上に貼られ、常に多數の觀衆に圍繞されてゐる。

最近ソヴェート區域を通じて無數の農民俱樂部や地方俱樂部が組織され、俱樂部では反宗教的宣傳及び宗教的先入觀に對する闘争が行はれ、備付の書籍新聞その他各種の娛樂物によつて、農民に讀書と娛樂の便宜を與へ、農民の祈禱を阻止してをり、更に政治消息、勞農大衆の闘争消息、共産軍の進攻消息等が報告され、演説され、または革命歌劇が演ぜられ、大衆は巧にインターナショナル、青年同盟の歌、革命歌を唄ひつゝある。

ソヴェート地域においては、郷から縣市にいたるまで、各種の學校が新たに建設普及され、初等小學、黨學校からレーニン學校、マルクス主義大學までも經營され、讀書には毫も費用を要せず、筆墨、書籍は公給されてゐる。識字運動——文盲退治運動——も盛に行はれてゐる。

醫療機關としては、公共診療所の無料診療、公共藥店の開設を初め、後方病院の設備もあり、こゝでは負傷兵を手厚く治療し、あらゆる樂器や娛樂物が備はつてゐる。

橋梁や道路、運河水路は修築され、交通所が五里毎に開設されて、通信網が形成されてゐる。

乞食、鼠賊には仕事が與へられ、殘廢孤獨のものには土豪劣紳の家屋を與へ、これを給養してゐる。

黨に、阿片の移入に對しては、高率な課税をしてゐるのみで、これを禁止してゐないが、阿片生産を禁止し、阿片税を廢し得ないからである。阿片取引の禁止は、ソヴェート政權の擴大によつてのみ可能である。

第二章 ソヴェート支那の發展過程

第一節 ソヴェート政權の史的發展

支那大革命は、一九二七年において最も高潮に達し、その年の七月十三日に、支那共産黨は國民黨退黨宣言を發表し、七月十五日には國民黨もまた正式に共産黨と分離すべきことの宣言を公にした。支那大革命の第一幕はかくして終結し、同時に重大なる悲劇も、これを起點として開始された。

かくて支那共産黨は、この新なる革命狀勢に適應すべく、同年八月七日、武漢において第一次緊急會議を招集した。これが所謂「八七會議」である。その席上において、完全に國共兩黨提携の戰略を放棄し、政治上においては武装暴動による國民黨政權の顛覆、勞農兵代表のソヴェート政權の建設を決議した。更に十一月に支那共産黨は、擴大會議を招集して、八七會議の決議が完全に正確であることを追認し、これに對して批准を與へた。支那におけるソヴェート政權の建設は實にこの時に始まるのである。

『共産黨の指導する農民組織の破壊と、農村における白色恐怖の横行と、之に伴ふ經濟的壓迫の増加等は、農村における階級衝突と階級闘争とを激甚ならしめ、必然的に新しい革命の爆發の空氣が醸し出されるのであつて、その革命の規模と力とは、現在よりも更に大なるものがあるであらう。プロレタリア黨の系統的な革命的指導の得られない農民運動は極めて無組織な、亂雑な勢に走つて爆發をなして、反動軍閥に苦もなく鎮壓せらるゝ。故に×××現在の最も重要な任務は、系統的に、計畫的に出來得る限り、廣大なる地域に農民の×××を準備し、本年秋の收

穫時期の農村における階級闘争の激甚なるチャンスを利用するにある』——（八月十一日、最近の農民闘争決議案）

かくて、中央臨時政治局常務委員會は、「農村政權を農民協會に屬すること」（同上）

を規走し、こゝにソヴェート政權の建設を目標として、各地に農民暴動が開始されたのである。

貨龍葉挺に指揮されてゐた國民革命軍中、最も革命的な一部隊は、八月一日に、江西省南昌において暴動を起した。この所謂『南昌暴動』は、國民黨の白色恐怖開始後の最初の大規模な武装農民暴動として歴史的な意義をもつてゐる。それは、支那共産黨に對して、農民の革命闘争を如何に指導すべきかの問題を提起し、正しき指導の確立を準備せしめると同時に、海陸豊及び廣東ソヴェートのための前哨戦を意味した。南昌暴動は、失敗に終つたとはいへ、それを火蓋として、湖北、湖南、廣東の諸省では、強大な農民暴動の波が高まり、革命的農民は、夫々の村において、バルチザン隊を組織して、地主の土地を沒收し、小作證書を焼き棄て、土地沒收に着手し、また時としては、地方の小都市を一時的に占領さへもした。バルチザン戦争は、南支那に擴大して、それらは三千、五千、また屢々一萬に及ぶ兵力を有つやうになつた。殊に南昌暴動の敗北によつて分散した軍隊の一部は、海陸豊二縣の農民闘争に参加し、一九二七年十一月十七日には、遂に支那最初のソヴェート政權を樹立した。更に十二月十一日には、廣東の勞働者農民も、ソヴェート政權の樹立を宣言し、三日間國民黨軍隊に對抗して、その政權を保持してゐた。

かくて、海陸豊及び廣東の二つのソヴェート政權の樹立を巨大なる烽火として、支那革命は遂にソヴェート革命の段階に入り、今や支那のソヴェート政權は、單に長江の南北に瀰漫したのみではなく、すでに珠江と長江の流域から、黄河の流域に發展し、更に福建、廣東地方から雲南、四川にまでも發展した。

第二節 ソヴェート政權發生の客觀的條件

これについて、阮嘯仙氏は、次のやうに述べてゐる。

「支那において、全國的に、革命の高潮が到來しないときにおいてさへ、中國の革命大衆は、勞農兵自らのソヴェート政權を要求するのみではなく、支那革命發展の特殊狀況の下においては、確にこの政權を實現することができ、これは革命大衆の主觀的願望（主觀的條件——筆者註）によるのみではなく、客觀上幾つかの條件を具備してゐる。」——「支那ソヴェート」第一〇頁

しからば、その客觀的條件とは何であるか。それについて、阮氏は四つの條件を提出し、それらについて、釋明を試みてゐる。

(一) 支那の經濟的發達が遅れ、且つ地理的に經濟的發達が不平衡な状態にあること

帝國主義は、一體として、全國經濟を支配し、支那をして世界資本主義の附屬物と化し、支那の民族經濟の發展を阻礙してゐる。がしかし、支那はまた各々の異なる帝國主義の侵略の下にあつて、各帝國主義の支那における異なる隸屬を形成し、支那を若干の小部分に分割してゐる。すなはち、帝國主義の支那における手先——軍閥——の地盤割據といふ形式になつてゐる。イギリスは南方においては、香港を中心として、一切を支配し、アメリカもまた、上海を中心として、支那の中部を支配せんとしてをり、××帝國主義は、早くから××を××××とし、東三省及び北方を××××をり、フランス帝國主義は安南を中心として、また雲南、貴州二省に手を伸さんとしてをり、かくて支那には、全國の政治經濟を支配し得る唯一の中心地のないやうにしてしまつた。支那には、ロンドン、ベルリン、パ

リーのやうな全國を支配し得る都市は一つもない。東三省も全國に影響を與へ得る上海と比較しては殆んど問題とはなり得ない、香港の支配下に立つ南方各省においては、上海がなくても、何等問題とはなり得ない。これに反して、帝國主義及びその手先——軍閥買辦政府が、地盤を分割して割據してゐる結果、相互に衝突排擠するといふ對抗狀態を形成し、したがつて各軍閥の割據地盤によつて經濟不平衡の狀態を發生し、したがつて各軍閥の支配區域の鞏固程度も相互に異り、交通不便であり、支配權にも強弱がある。

かくて、かゝる状態の下においては、勞農闘争は、必然的に敵の支配の薄弱な場所に向つて襲撃することになり、またかゝる地方において、地方的なソヴェート政權の建設を開始し得ることになる。それ故に、支那革命には、一省または數省を戦ひ取り、先づこゝにおいて勝利を得るの可能性をもつ、今や支那の赤軍は、すでに敵の主要なる防禦線を衝き破り敵の力の薄弱な地域から突出し、主要なる都市へ進攻しつゝあり、殊に武漢、南昌は、久しく殆んど包圍状態に陥つてゐる。

(二) 支那の豪紳ブルジョア支配が經濟上政治上崩壞過程にあること

國民黨軍閥は、彼等内部の混戦が不斷に爆發し、蔓延するがごとき状態の下では、帝國主義列強が政治上軍事上經濟上激烈に中國の分割を争ひつゝある状況の下では、廣大なる大衆の革命闘争が日々昂揚し展開されつゝある状況の下では決して永く、その必然的崩壞の運命を挽救すべき可能性をもたない。現在全國に普遍化してゐる經濟危機、民族工業の破産、天災飢饉の擴大はより必然的にこの崩壞の速度を増加するものである。殊に、全國に亘る極大なる兵變の傾向は、軍閥軍隊を迅速に瓦解せしめ、ソヴェート地域並に討伐に向へるすべての反動軍隊は、反動軍官の訓練の強化と補充とを通じ、再三再四、赤軍の討伐に従事し、一省乃至數省を包圍しつゝあるとはいへ、彼等内部の衝突

のために一致進行の方法なく、たとへ彼等反動軍官の間に一致があつたとしても、兵變の傾向、赤軍政治宣傳の影響の擴大、大衆の一致團結による闘争の擁護及びそれへの参加の下においては、反動軍隊を果敢に赤軍と正面衝突せしめず、兵士と勞農とを接近せしめず、長驅してソヴェート地域に入らしめない、若しそんなことでもしたら、武器を赤軍に供給し、赤軍を強大にし、ソヴェート地域を擴大するために、客觀的に援助を與へるやうなことになる、彼等は主觀的には、餘り希望しないが、支配権の日々の崩壊、革命状態の日々の展開、それらが必然的に、かゝる條件の下において、ソヴェートを存在し擴大せしめるのである。

(三) 全革命状態の平衡的發展に向ひつゝあること

全國に亘る勞働者のストライキ闘争、反帝國主義運動、國民黨、ブルジョアジー、灰色勞働組合の手先と改組派、解黨派、上海から香港、廣東、汕頭、厦門、九江、景德鎮、漢口、天津、唐山、青島、北平、哈爾濱、小さい町にいたるまで、勞働者の闘争は、いづれも發動してゐる。しかも、極めて迅速に經濟闘争から政治闘争に轉化し、且つ武装衝突を發生し、市街戦にならうとする形勢にさへある。プロレタリア大衆は、鞏固に支那革命を指導し、すべての街頭に於て、公開的な大デモンストレーションをさへ行ひつゝある。兵變は南北に頻發し、大小軍閥の軍隊の間において、『赤軍に投ぜよ』といふスローガンが叫ばれてゐる。都市における貧民及び學生の反租税、集會、結社、出版の自由に對する運動も、日々に勞農闘争と結合されつゝある。農村におけるバルチザン戦争の擴大、地方暴動の成熟、赤軍の中心城市への集中的進攻などが、すべてに勞働者のストライキ、兵士の兵變、自由獲得運動と結合すれば、先づ一省または數省にソヴェート建設の可能となり得る。今では、大部分の赤軍は武漢を包圍し、南昌を奪取せんとてゐるが、これこそは、勞農兵の協同爆發による革命の高潮である。ソヴェート建設への直接行動である。ソヴェー

トは、かゝる條件の下において、將に積極的に擴大し、全國的な勝利を獲得しようとしてゐる。

(四) 土地革命の深化すること

土地なく、また土地少き支那農民大衆は、土地を獨占せる地主階級の封建的束縛と搾取を受け、豪紳地主階級の支配と極端に無情な慘殺を受け、全國的經濟危機と農業破産の刺戟を受けて、土地獲得、封建的支配の束縛からの解放を要求することは、何にもまして切實である。その上に、軍閥の混戦と帝國主義侵略の緊化があり、そのために農村を急激に破産し、農民大衆は貧困、流離、絶命の窮地にあり、土地革命を實行し、土地の沒收分配を實行し、豪紳地主の農村政權を打倒する以外に、進むべき活路をもつてゐない。福建西部、江西西南部、廣東廣江、湖北西北部各地方においては、すでに自動的に、土地を沒收分配し、農民自身の農村ソヴェート政權を組織してゐる。そのために農民は、土地を得、封建地主の束縛から解放されやうとして、自らの政權——ソヴェートを、自ら熱烈に擁護するやうになる。ソヴェートが農民の土地革命の深化の裡から發生したことは、一點疑の餘地ないところである。ソヴェートは、この土地闘争の條件の下に、發生し存在し、擴大するものである。鍍拳氏も、土地革命とソヴェート政權並に赤軍との關係について、次のごとく述べてゐる。……

『支那における赤軍の發生が、全國的範圍に亘る革命高潮前にあるのは、ソヴェート地域が全國的な革命高潮前に存在してゐると同様に、幾多の客觀的條件があるからである。殊に注意せねばならぬことは、支那農村における階級闘争の激化が全國的な革命高潮の到來前に、實際的に土地革命闘争を發生せしめ、地主階級の土地を奪取分配せしめるやうになつたが、かゝる武装闘争の中には、必然的に政權を成立せしめ必然的に赤軍を發生せしめる』

第三節 ソヴェート政權の本質

ウエ・ネフスキー氏によれば、ソヴェートは、革命の過程のうちに発生したところの闘争の機關であり、民衆の闘争的創造性の所産である。それは、上からの命令によつてではなく、闘争的創造の成果として自然生長的に成生したものである。それは、ある學者の書齋や、組織者の頭腦の内で創造されたものでも、豫定の計畫によつて造り出されたものでもない。闘争の坩堝のうちに、作業場や工場のように、労働者大衆の闘争機關として生れたものである。それはまた、絶対専制支配とブルジョアジーとに對する闘争に蹶起した革命的な労働者——農民——革命大衆の直接の所産なのである。

しかして、レーニンが、ロシアにおける一九〇五年のソヴェートの本質として、極めて正確に規定づけたところを見るに、彼によれば、この組織は、最も重要な三つの特徴を備へてゐた。すなはち、一、闘争的な組織であり、二、自然成長的に生成したものであり、三、民衆の、労働者農民の、眞の大衆組織であつた、ことがそれである。……だがレーニンは一九〇六年にいたつて、ソヴェートの経験をより綿密に批判し、前記三つの主要なる特徴に加ふるに、更に二つの特徴をもつてした、すなはち、一、一九〇五年の労働者ソヴェートが、革命的社會民主主義者（ボルシェビキ）と、革命的小ブルジョア（メンセビキ及びエス・エル）竝に黨外の革命的労働者の戦闘同盟であること、二、ソヴェートが、新しき政治的権力の萌芽であり、プロレタリアートと革命的農民との闘争の核心であることの二つである。

これが、レーニンによつて與へられた一九〇五年のロシアに於けるソヴェートの本質であつたのであるが、これに

よつて、一九三〇年の支那におけるソヴェートの本質も、略ぼ察知することができると思ふ。

しかし、支那ソヴェートの特質は、より具體的に研究することにより、レーニンが一九〇五年のロシアに於けるソヴェートについて規定した本質より、別個のものを發見し得るであらうと思ふが、從來その研究が、支那共産黨によつても、我が新興支那の研究家によつても、成し遂げられてゐないから、それは他日の研究に譲ることにする。なほ、一九三〇年の支那ソヴェートの起源、暴動の機關としてのソヴェート、その形態、その構造等についても、正確に研究しなければぬが、それは、單に問題の提起にのみ止めて、他日の研究に譲るであらう。

〔註一〕 レーニンその他著、北脇俊三譯『一九〇五年の意義と教訓』（白揚社版）第四九—五〇頁

〔註二〕 同 上

第四節 ソヴェート政權建設の戰略的發展

一九二七年八月の會議に於いて、『中國共産黨の政治的任務と戰略の議案』が決議されたが、それは、中國の革命運動史上、歴史的な重要性をもつものである。それによれば、過去に於ける共産黨の日和見主義が労働運動の發展の障礙たりしことを嚴重に批判し、労働者農民自身の政權革設、プロレタリア獨裁への前進を明白に高唱し、實際戰術としての労働大衆の武装暴動を組織するために、各地に革命委員會を設け、臨時革命政府の性質を保持せしめ、暴動勝利の後にソヴェート代表會議を組織して政權をこれに引繼ぐ過程の詳細なる解明を試み、『土地革命を中樞とすべき段階においては、その障礙たる地主、劣紳、軍閥、反動ブルジョアジーの打倒』を當面の任務と定めた。この新戰術は、國民政府勢力圏内において、廣汎なる武装暴動を展開し、湖南、湖北、江西、廣東に六十餘箇所のソヴェートを出現

せしめた。次いで十一月、支那共産党中央執行委員會は、政治狀勢に關する決議をなしたが、それによれば、南昌會議以後三箇月間の叛亂企圖は、失敗したにも拘らず、革命のかゝる部分的失敗は、黨の戰略の非妥當性を立證するものではなく、情勢の新形相を詳察して、これに適應すべき戰術を決定することこそ、黨の任務であるとなし。

「現下の狀勢に處する中國共産黨の一般戰略は、一、大衆の自然發生的闘争に高度の組織性を與へ、二、相互に聯絡なき農民暴動を可能の限り廣汎なる農民武裝隊に結合すること、三、プロレタリアの爆發と農民運動を相互に聯絡援助せしめること等々である。

しかして若し、農民暴動が比較的廣汎なる勝利の見込なき場合には、黨はこれをバルチザン戦争に指導し、政權が一定区域内において、比較的長期に維持し得らるゝ場合には、ソヴェートを建設し、一切の反革命分子に對しては苛責なき彈壓を加へ、「地主の土地を沒收し、ソヴェートにおいて貧農に分配す」を土地革命のスローガンとし、極力貧乏大衆を勞農革命に参加せしむべきもの」

とした。かの歴史的意義を有する廣東コミューンの出現は、この十一月會議直後の十二月十一日であつた。

この廣東ソヴェート政權は、僅か三日にして粉砕され、コミンテルンは、再びその戰略を更新するの必要に當面し一九二八年二月十五日、支那問題に關する決議をなした。それによれば、

「コミンテルン執行委員會は、支那革命運動の一般的經驗を評價して、その經驗に基く教訓を黨支部にまで移さねばならぬことを認める。廣東暴動は支那プロレタリアがソヴェート政權を建設した英雄的試驗であり、勞農革命の發展に對して、極めて大なる作用をもつてゐる。がしかし、そこにまた、指導機關の若干の誤謬が暴露されてゐる。すなはち、勞農大衆の中における準備活動が不充分であり、敵軍内における活動が不充分であり、灰色組合員に對

する態度が不正確であり、黨部及び青年團自身に對する準備が不充分であつたこと、などがそれである。中央が全然、廣東事件の通知を受けてゐないこと、大衆の政治的動員の薄弱（廣汎な政治的ストライキの缺如、選舉された廣東のソヴェートが暴動の機關でなかつたこと）については、直接指導者が責任を負はねばならぬが、それは、政治上、コミンテルン執行委員會に對して責任を負ふ同志（某同志及びその他）である。かく指導方面に錯誤があつたとはいへ、廣東暴動は、支那プロレタリアの極大なる英雄的精神の模範と認むべきもので、彼等こそは、確に、支那大革命のヘゲモニーを獲得すべき歴史的使命を負ふ資格あるものである」

かくて、その決議案は、將來の戰略について、次のごとく規定してゐる……：

「堅決に、プロレタリアート内の或種分子の盲動主義に反對し、準備なく組織なき都市農村の暴動に反對し、暴動の遊戯化に反對しなければならぬ、勞農の大衆的暴動をなさないで、暴動を遊戯化することは、革命を消滅せしめる「正しい方法」である。黨が、各省における農民の自然的バルチザン闘争を指導するには、この農民暴動が全國的暴動の勝利の出発点たり得るのは、それがプロレタリア中心の新たな革命の高潮と聯絡されるといふ條件の下に、おいてのみだ、といふことに注意しなければならぬ。そこで黨は、自己の主要なる任務が、都市と農村との適當なる配合になる煽動を準備し、隣接數省間における適當なる配合による、煽動を準備し、且つ組織あり用意ある、廣汎なる範圍に亘る煽動を準備するにあるものと見なければならぬ。それがためには、バルチザン戦争の偏愛に反對し、散亂し、相互に聯絡なく、必ず失敗を招くやうなバルチザン戦争に反對しなければならぬ（かゝる危険は、西湖において、かつて經驗された）必ず、經常的に動搖することなく、農民の煽動を組織せねばならぬが、それには黨は先づ支那各省の各種異なる特殊條件に注意すべきである。かゝる不同の條件は、先づ共産黨指導の下にあるソヴ

エート区域内において、評價すべきものである。且つ、コミンテルン執行委員会は、ソヴェート化する区域内における黨の主要なる任務は、土地革命を實行し、赤軍支隊を組織し、この軍隊が漸次に結成されて全国的な支那赤軍になるやう準備することにある、と認める』

次いで一九二八年六月に開催されたコミンテルン第六回世界大會の、支那問題に關するテーゼ及び決議は、前記二月決議の精神を展開して詳細を、極めてゐる。

〔註一〕「ソヴェート聯邦事情」第一卷第五號第二三—二四頁

一九二八年の支那共產黨第六回大會は、コミンテルンの決議に基き、支那ソヴェートの政權の建設について、世界資本主義の第三期に應はしく、盲動主義を排斥し、大衆獲得を主要任務とし、國民黨政權の顛覆、武装暴動準備、勞農兵代表のソヴェート政權の建設を宣傳上のスローガンとして決定した。しかしてソヴェート政權の建設については、『反動勢力の支配は、各地域において、鞏固の程度が不平衡であるから、すべての新しい革命の高潮の下においてのみ、革命は一省または數省の重要省區において、先づ勝利を得ることができ』

と規定し、一省または數省において、ソヴェート政權を建設し、全国的革命權を樹立すべく準備することが、支那共產黨の當面における一般戦略の根幹となされたのである。

越えて一九二六年六月七月、第二回擴大會議が開催されたが、それは、第六回大會後一箇年間の狀勢の推移を審かに検討し、將來の方針を指示した。今回會議政治決議中「黨の一般方針と基本任務」の項に規定された農民運動の指導方針を摘録する……

「一、土地革命を擴大すること

大革命失敗後二年の今日、各地におけるソヴェート地域及び赤軍の依然たる存続發展の事實は、軍閥戰爭の繼續に因ること固よりであるが、その基本的原因は農民大衆土地獲得闘争の發展にある。しかして、土地革命の徹底的完成は、勿論全國勞農運動が政權獲得後に實現されるべきものであるが、しかし、勞農革命の最後の勝利なくして、一切の農村土地革命なし、と見るのは一の誤謬である。現在の客觀的諸條件は、農民の土地革命の發展過程において赤軍を建設し、革命の高潮を煽動することを命ずる。故に黨は廣汎なる農民大衆の土地獲得闘争を積極的に誘發指導せねばならない。

二、農民に對する指導を強化し更に計畫的に運動を進行せしめること

過去一箇年間、農民運動の不斷の發展にも拘らず、これに對して、黨は計畫的指導を與へなかつた。すなはち、農民運動の大部分は自然發生的形態を採り、それがために多くは、偏僻の地方に發展して、主要産業地域及び中心都市の周圍には極めて少かつた。かくのごときは、黨の政權奪取の任務より見て、重大なる缺陷がある。農民運動の中心のスローガンは、疑もなく、家主階級の土地を沒收して農民代表會議の處理に委せよであるが、過去二箇年間土地革命の經驗は、農村土地革命における富農の反革命性を明白にした。故に今後土地革命の實踐に當つては、更に一步を進めて、富農反對を叫ばねばならない。すなはち、富農のヘゲモニーを貧農の手に奪取することは、黨にとつて焦眉の問題である。かくて黨は、農民大衆を組織的闘争に驅り、その武装を擴大し、農村の階級分化を促進し、且つバルチザン戰爭の新團體を作り、ソヴェート建設の方針をもつて進まねばならない。

三、バルチザン戰爭を指導してソヴェート地域を擴大し赤軍を建設すること

曩に第六回大會は、現下支那農村の諸條件に適應して、バルチザン戰爭及び自然發生的暴動中に赤軍を建設し、

同時にソヴェート地域において、徹底的に黨の土地政策を實行することにより、ソヴェート地域を擴大し、且つ可能の限り、赤軍の組織を擴大することをもつて、支那革命高潮の主要条件の一であると指摘した。過去一年間の農村革命過程において自發的武装暴動の頻發、バルチザン戦争の擴大並に赤軍組織の新たな發展の事實は、確に看取さるゝところであるが、黨は更にバルチザン戦争をより組織化することにより、農民革命のスローガンをより正確に實行することにより、盲動主義や放火殺人主義その他の誤れる行動を、斷乎として糾正することによつて、より廣汎なる大衆の擁護を實現することができるのである。尙ほ赤軍の行動は、客觀的及び主觀的條件、すなはち、軍閥戦争の形勢、農民闘争の状況、赤軍の組織的成分及びその地理的條件によつて決定さるべきもので、機械的な一般的指示を與ふべきものではない^(三)。

(註二) 同上 第二五—二六頁

かくして、支那のソヴェート運動は、南方においては、著しく擴大深化し來り、スターリン氏は、一九三〇年六月二十七日の日ソ聯共産黨第十六會大會の席上において、支那の状況に言及して次のごとく述べてゐる。

『支那の労働者と農民は、すべにソヴェートと赤軍を組織することによつて、帝國主義の殘忍なる軍閥戦争惹起の事實に答へた。すでにソヴェート政府が作られたといふ報告にも接してゐる。若しそれが事實としても、自分は何も不思議ではないと思ふ。何となれば、ソヴェートのみが、支那を最後の崩壊と貧窮とから救ふものであるからである』——英文「インプレコル」七月三日版

コミンテルン政治秘書處もまた、六月二十三日附『支那問題に關する決議』を通過せしめ、支那革命運動の新たな高潮は、すでに争ふべからざる事實となり、それは右傾日和見主義的投降派、トロツキズム、陳獨秀主義その他の

解黨派の豫言と全然相反してゐる」とし、支那共産黨の進むべき途を指示した。その中に農民運動に關する指導方針を摘録しやう……

一、ソヴェート中央政權を組織すること

この任務は最も重要な意義を有するものであるが、この問題について、黨は、最も保障ある地域において、眞の赤軍——完全に共産黨の指導に従ひこの政權の支柱となるに足る赤軍——を建設することに注意せねばならぬ。

かくてのみ、この政權は相當の力と意義とを有することができる。そのためには、注意を赤軍の組織強化に集中し、

かくて將來軍事、政治上の環境によつて、一つ又は數個の工業上、政治上の中心都市を占領するに便すべきである。

二、ソヴェート政權は、紳士、富農、半地主等の選舉權を剝奪し、農民協會をソヴェートに發展せしめること

ソヴェート政府の組織は、全然選舉の原則により、紳士富農半地主の選舉權を剝奪すべく、黨は、農村ソヴェートをもつて、ソヴェート地域内において農民大衆を組織する主要形態と認めねばならぬ。故に、農民協會に對しては、漸次農民代表會議(ソヴェート)に變化せしめる方針を採るべきである。

三、ソヴェート地域内の中心問題は土地問題の解決であること

土地革命を推進する力は農業労働者、貧農であらねばならぬ。彼等と中農と鞏固なる聯盟を結成し、プロレタリア指導の下に、斷乎として富農に反對しなければならぬ。

四、ソヴェート地域内の經濟政策としては尙早な方法を避くべきこと

黨は、農民大衆をして黨の指導から離せしめるごとき方法を實行すべきではない。商業は自由に放任すべく、暫く、土地賣買の禁止、供給の集中、域内商業の制限、物價の調節をなしてはならぬ。但し鹽、石油等は例外である。

五、ソヴェト地域外の労働運動、農民運動を進展せしめること

ソヴェト地域内の行動は、全支那に亘る行動と連絡がなければならぬ。日々に昂揚しつつある革命高漲の條件の下における黨の主要任務は、徹底的にプロレタリアートのヘゲモニーの實行を保障することであり、かゝる條件の下においてのみ、農民大衆の闘争は、勝利的に前進することができる。ソヴェト地域外の農民運動、殊に飢饉地方または軍閥戦争發生地域に近接せる地方におけるそれにおいては、納税反對運動を發展せしめ、バルチザン戦争を喚起し、ソヴェト地域擁護を叫び、反動勢力の武装解除により、赤衛隊または少年先鋒隊を組織しなければならぬ。

以上のごときコミンテルンの決議は、九月廬山で開催された支那共産黨第三次擴大會議において接受されたのである。これより先、七月下旬には、長沙は赤軍に占領され、十日間こゝに長沙ソヴェトが成立し、支那ソヴェト建設運動はこの最高頂に達し、武漢も包圍されるやうな形勢になつたのである。がしかし、北方における軍閥戦争の一時の妥協による政府軍の南下は、赤軍の發展にとつて、大なる障礙となつて現はれた。

第五節 ソヴェト建設運動の外観的發展

支那における地方ソヴェト政權の擴大とともに、支那共産黨は、一九三〇年二月四日附中央通告第六十八號をもつて、全國ソヴェト地域代表大會招集を各機關へ指令し、五月五日から十二日まで、上海に大會準備會が開かれ、黨、全國總工會、及び各ソヴェト地域の代表者達五十七名が集つた。正式大會は、その後某ソヴェト地域内で行はれたが、この大會は宣言、十大政綱、土地暫行法、組織法、労働保護法の外、支那における革命の波の昂揚に鑑み

て、全國的なソヴェト政權——すなはちソヴェト支那中央政府の樹立が、支那地方ソヴェトを統制し、支那革命の勝利を保障するに必要な役割をなすものとして、適當の時期に、全國ソヴェト代表大會を招集すべきことを、満場一致をもつて、可決したのであつた。この決定に基いて、全國ソヴェト地域代表大會主席團は、全國ソヴェト代表大會の招集にソヴェト中央政府の樹立に關する諸般の準備を進行することとなり、七月二十三日、上海にソヴェト中央準備委員會臨時常務委員會が組織され、支那共産黨中央、全國總工會、支那共産青年團、中央革命互濟會總會、上海工會聯合會、反帝國主義同盟、自由運動同盟、左翼作家聯盟、社會科學家聯盟から、委員九名これに参加し、その第一回臨時常務委員會において、自らの組織大綱十一箇條を決定する外、一箇月内に全國の労働組合、農民委員會、ソヴェト地域、赤軍及び各革命團體代表の全體會議を招集し、正式に中央準備委員會を成立せしむべき工作大綱十二箇條を決定した。更に着々準備を進め、八月二十日には、正式に中央準備委員會を成立せしむべく、代表全體會議招集の筈であつたが、白色恐怖のために代表の出席不能となり、九月十日にいたり、八月二十日の會合を取消し、上海在住の代表のみをもつて、會合することになり、九月十二日全委員の三分の二、すなはち三十名の出席を得て、漸く開會するにいたつたと傳へられる。この會議において、十一月七日豫定の全國ソヴェト代表大會招集を十二月十一日に變更し、支那共産黨の提出にかゝる『ソヴェト共和國憲法大綱草案』を通過した。かくて中央委員會は、九月二十六日附中央通告第九十號をもつて、全國ソヴェト代表大會の出席代表選舉に關する指令を發したが、その後黨内の紛糾と白色恐怖のため、中央準備委員會は、十二月十八日、上海に各革命團體の代表十五名、を招集して會議を開き、全國ソヴェト代表大會の招集を本年二月七日に延期することに決定したが、これまた第四次擴大會議の結果、暫く延期される外なくなつた。

かくて、一時ソヴェート中央政府樹立にまで達しやうとし、外観的には、支那のソヴェート建設運動は實に、驚異的な發展をなしたが、今や党内の紛糾につれて、一時停頓状態にある。

〔註一〕 拙稿『支那ソヴェートの現勢とその施設』（『東亞』第三卷第十二號参照）

〔註二〕 同上

第六節 第四回擴大會議における誤謬の清算と

黨のボルセヴィキ化

第四回擴大會議は、中國共產黨の從來の誤謬は李立三同志と彼を援助した同志調和派の同志達が、コミンテルン執行委員会の指令と警告とを閉却した結果であり、李立三の誤謬は、個別的偶然的な誤謬ではなく、幾多の×××觀點を聯系して形成されてゐる一貫せる反レーニン主義的系統であり、それは實質上は、トロツキー主義的理論の再演であり、全然コミンテルンのコースに矛盾し、左翼的言辭をもつて蔽はれてゐる日和見主義であると承認した。

そして李立三は、モスコに召還され、瞿秋白、向忠發は中央政治局を去り、これに代つて、久しくロシアにゐた張國壽、陳詔玉、何孟雄等がこれに代つて、李立三コースを糾正し、一切の誤謬を克服すべく、コミンテルンのコースにより黨のボルシェヴィキ化をなすことになつた。

しかし、この第四回擴大會議は、ソヴェート運動に關して、如何に從來の誤謬を認識したか。今その決議を見るに、次のごとくである……

一、一揆主義の克服

「幾たびか、純粹一揆主義の方法によつて、暴動を舉行し、環境も評價せず、必要な前提と準備もなさなかつた」

二、ソヴェート地域外の農民運動の展開

「党内の指導は、非ソヴェート地域の農民運動における日常闘争に對して、殆んど何等の注意も加へなかつた。そのために、非ソヴェート地域の農村の中における農民運動の闘争を指導發展し、漸次向上せしめ、これをして直接にソヴェート運動を援助し且つこれに参加せしめるといふ程度に達せしめる任務も、全然放棄された」

これは、コミンテルンが中國共產黨に課した、現在の全環境が即時實行することを要求してゐるものとして認めてゐる主要なる實際的任務の第三に相當する。

三、赤衛武力の過大評價克服

「李立三の立場から發生した極悪の誤謬は、ソヴェート地域においても發生し、それは赤衛軍の鞏固と發展に對して、極悪な影響を興へた。吾々が何ら鞏固な後方もたさず、何ら必要な準備活動もなさず、吾々が充分な力と大衆の援助をもたないときに、時期尙早に冒險的固執的に大都市奪取を指令した。長沙の失敗もまたこの誤謬によるのである。」

これは赤衛軍武力の過大評價に對する誤謬を承認し、更に赤衛軍の改造が行はれつゝあるやうである。

「赤衛軍の戦闘過程において、直ちに眞の勞農赤衛軍を團結鍛練し、闘争中の農民運動、都市の勞働者及び失業勞働者を動員し、赤衛軍に加入せしめ、赤衛軍の分子を改善せねばならぬ」（一九三二年二月二日「實話」第八期）

また上海の革命互濟會、反帝大同盟の諸革命團體は、その第二回聯席會議において、次のごとく決議してゐる。

「廣大なる窮乏勞働者大衆を募集し、ソヴェート地域に派遣し、赤衛軍に参加せしめ、赤衛軍の組織と指導を強化

せしめる」(一九三二年三月二日「紅旗日報」)

これは、コミンテルンが、現在の赤衛軍はまさにプロレタリアートの指導する真正なる労働者農民の軍隊に變へらるべきである。ソヴェート、労働組合、及び貧民同盟は、まさに共同努力して、赤衛軍の中に貧農、苦力、農業労働者を充満させるべきである」と指摘せるものを實行したものであり、これによって將來、赤衛軍の社會的要素には、労働者、農民が増大され、眞の勞農赤衛軍となるであらうと思はれる。

四、土地革命の徹底化

第四回擴大會議は、從來における土地革命の不徹底を次のごとくに承認してゐる……：

「ソヴェート地域内においては、李立三の過去における富農と聯合せよといふ理論に對して、充分に堅決な闘争が行はれなかつた。……地方黨部が、全然、李立三の政策による結果を閑却したために、富農分子をして指導機關に侵入し、自己の利益のために、土地革命の結果を獲するを得せしめた」

そして、土地暫行法には、「反革命的富農の土地は一樣に沒收す」と規定され、コミンテルンへの報告には、「黨は先づ富農經濟の雇人のために八時間労働制を要求し、若しも、富農のソヴェート政權に對する反革命的行動を認むる場合はこれを放逐もしくは捕縛し、その所有地を分配する」といはれ、從來は直ちに富農の土地を沒收せず、これと妥協的態度を採つてゐたが、將來は直ちに富農の土地をも沒收する方針を採るにいたつたやうであり、第四回擴大會議において承認された富農への誤れる態度は、こゝに一變されんとしてゐる。來るべきソヴェート第一回全國代表大會に提出さるべき『土地法草案』第三條には、これについて次のごとく規定してゐる。

「中國富農の特性は、半地主と高利貸を兼ねるものであるから、その土地も同様に、沒收分配すべきである」

五、労働組織の擴大

第四回擴大會議は、

「貧農團、農業労働組合、苦力組合の組織に對しても、何らの活動が行はれなかつた」として、これが活動を開始すべく決議してゐる。

六、時期尙早な經濟政策の糾正

これについて、第四回擴大會議は、次のやうに從來の誤謬を承認した……：

「李立三の提議した集團農場及びすべての時期尙早な社會主義的方法は、事實上、富農の地位をしてかへつてより鞏固ならしめざるを得ず、貿易自由と土地賣買を禁止する指令は、ソヴェートの經濟状態をより困難ならしめた。これらの誤謬は、吾々と中農との聯盟をして危害を受けしめ、大多數の農民大衆のソヴェート運動への参加をして、また危害を受けしめた」

かゝる誤謬は、さきに指摘した通りであるが、新しい「土地法草案」には、かゝる誤謬を訂正すべく、

一、大私有地も、ソヴェートを經て、中農貧農に分配する(第一條)

二、現段階においては、土地國有、水利國有についてはたゞその利益を農民に向つて解釋するに止める(第十二條)

三、農民の土地賃貸權、土地賣買權を剝奪すべきでない(同上)

次に「經濟政策草案」を見る。

一、支那の資本家的企業及び手工業的企業は、舊主に保留し、國有で實行しない(一の乙)

二、商業の自由を保證すべく、日常の商品市場關係に干渉すべきではない(二の甲)

三、ソヴェート地域の商業貿易は、對外貿易獨占を實行することはできない（二の乙）
七、ソヴェート政權組織の改善

第四回擴大會議は、從來におけるソヴェート政權組織の缺陷について、次のごとく承認した。

『李立三の指導は、全然、強力なるソヴェート政權機關を樹立することを閉却した』

この缺陷を糾正し、且つ支那南部におけるソヴェート地域の發展に應ずるために、支那共産黨は、農村及び都市において、系統的なソヴェート政府を樹立し、ソヴェート地域の總機關——中央執行委員會——を建設するの任務が課せられたのであるが、この任務の解決を援助すべく、コミンテルンは最近『支那ソヴェートに關する決議案』を通過し、中國共産黨に送付した。それは支那においては『ソヴェート建設條例』と呼ばれてをり、その全文は、次のごとくであるが、これによつて、從來、支那ソヴェート政府組織の不完全は、改善されることと思はれる。

第七節 ソヴェート建設條例

一 暴動過程中に於ける臨時革命政權の組織形態

都市及び農村の労働大衆が壓迫階級に對して武装攻撃をなさんとする場合、或は赤衛軍が某地を占領せんとする場合には必ずその農村或は都市中において、臨時革命政權を組織せねばならぬ。この一時的革命政權は、必ずその事前において該地黨部及び信頼すべき黨外民衆の領袖（労働組合と農民組合）三名乃至五名により、これを組織せねばならぬ。これを名づけて革命委員會とする。ソヴェート政權の勝利以後においては、革命委員會はその軍事的環境に應

じて、下層より選舉によつて新しく改組せらる。革命委員會の任務は、暴動を鼓吹誘導し、軍事的革命勢力を動員して反革命勢力を撲滅し、その武器を奪取するにある。革命委員會は「民衆に告ぐる書」を發表して、ソヴェート政權の任務を説明し、且つ直ちに基本的法令を公布し、反革命の物質的基礎の消滅を宣布して、政權の地位を鞏固にせねばならぬ。ソヴェート選舉の時にあたつては、革命委員會は地主、紳士、土豪、軍閥及び恒常的に農業労働者を使用する富農並に一名以上を使用する市民に對して、その選舉權を剝奪することを公布せねばならぬ。一般民衆、産業手工業労働者、農業プロレタリア、苦力、貧農、中農及び各級赤衛軍兵士は選舉權を享有する。婦人も男子と均しく享有する。青年男女の農民及工業者の子女、即ち獨立の自己經濟生活なき十八歳以上の者と雖、その父母と同様の選舉權を享有せしむる。ソヴェートのこの種社會集團の代表人數は、必ず一定數を確定し、ソヴェートをして鞏固なる無産階級と農業プロレタリアの上に築かねばならぬ。例へば、プロレタリア、農業プロレタリア、苦力は二十五人より一人の代表を選出し、赤衛軍兵士は五十人より一人を、貧農中農よりは百人に一人の代表を選出せしむるがごときである。これは一個の例にすぎない。諸君は該地大衆の社會的構成に根據して變化を加へなければならぬ。但し如何なる場合と雖も、ソヴェートの無産階級の社會的根幹を基礎とし、彼等の成員が選舉の法定數に達しない場合にありても、彼等をして自己の代表をソヴェートに参加せしめなければならぬ。ソヴェート政權の最低級は村ソヴェートである。——（某村労働兵代表會議）、十戸に満たない小村は必ず二個乃至三個の同様なる小村を聯合し共同ソヴェートを成立せしめる。——（某々幾村労働兵代表會議）、村ソヴェート及び數村聯合ソヴェートは必ず代表と候補代表合計五名づつを選出して郷ソヴェートを組成する——（某町を中心として）、選舉を終へたソヴェートは最短期間内に會議を召集し（その會議は必ず當該地域の労働大衆を迎へ参加せしめる）革命委員會の活動を討論し、

彼等の提出する臨時法律を通過し、該ソヴェートの名義に依つて新たな革命法律と法令を制定し、しかる後農民のために分配する。

大規模の建築物を没收してソヴェートの處理に充當し、なほ黨部、農業プロレタリアート、苦力等の組合事務所、俱樂部、讀書室、學校等に分配する。没收した財産は、或は民衆に分配し、或は公共事業に用ゐるが(家屋の建築、書籍の購買等)、それはすべてソヴェートが處分する。ソヴェート成立以前の革命委員會は、革命法廷を成立し、一切の舊官吏を逮捕し、革命法廷に押送し、同時に帝國主義または軍閥に捕はれ獄中にある一切の政治犯人を釋放する。農村と都市の赤衛隊反革命的行動及び投機事業の撲滅等の特別委員會を創設しなければならない。この種機關には舊來の反革命的官僚豪紳、政府の名稱を用ひてはならない。ソヴェート下には、各種の委員會——經濟、財政、教育、總務等を組織し、ソヴェートの執行委員會を組織する。九人以下より組成さるゝ村ソヴェートは一人の書記を選出し、常任としてソヴェートの事務を行はしめる。

町ソヴェート(幾多の村を包括して某町を中心とし成立したるソヴェート)の執行委員會は、三人乃至五人より組成し、小都市——(縣ソヴェート)の執行委員會は代表人數の多少とソヴェート事務の輕重によつて、二十五人乃至三十五人によつてこれを組成する。且つかゝる執行委員會の中から、三人乃至五人の常務委員會、候補常務委員二人を選出する。

ソヴェートをして官僚機關に轉變せしめず、その活動を大衆より疎隔せしめざる見地より、ソヴェートの活動は労働大衆の監視と監督の下において進行さるべくより多くの労働者を吸集してソヴェートの活動に参加せしめなければならない。ソヴェートの會議(村ソヴェート、町ソヴェート、郷ソヴェート執行委員)はプロレタリア、農業プロレ

タリア、苦力及び發言權を有する農民を参加せしむべく、各町村各都市工場等において民衆大會を召集しソヴェートの活動決議を報告し、民衆の賛同を得、参加者の提議及び事務上の指摘、改正は、必ずソヴェート會議に照して通過するを要する。

二 ソヴェート政權の集中化

暴動或は赤衛軍が町村、都市を占領する時にあたつては、隣接する町村、都市を包含するソヴェート大會を召集する。各農村、各都市ソヴェートは代表を派遣してこの大會に参加し、参加代表の數は、各ソヴェート人民の多少地點の重要等によつて決定さるべきであり、無産階級中心都市の代表數は當然他に比較して多數であり、大なる都市ソヴェートは大會を召集する發起者たらねばならない。大會には赤衛軍も代表を参加せしめ、大會は一區或は一縣の事務を討論し、七人乃至十五人の區或は縣執行委員會を選出し、これに一區或は一縣の政權を集中せしめる。

縣或は區ソヴェート大會後、更にもし一縣或ひは一區乃至一省を占領するに至つた時は、必ず省ソヴェート大會を召集する、この大會の参加代表は縣、區ソヴェート大會と同様である。省ソヴェート大會の任務は全省の任務を解決し、省執行委員會を選出樹立し、ソヴェートの版圖を更に擴大せしめ、省ソヴェート成立大會を召集し、支那ソヴェート共和國の建設を實際問題とする。大會はソヴェート共和國の憲法其他基本法律を通過し、省縣、町村ソヴェートの活動を指示確定し、各省縣一致の法律——代表選舉條例、赤衛軍組織等を決定する。最後に中央執行委員會を成立せしめる。成立せる中央執行委員會は次回大會との期間中における最高政權機關であつて、中央執行委員會は臨時革命政府を組織する。

三 ソヴェートと各種社會團體との關係

ソヴェートの各種社會團體に對する關係は、民族解放運動と土地革命の遂行過程における關係如何によつて決定される。

町村と都市ソヴェートはすでに國家政權機關となつてをり、ソヴェートは、プロレタリア、農業プロレタリア、苦力と農村貧民によつて組織し、彼等一般大衆とソヴェートとのより緊密なる經常的連繫をとり、經常的發展を期さねばならぬ。物質的にこれらの團體を援助して、一切の反革命的大經營資本家の攻撃、撲滅をより可能容易たらしめなければならぬ。プロレタリア、農業プロレタリア、苦力等が、彼等の雇主と衝突を惹起せる時は、ソヴェートは、完全に能動的精力的に、労働者側を支持援助し、組織上にあつては必要に應じて、行政的方法を以て剝奪者に迫る。他方黨は中間的組織をもつてプロレタリアートと農民大衆とを一致組織せしめ、ソヴェート反革命に對する闘争のより進展擴大を期し、ソヴェート支配をより鞏固たらしめる。

四 ソヴェート區域の防備

勞農大衆は、英雄的闘争によつて得たソヴェート政權は、經常的な周密な反革命の彈壓攻撃の障礙に遇ふが、反革命勢力の爲に危害を受けざらん事を要求する。民族解放運動と土地革命のためには、政治的經濟的のいづれを問はず、階級敵との闘争には經常的武裝によつて、ソヴェート政權を擁護し、この保障を斷乎として獲得する爲には、あらゆる成年大衆をして軍事訓練を受けしめ、射撃、傷病に關する直接緊急な一切の軍事知識を習得せしめ、且つこれが宣

傳活動をなさしめなければならぬ。同時にソヴェート中においては、選舉權を有するものにして、必ず銃器の使用及び、彈藥裝置、看護を會得せしめ、ソヴェートのより強大なる恒常的武裝の左の如きものが確立しなければならぬ。

町村赤衛軍、都市警備隊、黨部機關、火藥庫、糧食貯藏所、特務處と特務隊。

五 黨のソヴェート中における任務

ソヴェート政權の建設發展に對しては、支那共產黨並に各黨部各黨員は、總て完全なる責任を負ふ。各黨員は必ずより積極的にソヴェート準備活動に参加して、農業プロレタリアート、苦力、プロレタリアートと貧農を支持援助して、最も精悍なる代表を選出し、中農に向つては民族解放運動及び土地革命に最も勇敢、忠實なる代表を選出すべく働きかけねばならない。ソヴェート中における黨員は、必ず黨團——(黨員のみの團體)を組織し、該地黨部の指導を受ける。而して黨團は必ずソヴェートの提案と決議の創始者にして、また大會其他の會議を召集し、これに報告する發起人であつて、ソヴェート活動及び各種ソヴェート委員の活動に注意し、而してすでに選舉權を剝奪せられたる富農分子の反革命的妨害、其他階級敵のソヴェート侵入を防ぎ、廣汎なる無産階級——農業プロレタリアート、貧農及び赤衛軍兵士の積極的分子を目指してより廣汎なる大衆をソヴェートに獲得しなければならぬ。

八、ソヴェート地域の強化と發展

支那の地主階級、國民黨、軍閥は支那におけるソヴェート運動が、彼等にとつて莫大な危害であり、彼等の支配を顛覆する致命傷であることを極めて明白に知つてゐる。それ故に、殊に軍閥の混戦中には國民黨は自己の安全を保持するめに、是非ともソヴェート地域と赤衛軍を消滅しやうとする。そして國民黨の革命への攻勢は、單に武力を利用

するのみではなく、一切の社会的な力を動員してゐる。すなはち武力討伐から、政治的手段をも採つてゐる、例へばソヴェート地域内における残餘の地主と富農分子を利用し、彼等を内應せしめやうとしてゐる、江西省のA・B團、湖北西部の北極會、湖北東北の改組派、江西東北の靖衛團などは、すべてソヴェート破壊の陰謀を進めるべく騒起してゐる。

支那におけるソヴェート運動を、莫大の危害、自らへの致命傷とするものは、獨り支那の地主階級、國民黨、軍閥のみではない、帝國主義も同様である。彼等も支那におけるソヴェート運動の發展が、彼等の支那植民地化の基礎を破壊し、反ソヴェート戦線の弱さを惹き起すものであることを充分に知つてゐる。それ故に、彼等は共同して支那のソヴェート運動の破壊をなすのみでなく、國民黨を援助し、且つ直接に指揮して、これに参加せしめつゝあるのである。これこそ、支那ソヴェート運動にとつての、最大の危機であるのだ。

かゝる環境の下にありながら、従來のソヴェート運動においては、ソヴェート地域の擁護と擴大について、李立三コースの下に、次のやうな誤謬を犯してゐたことは、第四回擴大會議の承認するところである。

『李立三の指導は、全然鞏固なるソヴェート根據地を樹立する任務を閉却し、……且つバルチザン戦争取消の指令を發し、これからすべてはすでに過ぎ去れる段階のものであると認めた。かくて現に軍閥がソヴェート地域を攻撃しつゝあるといふ條件の下において、吾々の陣地をすて、大に薄弱なる状態に陥らしめた。すべてこれらのものが、また、とりもなほさず、赤衛軍が嚴重なる失敗を受けた大部分の原因である』

ついで一九三一年一月二十日、中央政治局は、この決議に基いて、更に詳しく過去におけるソヴェート運動の失敗原因を討議し、次のごとくに決定した。

『吾々の第一回の二つの主要原因を指摘せねばならぬ。第一の原因は、軍事技術上の性質を帯びてゐるものであるが、それは敵の人数が吾々を超過し、武装も吾々に比べて好く、且つ集中的指導等々があつたが、吾々の力は非常に散漫であり（これは吾々を切斷して幾つかの部分とすることができ）吾々には統一的指揮がなく、統一的に吾々の各部分を相互に聯繫せしめる戦略計劃がなかつたことである。第二の原因は、ソヴェート地域内において吾々に指導されてゐる土地、經濟及び組織の政策が誤つてゐたことである。これらの誤謬の結果——第四回擴大會議がすでにこれらの誤謬の實質を指摘してゐるが——、幾つかの地域においては、充分なる大衆的擁護を得ることができなかつた』

かく批判したる上、中央政治局は、『將來における軍事的發展及び誤謬糾正の過程において、この原因はその尖鋭性を失ふだらう』とし、緊切なる任務として次の五項を決議し、もつてソヴェート地域の擁護と擴大に努力すべく規定した……

- 1、最高限度に、ソヴェート地域における鬭争に對する吾々の指導を集中し並に鞏固にする。この目的を達するためには、必ずソヴェート地域における中央の幾分を増加し、直ちに經濟 土地組織に關する政策の誤謬を糾正し、眞の大衆自ら管理するソヴェート政府を樹立し、政府機關、赤衛軍、貧農團を鞏固にする方法を講じ、並にバルチザン運動を發展せしめねばならぬ。
- 2、直ちにソヴェート地域内に労働組合の指導中心を組織するが、その主要任務は、農業労働者及び苦力の労働組合を組織し並に發展せしめる活動である。
- 3、直ちに軍事上の經驗ありまたは軍事上の準備ある共產黨員と青年同盟員を、ソヴェート地域に派遣する。

4、中心都市の労働者及びその他の都市労働者を動員する。この運動は志願を原則とし、黨、青年同盟、赤色労働組合においてこれを行ひ、並に最短期間内に成るべくその活動を完成すべきである。この運動は、ソヴェートの宣傳並に労働者同志を吸収して黨、青年同盟、赤色労働組合へ加入せしめる活動と聯繫せしむべきである。

5、各地の黨部は、最高限度に、敵の軍事的力を破壊する活動を發展し、且つ敵の後方を擾亂する活動を組織し、労働者の闘争とストライキの指導を強化せねばならぬ。これは赤軍の勇敢なる闘争を直接に擁護することになる。しからざれば、ソヴェートのスローガンを忘れ、革命の罪人となるに異ならない」

九、ソヴェート宣傳活動の擴大

第四回擴大會議は、從來におけるソヴェート活動の薄弱であつたことを、次のごとく指摘してゐる。

「廣大なるソヴェート擁護運動の活動をなさず、それは殊に、ソヴェート代表大會招集の準備活動の上に、最も明白に表現されてゐる」

それ故に、前項で見たごとく、ソヴェート地域へのプロレタリアートの派遣に關聯し、また第一回ソヴェート代表大會招集への準備の上に、ソヴェート宣傳活動の擴大が、現に進行しつゝある。

以上の九項に互る検討により判るがごとく、支那共産黨は、コミンテルンが、十一月十六日の抗議的指令において指摘した八つの誤謬を悉く承認し、しかもこれらの誤謬を糾正するために、夫々の積極的手段を確定し、更にその指令が支那共産黨に課した當面の三大任務を遂行すべく確定し、すでに着々その實現に努力しつゝある。

しかも、支那の經濟的危機は、南京政府によつては、徹底的に解決されず、その深化を見つゝあり、且つ軍閥間に

は依然として矛盾が存在し、新しい軍閥戦争爆發の危機を昂進しつゝあれば、北方においても農民運動は漸次に擴大されつゝあり、今後軍閥戦争の爆發ととも、支那のソヴェート運動は、かゝるボルシェヴィキ化された指導と戦術の下に、偉大なる發展を實現し得るであらうが、そのときは、獨り國民黨にとつてのみでなく、帝國主義列強にとつても、一大危機であるといはねばならぬ。——一九三一・四・二七——

第三章 支那ソヴェートの諸問題

——『ソヴェート支那の發展過程』への補遺——

第一節 ソヴェート問題の上程と二つの見解

支那のブルジョア民主主義革命は、大衆政黨たる支那國民黨への支那共產黨の参加により、協同戦線の下に、嵐のやうな勢で、廣東から武漢、上海へと進展してきた。だが、一九二七年四月十二日における上海クーデターを轉換期として右翼國民黨の代表者蔣介石は轉落したが、それは土着ブルジョアジーの革命よりの脱退、國民的革命の中心の發生、及び支那革命に對抗する右翼と帝國主義者との折衝を意味する。爾今支那南部には、二つの陣營、二つの政府、二つの軍隊、二つの中心、すなはち武漢における革命の中心と、南京における反革命の中心が存在するやうになつた。そして支那革命は、このときから、第二の發展段階に入つた。支那において、ソヴェート問題が上程されたのも、また實にこの前後である。

最初に、支那にソヴェートを樹立することの必要を提議したのは、當時支那革命の指導者の一人であつたミフのやうに見受けられる。一九二六年十一月三十日、コミンテルン執行委員會支那委員會においてなされたスターリンの演説『支那革命の展望』には、次のやうに述べられてゐる。

「同志ミフは、支那の農村にソヴェート、農民ソヴェートをつくれといふスローガンが掲げられねばならぬと信じてゐる。私は信ずる。それは一つの誤謬であると。同志ミフは先を急ぎすぎでゐる。支那の工業中心地に包圍され

てゐるは、農村にソヴェートをつくることはできない。しかるにソヴェートを組織する問題は、支那の工業中心地においては、今しばらくの間は、なほ當面の問題となつてゐない。その外、ソヴェートは全狀勢との關聯以外において見られ得ないといふことが考慮されねばならぬ。ソヴェート、しかして現在においては、農民ソヴェートは、支那の工業中心地がすでに堤防を潰し、そしてソヴェートをつくる段階に這入つたと假定して、支那が、舊きものを破壊し新しき權力を創造するところの、農民運動の最高の發展段階を通過するときにのみ、組織され得るであらう。

支那の農民は、そしてまた一般に支那革命は、すでにこの段階に這入つたといひ得るであらうか？ 否、さうはいひ得ない。それ故に、今すぐにソヴェートを云々するのは、發展を飛び越えることだといふのである。今はソヴェートではなくて、農民委員をつくるのが、問題にされねばならぬときである——一九二七、四、二五「支那革命の諸問題」『支那革命論民族問題』第三九—四〇頁

支那ソヴェート問題の最初の提出者は、ミフであつたが、彼はその後その誤謬を棄てた。次に、支那にソヴェート樹立の必要を提議し、しかも執拗に回執して、コミンテルンに對抗したものは、トロツキー並にその一派であるやうに見受けられる。彼は、一九二七年三月二十九日附アルスキー宛の書翰において、次のやうに述べてゐる……

「支那に於いて、何故に、なほソヴェートのスローガンを提出しないのかを、私は全然了解することができないことを、私は承認する。たゞソヴェートのコースにしたがつて結成された階級勢力があつてのみ、進んで革命の新段階に適應し、舊來から繼續されてきた組織と政治關係——國民黨のごとき——に適應させることができる。國民黨が、共產黨の脱退後に、如何に組織されるべきかは、吾々にとつては、第二の問題である。第一の問題は、プロレタ

リア政黨の獨立であり、その都市及び農村における小ブルジョア階級との親密なる協同形態がソヴェートである。ソヴェートは、政權奪取のための闘争機關であり、また政權組織のための機關である。

私は重ねていふ、ソヴェート制を措いては革命運動を監視し組織し、ま 革命政權を産出する他の方法はない、と」

「支那革命問題」(一)第二頁

これを發端として、トロツキーは、「支那革命とスターリンのテーゼ」(一九二七、五、七)「未だ覺醒の時期ではないか」(一九二七、五、一九)「覺醒と矯正の時期は到來した」(一九二七、五、二七)、「漢口とモスコウ」(一九二七、五、二八)、「支那革命におけるソヴェート問題」(一九二七、五、一六)、「支那革命の新段階」(一九二七、八、二二)等において、即時にソヴェートを樹立すべきことを力説してゐる。このトロツキーの見解に賛成するものには、ラデツク、チノヴィエフ、サハロフ、ヤクトキモフ等がある。彼らの見解が正しいか、それともスターリン、ブハーリンの見解が正しいか、これに答へるためには吾々は、先づ第一に、當時の革命狀勢の具體的分析に關する彼等の見解の差異とその當否とを考察せねばならぬ。スターリン、ブハーリンの武漢政府の革命的役割に對する見解は、次のごとくであつた。支那は農業革命を経験しつゝあるが故に、農業革命の勝利はまたブルジョア民主主義革命の勝利である。プロレタリアートと農民との革命的解放の勝利でもあるが故に、南京は國民的反革命の中心地なるも、武漢は支那における革命運動の中心地なるが故に、武漢の國民黨を支持し、この國民黨及びその革命政府へ共產主義者が参加する——國民黨の内外において、プロレタリアート及びその黨のヘゲモニーが確保されるといふ條件の下において——ことは必要なことである。當時の武漢政府は、差し當つてはプロレタリアートと農民との革命的民主主義的革命的機關ではなく、また極く近い將來においてはさうはならないであらう。だがそれは、革命の今後の發展とともに、

この革命の成功とともに、さうした機關に發展するすべてのチャンスをもつてゐる。これがコミンテルンの見解であつた。しかしトロツキー一派の見解は全く事物を別に見てゐる、トロツキーは武漢は一個の擬制であるといひ、チノヴィエフは、武漢はケマルの政府であるといひ、いづれも武漢は革命運動の中心ではないといふ意見である。それ故に、コミンテルンは、ソヴェート問題を尙早とし、トロツキー一派はソヴェート問題を即時に提出するにいたつたのであるが、當時における武漢政府の革命的役割に關しては、當時の狀勢を知るものは、何びとも、コミンテルンの見解が正しく、したがつてソヴェート問題についても、コミンテルンの態度が正しく、トロツキー一派の見解が、二つの點いづれについても、誤つてゐることが判ると思ふ。

今進んで、トロツキー反對派の支那ソヴェート問題に關する見解に對して、スターリンが反駁したところを検討しやう。これによつて、吾々は、現在に見る支那ソヴェートへの認識を深化し得る。

「反對派は、支那に勞働者、農民及び兵士の代表者のソヴェートを即時つくることを要求してゐる。だが、ソヴェートをつくることは、今何を意味するか？ 第一に、それは任意の瞬間につくられるものではない。それは革命の波の特殊の上昇の時期においてのみつくられるものである。第二に、それはおしやべりのためにつくられるものではない。それは、就中現存してゐる權力に對する闘争の機關として、權力のための闘争の機關としてつくられる、一九〇五年(ロシアの)筆者註)においてもさうであつた。一九一七年(同上筆者註)においてもさうであつた。しかし、例へば武漢政府の活動区域内で現在の瞬間においてソヴェートをつくることは何を意味するか、このことは、この領域における現存政權に對する闘争のスローガンを掲げることの意味する。このことは、新しい權力機關をつくるためのスローガンを掲げること、革命的國民黨の政權に對する闘争のスローガンを掲げることの意味す

る。何となれば、この領域においては、現在革命的國民黨以外の他の政権は存在しないのだから、このことは、ストライキ委員会、農民委員会、工場委員会等の形態における労働者及び農民の大衆組織——現在すでに革命的國民黨が基礎としてゐるところの——をつくり、そして確立する任務と、革命的國民黨の政権の代りに國家權力の新しいタイプをしてソヴェート體制をつくる任務とを混同してゐることを意味する。このことは、支那における革命が、現在如何なる段階を通過しつゝあるかを知らないことを意味する。このことは、支那國民の敵の手に、革命に對して闘争し、支那においては、國民革命ではなくて、「モスコのソヴェート化」の人為的な移植が行はれてゐるのだといふ、新しい昔嚳をつくるための新しい武装を渡すことを意味する。それ故、現在の瞬間において、ソヴェートをつくるスローガンを掲げることによつて、反對派は自ら支那革命の敵の役割を果してゐるのである——一九二七、四、『支那革命の諸問題』(支那革命論、民族問題)第三九—四〇頁)

「ブルジョア民主主義革命が完全なる勝利に近づきブルジョア革命の進行中プロレタリア革命への移行の兆候が氣付かれるやうになる瞬間において、——この瞬間において、労働者・農民及び兵士のソヴェートが——二重支配の要因として、新しき權力、ソヴェートの組織のための闘争の機關として、つくられねばならぬ。このときまでに、國民黨内の共産主義者のプロツクは、國民黨外のプロツクによつて置き換へられねばならず、そして共産黨は支那における、新しき、革命の唯一の指導者とならねばならぬ。同志トロツキーやヂノヴィエフのやうに、今、ブルジョア民主主義革命が未だその發展の初めの段階にあり、國民黨が最も適した、そして支那獨特の特殊性に最もよく適合した國民的民主主義的革命的組織形態をなしてゐる今、即時に二重支配をつくることは、革命運動を瓦解せしめ、武漢を弱め、その没落を容易にし、そして張作霖及び蔣介石を助けることを意味する——一九二七、五

二四「支那革命とコミンテルンの任務」(支那革命論民族問題)第七七—八頁)

かくのごとく、スターリンは、一九二七年初頭までは、トロツキー反對派のソヴェート即時樹立といふことには反對したが、見透しとしての支那におけるソヴェート問題を初めて提出したのは、コミンテルンの方が、反對派より遙か以前である。そしてスターリンも、「私は、支那においては、無條件にブルジョア民主主義革命から、プロレタリア革命への過渡期において、労働者農民代表のソヴェートがつくられねばならぬであらうといふ意見をもつものである。労働者農民代表のソヴェートなくしては、かゝる推移は不可能だからである」といつてゐる。コミンテルンはかくて、二三箇月の後、武漢國民黨の首脳部が反革命の陣營へ變節し、小ブルジョア知識階級が、革命に對して變節したときにいたつて、支那ソヴェート問題を、當面のスローガンとした。かくてスターリンはいふ……

「二三箇月前の昨日、支那の共産主義者はソヴェートをつくれといふスローガンを掲げることができなかつた。何となれば、それはわが反對派の得意とする冒險であつたであらうからであり、國民黨首脳部が未だ革命の敵としての信用を失てはゐなかつたからである。これに反して、今ではソヴェートをつくれといふスローガンは、事實上革命的なスローガンとなり得る。若し近しき將來において、一個の新しい有力な革命の波が高まつてくるならば」一九二七、八、二「現下の問題について」(支那革命論民族問題)第一二九頁)

それでもまだ、ソヴェートといふスローガンは、宣傳上のスローガンとなつたままで、行動上のスローガンとはならなかつたし、またなすべきではなかつた。スターリンは續いていふ……

「それ故に、吾々は、現在までに、この波の來ぬ間に、現在の國民黨指導者に代ふるに、革命指導書をもつてするための闘争と相並んで、廣汎なる勤勞大衆の間に、ソヴェートの思想のための包括的なプロバガンダをなさねばならぬ

らぬ——ソヴェートが力強い革命的雰囲気的情勢の裡においてのみ成長し得るものなることを考慮することによつて、事件の先廻りをする事なく、また現在すでにソヴェートを組織するやうな事なく」同上第一二九—三〇、(註) 本項については『支那革命論民族問題』(白揚社發行)を参照されたい。

第二節 支那ソヴェートの起源

ソヴェートといふスローガンが、支那問題について、宣傳上のスローガンが當面に出てきたのは、かくのごとく、コミンテルンにおいては、武漢國民黨が反革命の陣營に變節した後である。それでも、なほ、ソヴェートといふスローガンは、宣傳上においてさへ、支那共産黨のスローガンとなるまでには、幾何かの期間を必要とした。

龍眠氏が『支那におけるソヴェート政權の發展』の中に、次のごとく述べてゐるのを見る……

「一九二七年八月七日、支那共産黨は、第一次緊急會議を招集した。所謂『八七會議』がこれである、この第一次會議の席上において、完全に國共合作の策略を放棄し、政治上においては、武装暴動による國民黨統治の顛覆、労働兵のソヴェート政權建設を決議した」——『滿鐵支那月誌』第三九號、第五一頁

氏は、更に一九二七年一月より五月までの兩湖労働運動の過激時代を、労働政權の試食時代とし(同上、第四七頁)または二重政權時代としてゐる(同上、第四七頁、第五〇頁)しかし私の見るところによれば、その時期はまた二重政權の時代といふことはできず、また『八七會議』においては、ソヴェート政權の建設は決定されはしなかつたのである。今、『八七會議』の決議案を見るに、また農民暴動のスローガンの一として、『農村政權を農民協會へ!』が決定されたのみで、これをもつて、直ちにソヴェート政權の建設が決定されたものと解することはできない。ソヴェート

のスローガンが、支那共産黨に採用されたのは、同年十一月の所謂『十一月會議』においてである。同會議においては、次のごとく規定されてゐる。

「現在の革命段階中においての黨の主要スローガンは、ソヴェートである。プロレタリアートの指導の下に立つ労働民主獨裁制の政權は、たゞソヴェート制の形式の裡においてのみ樹立され得る。黨は、文字、口頭の宣傳において、最も廣汎なる大衆に對して、労働兵手工業労働者都市貧民の代表會議を樹立して、革命闘争を實行する必要——すべての政權を労働兵貧民代表會議へ——を解釋せねばならぬ」

「暴動が勝利したときには、農民協會を農民代表會議に變へねばならぬ。現在においては、ソヴェートのスローガン及び農民協會の過渡的作用を宣傳せねばならぬ。故にソヴェートのスローガンは、決して農民協會を組織すること、衝突はしない。しかし、『農村政權を農民協會へ!』といふスローガンは取消すべきである。ソヴェートのスローガンの外に、なほ農民を土地革命の旗の下に團結せしめねばならぬ。農民暴動が未だ發動しない地方では、秘密農民團體が必要である」

故に、本誌四月號において、龍眠氏の所説に依據し、私が、八七會議において、労働兵代表のソヴェート政權の建設を決議した、といつたのは、誤謬であり、こゝにこれを訂正したいと思ふ。

私は、龍眠氏と同じく、かゝる誤謬を犯したが、更に進んで龍眠氏の次の誤謬を検討したいと思ふ。龍眠氏は、一九二七年一月から五月までの、兩湖労働運動の高潮期をもつて、二重政權の時代とされてゐる。がしかし二重政權は、一統治區域において、反動政權に對して、革命政權——ソヴェートが樹立されてのみ、そのときこそ二重政權の發現といふことができるが、一九二七年一月—五月の期間には、革命的武漢政權に對立して、一つのソヴェートさへ

も、また兩湖においては、樹立されはしなかつたのである。支那におけるソヴェートの起源は、その時よりも遙に後れた時期にあることは、私が後述するところのごとくである。故に私は、一九二七年一月五月の期間をもつて、二重政權の時代となす龍眠氏の見解を、誤謬と認めるものである。

(註) 武藤九楠氏も、『中國大革命』の中に『國民黨の政府と並んでもう一つの農民組合及び労働組合の政權があつた。労働者農民は、彼等自身の組織する組合の権力は、他のあらゆるものより高いと認め、その権力にのみ服従した。だから湖南湖北における一九二七年一月から五月までの時期は、『二重政權』の時期といふことができる』といつてをられるが、この見解は、龍眠氏の見解と同じく、私の同意し難いものである。

かくソヴェートといふスローガンは、十一月會議において、支那共産黨にはじめて採用されたのであるが、しかるば支那において、はじめて實際上、ソヴェートが樹立された場所と時期——起源はどうであらうか？ これは、私が、曩に疑問として、残してをいた一つの問題である。

支那におけるソヴェートの起源について、問題に上るものは、一九二七年八月の南昌暴動であらうと思ふ。しかし南昌暴動は、共産黨の指導の下に行はれたとはいへ、また革命を左翼國民黨の旗の下に續行しやうとしたもので、左翼國民黨の政權を顛覆するために行はれたものでもなく、またミフのいへるごとく、『南昌軍の行動によつて、政治権力の舊機構は根本から破壊されなかつたし、その代りに勤勞大衆の権力機關も作られなかつた』のであるから、南昌暴動をもつて、支那ソヴェートの起源とすることはできない、がしかし、ソヴェートは暴動を通じてのみ樹立されるもので、南昌暴動は、後に來るソヴェート樹立のための前哨戰を意味するものではある。

〔註〕 大衆新聞社發行『中國共産黨』第一輯第一三八頁

南昌暴動とともに、支那革命の左翼——國民黨の時代は終結した。そして第三期は、ソヴェートの段階に入った。そして海豐、陸豐二縣は、從來農民運動の最も發達してゐたところであるが、この二縣の農民は、南昌暴動に敗北して南下した軍隊と一緒に、一九二七年十一月十七日に、ソヴェート大會を開き、労働者農民兵士の代表三百人、傍聴者百人の下に、ソヴェート政府（人民委員會）を選出して、東江地方の各縣を管理するにいたつた。この海陸豐ソヴェートの主席は彭湃氏であるが、これこそ、支那におけるソヴェートの起源である。

その後間もなく、十二月十一日に、廣州市に、ソヴェート政府が樹立されたが、それより先に、既に海陸豐にはソヴェートが樹立されてをり、しかも後者は、廣東ソヴェートの敗北後も、なほ數箇月を持ちこたへたのである。かくて私は、支那におけるソヴェートの起源を、一九二七年十一月十七日の海陸豐ソヴェートの成立にをくもので、瞿秋白氏が、廣東ソヴェートを支那ソヴェートの起源となす見解に服し兼ねる。瞿秋白氏はいふ……

『プロレタリアートのエ州暴動、プロレタリアートの指導下の廣州暴動は、支那第一次のソヴェート政府を樹立した』——『支那革命と共産黨』第一七一頁

かくして、ソヴェートの旗は、はじめてこの巨大な半植民地國家において、實際行動のスローガンとなつた。

第三節 支那ソヴェートの特質

曩にソヴェートの本質を述べたが、今こゝには支那ソヴェートの特質を検討しよう。

支那ソヴェート——支那勞農大衆の革命的民主獨裁制——に、これを一九〇五年のロシアにおいて、ボルセビキが決定したロシアソヴェート——民主獨裁制——に比較するに、その間に大なる差異がある。こゝに支那ソヴェート

の特質を發見することができる。

一九三〇年七月二十三日、コミンテルン政治秘書局を通過した『支那問題決議案』は、この支那ソヴェートの特質を次のごとくに述べてゐる。

(一) 社會主義的分子の存すること

これについて、コミンテルンは、次のごとくに述べてゐる。

『支那革命は封建制度軍閥制度と殘酷なる闘争を實行しなければならぬと同時に、外國資本家及び支那資本家とも殘酷な闘争をなさねばならぬ。支那の民主獨裁は、徹底的に外國資本及び支那の資本企業を沒收するの必要をもつにいたらうとしてゐる。極めて重要な社會主義的方向に進行せざるを得ないやうになつてゐる。かくて社會主義革命の分子が存在してゐることは、支那の勞農大衆の革命的民主獨裁の特質である』

それは、ロシアソヴェートは、當時帝國主義の搾取壓迫を、ロシアの勞働者及び農民の間にもたなかつたからである。しかるに、支那においては、帝國主義の搾取と壓迫が強く、國內の經濟的條件は、ソヴェート化、非資本主義的、社會主義發展の道のみ可能であるからである。

(二) 資本主義から社會主義への轉化には、ロシア十月革命に比べて、より多くの過渡的段階を有すること

それは、支那においては、ロシアにおけるよりも資本主義の發達が、遙かに後れてゐるからであるが、コミンテルンは次のごとく述べてゐる……

『支那革命は、最初の段階においては、當然、資本主義發展の可能を奪はない。否な、これに反して、殊に農業においては、地主土地私有制度の消滅後、軍閥制度高利貸搾取の消滅後、資本主義が必ず前方への成長の趨勢を表現

するであらう。支那革命の經濟上における非資本主義性は決して直ちに社會關係における一切の資本主義的要素を排斥し得ないで、革命的民主獨裁機關の下に、その争ひ取つた經濟的地位を利用し、かゝる前提と優勢を形成しつゝ、徹底的に非資本主義的——社會主義的——形態の生産を發展せしめるであらう』

(三) 民主主義の段階から社會主義への移行が、一九〇五年のロシア、ソヴェートに比べて遙かに速いこと。

これについて、コミンテルンは、國際的及び國內的環境から考察して次のごとくに述べてゐる。『第一に、支那革命の國際的環境であるが、現在ではプロレタリア獨裁の國家——ソヴェートロシアが存在し、しかも、それは順調に社會主義的建設的發展しつゝある。他方、支那の狀態を見るに、革命過程において、支那共産黨が多数を占めることが豫測される。かくてプロレタリアートは、農民に對して、思想上の指導を實現し得るのみではなく、國家組織上の指導をも實現し得る。』

『プロレタリアートと農村の貧農との結合は、支那革命の新しい昂揚の最初の幾段階において、すでに形成されてゐるが、かゝる狀態は、支那革命發展の速度と様式に、相當の影響を與へざるを得ない。しかも國內の反革命的軍閥争、國際帝國主義に對して、農村が反對することは、避けられないから、農民の中の基本的大衆は、革命過程につれて前進し、外國及び支那資本に反對する過渡的に必要な革命政策に賛助するであらう。』

ロシアにおいては、一九〇五年にソヴェートが實現し、更に一九一七年二月著しき動力をもつて爆發し、專制主義を吹き飛ばし新し、ソヴェート革命の軌道を開くを得るやうになるまで、革命が十二年間も中斷してゐたが、支那においては、かくて短期間にソヴェート革命の急激な發展が豫測され得るやうである。

(註) この點について、ロフスキ氏は次のやうに述べてゐる……

『ロシアにおける一九一七年十月のソヴェート政權の勝利は、プロレタリア革命の發端であるが、廣東ソヴェート政權の勝利は、ブルジョア民主主義革命の徹底的完成と、ブルジョア民主主義革命から社會主義革命への轉化の條件の開始である』

第四節 暴動機關としてのソヴェート

ソヴェートは、革命的大衆が自ら代表を選出し、代表會議を組織して、一般の大衆鬭争を指導する機關であり、革命の昂揚に際しては、必然に暴動指導機關となり、暴動が勝利したときには、革命的政權機關となるのである。

しかして、共産黨の戰術としては、暴動——大衆暴動を通じてのみ、政權を奪取するにある、この暴動の過程において、これを指導する機關としてソヴェートが発生し、更に成長して、暴動の勝利の後に革命的政權機關をなすのである。

國民黨が、上からの政治的手段をもつて、土地革命を遂行しようとし、大衆暴動を忌避、抑壓、彈壓しつゝあつたとき、國民黨との提携を放棄するや、共産黨は、直ちに農民暴動のスローガンを掲げ、下からの——大衆的手段をもつて土地革命の完成への驀進をするようになった。すなはち八七會議においては、

『共産黨の當面の最も重要な任務は、系統的に計畫的に、出来るかぎり廣大なる地域に、農民の總暴動を準備し、本年秋の收穫期の農村階級鬭争の激化する機會を利用することになる。』

と決議し、湖南、湖北、江西、廣東四省に互つて、一齊に農民暴動を展開することになつたが、その暴動においては、共産黨は實に指導的地位を占めたが、各地において、實際にその暴動を指導したものは、農民協會内の前衛分子から成る農民委員會で、それは秘密な團體であつた。この農民委員會こそ、ソヴェートの萌芽的形態にあるものであ

る。十一月會議は、

『農村における黨の支部は、極めて秘密でなければならない。黨の支部を除く外、必ず廣大なる農民大衆を農民協會農民委員會等の組織の中に組織せねばならぬ。これらの農民協會は、革命の昂揚のときには、労働者と政權を奪取し、農民代表會議——ソヴェート——に變るのである』

暴動の指導機關として、中央から派遣されたものには、特別委員會、行動委員會等があつた。

これらの農民暴動は、多大の誤謬によつて、失敗に終つた。かの南昌暴動は、前敵委員會の指導の下に行はれたものであり、それはまた、ソヴェートといふことはできない。この暴動は指導者の日和見主義と戰術の誤謬から、失敗に終つた。すなはち政治上においては、明確なる土地革命及び勞農貧民政權の政綱がなく、堅決に『耕すものはその田を有す』とのスローガンを提出せず、二百畝か五十畝以上の土地を沒收するとの主張の中間を徘徊し、實際上はたゞ『耕すものはその田を有す』との政策を實行したにすぎない。技術上においては、『豪紳ブルジョアジーに對して、死刑を加へず、一切の政治社會組織を破壊することなく、完全に彼等の武装を沒收することなく、軍閥と同じく、人民を攪亂しない』といふ觀念に囚はれ、その機に乗じて蹶起した貧民を銃殺し、豪紳の財産を沒收することがなかつた。また譚平山のごときは、暴動を妨害し、張國壽のごときは、暴動に疑を懷き、時には暴動にさへ反對し、また一切の土地を沒收するといふ綱領に反對した。かくして南昌暴動は、失敗に終つたといへ、各地には、依然として暴動が起り、そこには萌芽的形態におけるソヴェートが発生し、暴動の指導機關となつた。

八七會議後、湖南省執行委員は、秋季暴動の革命に接するや、支那革命はすでに一九一七年の十月革命——プロレタリア革命にまで發展したといひ、土地問題については自作農の土地沒收を提議し、すでにソヴェートのスローガンを

さへ提出し國民黨は要らぬといひながらも、實際においては、政權奪取の後、法律的に土地を沒收し、これを今平和に分配しやうといふ風に考へ、農村に入つて、農民大衆を發動し、長沙のプロレタリアートを發動し、彼らを指導して闘争し、暴動を起さうとは考へず、中央に對して軍隊の派遣を申請し、八月三十一日に長沙を占領しやうとしたのであつた。そして、ソヴェートも、暴動も、單なるスローガンにすぎなかつた。これに反して、海陸豊においては、農民は自らの暴動によつて、ソヴェートを組織し、廣東暴動においては、一九二七年十一月二十六日、廣東省執行委員会は、中央からの廣東暴動命令に接するや、直ちに軍事委員會を組織して、軍事組織の技術活動を開始し、軍隊大衆の間に、プロアジ活動を強化し、且つ暴動を宣言し、ソヴェート政權の樹立、國民黨政權の顛覆を命令し、労働者二千人をもつて赤衛隊を組織し、武器彈壓を祕密に準備し、十二月十一日を暴動日と決定するや、その前に、廣東工人代表會六十名は、ソヴェート執行委員十名、兵士會は三名、市郊農民協會は三名を夫々選出し、これに共產黨代表が加はり、ソヴェート會議が成立し、その席上において、暴動が最終的に決定され、暴動計畫が通過し、その指導の下に、廣東暴動が行はれたのである。

かくて廣東ソヴェートは、三日間ではあつたが、一九二五年以來の革命過程における革命的組織の最高形態であつた。それはすでに、プロレタリアートと農民と兵士との革命實現の一實證であつた。なぜならば、廣東暴動の間、唯一の権力は蜂起せる勞農兵の権力にあつたことを、そしてこの権力の組織形態が、實に廣東ソヴェートであつたことを、何人といへども否定し得ないからである。

第五節 支那ソヴェートの二つの型態

海陸豊と廣東の二つのソヴェートは、一九二七年における二つの典型的なソヴェートである。海陸豊ソヴェートは、農民、兵士、貧民大衆からなる土地革命の組織であつたが、廣東ソヴェートは、勞農兵代表からなるプロレタリア革命の組織であつた。前者はプロレタリア革命のための闘争機關ではないが、後者はプロレタリア革命のための闘争機關であつた。

海陸豊型のソヴェートは、現在支那農村に散在し、暴動が決行されソヴェートはその指導機關である。これに反して、廣東型のソヴェートは、龍州、長沙において、一時成立しただけで、ソヴェートはゼネラル・ストライキを指導し、暴動を指導し、プロレタリアートを組織する上に、甚大な役割を果した。帝國主義と軍閥の強力のため、永續はしなかつた。

勿論、ソヴェートを此二つのグループにはつきりと區別し得るかのごとき表式的な解釋を下してはならない。何故ならば、ソヴェートは、その發展過程に於て、一九二七年八月の特別委員會、前敵委員會、行動委員會、勞農革命委員會などの萌芽的形態から、十二月廣東暴動の指導機關にまで、極めて急激なる發展轉化を遂げたものなるが故である。更に一九二七年のソヴェートは、その進化過程において、兵農貧民ソヴェート、勞農兵ソヴェートを造り出したが、支那においてまだ兵士ソヴェート、労働者ソヴェートなどの形態は、發生してゐない。

また最後に、支那の農村においては、諸地方に純粹な農民ソヴェートが散在してゐるが、それは農民的素性を深く烙印づけられてをり、やがて土地革命、農民暴動への指導機關となるべき必然性をもつてゐる。

第六節 支那ソヴェートの構造

吾々は、一九二七年八月の前敵委員会、労働革命委員会などの萌芽的なソヴェートから、いくつかの過渡的形態を通り、更に海陸豊型、廣東型のごときソヴェートにまで、考察の歩を進ぶるとき、吾々はそこに、新しい権力機関としてのソヴェートの重要な全要素を認めるのである。

ソヴェートは自己の執行機関、自己の機関紙（閩西、龍州、江西、長沙など）をもち、自己の軍隊、自己の財政、（閩西、江西など）をすらもつてゐる。それらは武装叛亂の指導のみでなく、経済的及び文化的生活の指導をすらも掌握してゐる。（江西工農銀行、土地委員会、財政委員会、學校、病院、俱樂部、新聞閱覽所）それらは新しい裁判所（肅反委員会）自治機關を組織し、私有財産の没収及び社會化を實施してゐる。一言にしていへば、一九二七年以來の、支那南部諸地方におけるこれらのソヴェートは、完全なる意味において、革命的な権力機関である。

また、これらのソヴェートは、労働する民衆——手工業労働者、労働者、被傭者、兵士、農民、苦力——の驚歎すべき多数を抱擁してゐる。ひとり勤勞大衆のみが、その代表者をソヴェートに送つたばかりではなく、半プロレタリア要素も（商業使用人、時には小商人も）同様にその代表者を送つた。組合及び共産黨が、その代表者をソヴェートに送つたことはいふまでもない。

ソヴェートは多くは嚴密なる規約といふものをもつてゐない。六安ソヴェートのときは、規約や選出規定（六安第六區ソヴェート條例、六安第六區肅反條例）などをもつてゐるが、それなどは、ソヴェートがその機能を發揮するにいたつた後に、はじめて進められたのである。中央においても、ソヴェート憲法はまだ草案のみで、ソヴェート代表大會を通過してをらず、すべてのソヴェートは、また、その規約などを充分に完成するところまでは、いたつてゐないやうに見受けられる。

更に吾々は、一九二七年以來の支那ソヴェートの興味深い特徴を、その廣汎さと普遍性に見出すのである。南部十一省の範圍に互り、江西、福建、湖南、湖北、廣東の五省が、最も盛んである。

もしまだ、ソヴェートの分布表を注意深く案じ、著名なソヴェート組織を、何らかの關係のもとに考察するならば、ソヴェートが、眞に革命的民衆の創造的精神の所産であることに、今更ながら覺えず吃驚を禁じ得ないであらう。事實、ソヴェートの壓倒的多数は、主として若くは全然、支那の貧民大衆——殊に農民から成り立つた農民ソヴェートである。廣東のごとき、ロシア型の勞農兵代表のソヴェートもあつたが、それは一時的であり、また極めて少数である。

ソヴェートを生んだものは、支那の國民革命——ブルジョア革命であつたが、しかしこのブルジョア革命は、労働政黨の反動化により、新しいプロレタリア革命への轉化過程として、ソヴェートを生んだこの故にこそ、もはや單なるブルジョア革命ではなく、プロレタリア革命の新しい特質を内包したものである。

人類の生活は停止しない。かのパリーコムミュンの後、プロレタリアートの革命運動は、より高い段階、より優れた闘争形態を追求せざるを得なかつた。しかして、それは求め得られた。それこそ、一九〇五年のロシアにおけるソヴェートであつたのだ。そして支那の革命的大衆は、ロシアの經驗に基いて、ソヴェートといふ高級な闘争形態を受け入れ、しかも一九〇五年、一九一七年十月のロシア・ソヴェートをも、遙の後に残して前進し、ロシアの自然成長的に比べて、自然成長的な點もあるが、より計画的に進行し、この點において、一つの特徴をもつものごとくである。

（註）この項は、主としてウエ・ネフスキーの「一九〇五年における労働者農民××代表者ソヴェートの意義」第五項に據つたが、拙稿の見解はなほ批判訂正の餘地あるものと、尙に思つてゐる。本文において前章に提出して、取残されてゐた問題は略ぼ、一應の検討を終へたが、大方の叱正を仰ぎたいと思ふ。

第四章 支那ソヴェート地域の労働運動

第一節 支那のブルジョア民主主義革命とソヴェート地域の階級対立

支那の中南部諸省においては、多くの地域が共産軍に占領され、ソヴェート政権が樹立され、それらの地域は「赤色地域」または「ソヴェート地域」とよばれてゐるが、そこにはまだ共産主義が完全に行はれ、プロレタリア革命が完成されてゐるといふことはできない。

ソヴェート政権が樹立されてはゐるが、そのソヴェート政権なるものは、まだ労働民主主義的で、プロレタリア獨裁制は採用されてはゐない。これは支那革命がなほブルジョア民主主義の段階にある證據である。だが、ソヴェート政権の樹立こそは、やがてブルジョア民主主義革命へ発展し行く過程における一つの革命的政権形態である。

かくてソヴェート地域においては、プロレタリアートの経済的利益は、ソヴェート政権の庇護、労働保護法の實施により、政治上保障され、封建的壓迫と搾取は廢除されてゐるとはいへ、農業労働者と富農、手工業労働者と雇主との階級的対立は、依然として存続してゐる。この階級的対立が存続し、その間における経済闘争が行はれ、なほプロレタリアートが中堅となり、農民大衆を指導し、ブルジョア民主主義革命からプロレタリア革命にまで押し進め労働民主主義獨裁制からプロレタリア獨裁制による政権を樹立し、共産主義的建設に進むためには、たとへソヴェート地域においてさへ、なほ労働運動が行はねばならず、現に、黨によつて、「ソヴェート地域の労働運動は、當面における吾

々のソヴェート地域内における最も重要な工作である」とさへ、重視されてゐる。

第二節 第五回全國労働大會とソヴェート地域労働組合問題

プロフィンテルンに加盟せる中華全國總工會は、共産系労働組合の全國的機關であるが、その指導の下に、一九二九年十一月、上海において、第五回全國労働大會が開かれた。それは、ソヴェート地域の労働組合について、次のごとくに規定した。

「赤色地域における労働組合は、計画的に指導せねばならぬ。これらの地域は、多くは産業の發達が遅れ、文化程度の低い地方であるから、殊に組織上労働組合におけるすべての散漫なる現象を糾正し、大衆の労働組合生活を向上せしめ、大衆中の活動分子をば抜擢して労働組合の工作に参加せしめ、各都市間における聯合組織を成立せしめねばならぬ。就中農村被傭労働者の組織に對しては、特別に意を用ふべきである」――工會組織問題決議案第三二項。この特別に意を用ふべき農村被傭労働者の組織に關して、同決議は、更に次のごとく規定してゐる。

「農村被傭労働者の組織は、この上遅延することはできない。赤色地域において固より非常に重要であるが、一般の反動地域においては、殊に重要である。被傭労働者の各種の問題に關しては、全國總工會及び各地の労働組合は組織能力を有するものを、直ちに農村に派遣し、組織を發展せしむべきである」――同上、第二九項

第三節 ソヴェート地域労働組合の現状とその組織系統

第五回全國労働大會以後、全國總工會は、ソヴェート地域の労働運動はその特殊活動であり、ソヴェート地域の産

業労働組合の樹立と聯合、手工業労働組合と店員労働組合の樹立及びその複雑なる問題、獨立労働者の組織形態などについて、重要な諸問題があるために、一つの「ソヴェート地域労働組合活動綱領」なるものを制定し、福建省西部、湖南、江西の諸ソヴェート地域において、ソヴェート地域労働組合代表會議を招集し、すべての組織を進行せしめた。

しかしソヴェート地域における労働組合の組織状態については、餘り多く公表されてをらず、その實狀を窺知し得ないが、文虎氏が、一九三〇年七月二十七日公表したところによれば、略ぼ次のごとくである。

地域	組合名	組合員數
江西省信江流域	礦工總會	四、二七〇
湖南	瀏陽縣總工會	三、二〇〇
福建	龍岩縣總工會	三、〇〇〇
同	上杭縣總工會	四、〇〇〇
同	武平縣總工會	二〇〇
同	永定縣總工會	一、〇〇〇
湖北	陽新縣總工會	五〇〇
廣西	龍州總工會	五、〇〇〇
合計		二一、一七〇

なほ農業労働組合——雇農工會——も、ソヴェート地域内においては、組織されてゐるはずであるが、それについて文虎氏は、たゞ次のものを擧げてゐるにすぎない。

湖南	瀏陽縣雇農工會	二、〇〇〇
江西信江流域	合計八縣、雇農工會	三、〇〇〇

だが、その後、ソヴェート地域の擴大、軍事的變化、労働運動の發展につれて、諸地方に系統的に組織されてゐるものと推察することができるといふに、區には苦力工會、雇農工會、店員工會、

ソヴェート地域における労働組合には、如何なるものがあるかといふに、區には苦力工會、雇農工會、店員工會、手工業工會、碼頭工會、海員工會などがあり、獨立の鎮また同じく、礦山のあるところでは礦山工會がある。かくてこれらの分會を總括するものに、全區總工會または獨立鎮總工會がある。

縣には全縣總工會があり、その下に區または獨立鎮の總工會を總括し、縣には市政工會、海員工會、手工業總工會、店員總工會、雇農總工會、碼頭工會、苦力工會などがあり、市政工會はその業別により、水道工會、電燈工會、電話工會、手工業總會また油業工會、泥木工會など、各業分會に分れてゐる。

縣總工會と並ぶものに、獨立市總工會があり、その下に略ぼ縣におけるがごとき各種の労働組合をもつてゐる。縣及び獨立市の上に、特別區または全省總工會があり、これが中華全國總工會の下に直接してゐる。かくソヴェート地域の労働組合は、地域的及び産業的に、系統立てられてゐるが、労働組合の下には、更に職場または農村に支部乃至小組が設けられ、貧農團——貧農同盟——の中にも、貧農をプロレタリアートの指導の下にくべく——苦力、農業労働者、労働者の小組——フラクションが設けられてゐる。

ソヴェート地域労働組合の系統について、

「ソヴェート地域労働組合活動綱領」は略ぼ次のごとく述べてゐる。

「ソヴェート地域における労働組織の組織系統に關しては、また殊に、都市労働者の数が非常に少く、殊にその多くは散漫なる手工業労働者に屬し、大多數の農村労働者は、なほ農民大衆の中に混入してゐることに、注意せねばならない。これらの手工業労働者は、なほ極めて深いギルド的傳統の中に生活し、一般の被傭労働者は、なほ極めて深刻な農民イデオロギーをもつてゐる。それ故に、吾々は、農業労働者を農民の中から抜き出し、手工業労働者をギルドの中から引き出し、階級的に獨立な労働組合を組織すべきである。農業労働者組織活動は、農村區域により、手工業労働者は職業の性質によつて區分せねばならぬ」第六項

次に労働組合機關の所在地については、次のごとく述べてゐる。

「全縣労働組合の地域的區分及び労働組合機關の所在地については、必ずその地域乃至その地の經濟上における指導的地位に注意し、必ず都市をもつて、中心とせねばならぬ。縣總工會のごときは、必ず縣内の最大都市に設くべく、縣總工會の所在地を除き、或る一區に屬することのできない比較的、大なる都市あるときは、そこには別に特別市工會を設け、縣總工會に直屬せしめる。區工會の地域的區分は、必ずしも現行政地域に依るを要せず、全縣内の經濟交通及び労働狀況によつて區分すべきである。但し、一區の中に中心となるべき小さい町のある場合には、そこに區分會を設け、指導に便すべきである。」

終に特別職業労働組合について、次のごとく規定する。

「特別職業工會は、運輸移出の比較的、大きい手工業——たとへば製紙、製油、絲綢、煙草製造などのごとき——の労働組合にして、それには全縣的の總組織、各區分會及び小組がなければならぬ。被傭労働者その他手工業にもいづれも、その環境の要求、開會及び指揮の便利のために、支部及び小組がなければならぬ。」

一九三〇年十一月、支那共產黨中央政治局を通過した「各ソヴェート地域當面の行動綱領」によれば、ソヴェート地域の労働組合組織系統について、次のごとく簡明に規定してゐる……

「これら一切の労働組合の組織系統は——と、該行動綱領はいふ——都市においては、産業労働者は産業を標準とし、手工業労働者店員は職業を標準とし、夫々自らの労働組合を組織し、農村においては、手工業労働者苦力農業労働者は、夫々區を單位として、自らの労働組合を組織する。分會は一郷一村に、農業労働者苦力その他労働者の小組（フラクション——筆者註）を組織して、労働組合の下層基礎とする。何種の産業労働組合、或は手工業労働組合、苦力労働組合、被傭労働者組合たるを問はず、すべてそれ自らの全縣労働組合本部乃至は全特別區労働組合本部をもつべく、それは、各總工會及び都市各工會との二種の組織を包括して成立されるものである。」

第四節 ソヴェート地域労働組合の社會的要素

ソヴェート地域は、舊來の封建的諸階級を打倒し、勞農民主獨裁制の下にあり、封建的壓迫と搾取とは大半打破され、ブルジョア民主主義革命の一つの大きい歩を歩みだし。プロレタリア社會主義革命への過渡期にあるが故に、非ソヴェート地域におけるとは、その闘争目標を異にするが故に、ソヴェート地域内労働組合の社會的要素も、非ソヴェート地域におけるとは、自ら異らざるを得ない。

ソヴェート地域における階級對立は、産業上においては、雇主と産業労働者乃至手工業労働者、苦力、店主と店員、富農と農業労働者などであり、その中間に手工業者（その内獨立労働者）中農、貧農、貧民が存在する。そのうち、ブルジョア民主主義革命からプロレタリア社會主義革命への過渡期において、革命的階級たるものは、産業労働者手

工業労働者、苦力、店員、農業労働者、貧農、貧民などであり、そのうち、労働組合に組織されるべきものは、産業労働者、手工業労働者、店員、農業労働者であり、その他はプロレタリアートの指導の下に、また夫々別個の組織をもつのである。

かくて、ソヴェート地域においては、非ソヴェート地域におけると、その階級対立を異にするが故に、その労働組合の社会的要素も、後者のそれに異なるが、これについて、次のごとくに規定されてゐる。

一九三〇年十一月の中央政治局通過の決議案はいふ……

「ソヴェート地域大衆組織問題において、最も中心的なことは、如何にしてプロレタリアートの組織力とプロレタリアートと貧農との聯合を強化するかにある。それには先づ、ソヴェート地域における都市労働者、農村手工業労働者、苦力の労働組合の組織、農業労働者組合の發展、貧農同盟の創立に注意せねばならぬ——第七項

「現在各ソヴェート地域においては、各都市における産業労働者、手工業労働者、店員の労働組合を組織發展せしめねばならず、それが組織上の最中心問題である——同上

これより先、一九三〇年初頭に、中華全國總工會は、ソヴェート地域労働組合行動綱領を決議し、そのうちに、ソヴェート地域の労働組合における社会的要素について、次のごとく規定してゐる。

「ソヴェート地域における労働組合は、一つの重要問題——農村及び都市における階級陣營の区分といふこと——に注意せねばならぬ。吾々は、農業労働者が農村プロレタリアートとであることを認識し、彼等を農民のうちから抜き出し、農業労働者の獨立階級的労働組合を組織し、彼等の富農に對する階級闘争を指導せねばならぬと同時に手工業における手工業者と手工業労働者との区分——すなはち、獨立労働者と被傭労働者との区分に注意せねばならぬ。

らぬ。

進んでその綱領は、眞のプロレタリアートについていふ……

「すべて自ら生産用具をもたず、自らの勞力を賣つて得た勞賃に依頼して生活するものが、眞のプロレタリアートである、手工業における理髮工、裁縫工、大工など、徒弟、助手、被傭労働者を使役する店主または老板（主人または番頭の意——筆者註）は、自ら労働に参加するとはいへ、彼等は同時に、他人の勞働力を搾取するが故に、彼等をプロレタリアートが労働組合に参加するものとはいはれない、また徒弟助手または被傭労働者をもたぬ獨立労働者も彼等は雇主から搾取されてはゐないが故に、プロレタリアートが労働組合に加入したものとはいへない。要するに、勞力を賣つて生活し、同時に雇主に搾取される手工業労働者のみが、プロレタリアートに屬し、労働組合に加入し、彼等を指導して、階級闘争をなし得るのだ。」

第五節 ソヴェート地域におけるプロレタリアートの

ヘゲモニーと勞農同盟の結成

ソヴェート地域においては、すでに封建的諸階級は打倒されてゐるが、なほブルジョア階級は殘存し、ブルジョア民主主義革命からプロレタリア革命への過渡過程にある、かゝる具體的歴史的状況の下においてブルジョア階級の浮動性や、彼等の反抗にも拘らず、労働者階級を援助して、ブルジョア民主主義革命を究極まで遂行せしめ得る唯一の勢力は實に農民に外ならぬ。そしてこの農民層を自己大衆に引き寄せ、これと協力して、ブルジョア階級の浮動性を無力化し、民主主義的變革を最後まで指導し得るものは、實にプロレタリアートのみである。それ故に、支那のソヴ

エリート地域においても、プロレタリアートは、あらゆる方面において、ヘゲモニーを獲得、運用すべきものとされ、またしてゐる。そしてプロレタリアートのヘゲモニーは、たゞプロレタリアートの組織たる労働組合を通じてのみ確保される。それ故に、次のごとくに規定されてゐる。

「すべての労働組合は、城鎮ソヴェート——政權の柱石となり、労働動大衆がソヴェート政權を擁護し、帝國主義國民黨軍閥に反抗しこれに進攻する運動の指導者となり、労働者幹部を赤衛軍の裡に送る中樞とならねばならぬ。それと同時にこれらの労働組合員は各城鎮の赤色警衛隊の骨幹とならねばならぬ。」——各ソヴェート地域當面行動綱、第七項

次に、ソヴェート地域における労働同盟の結成を見る。

「ソヴェート地域労働組合行動綱領」は、これについていふ……

「ソヴェート地域労働運動は、當面吾々が、ソヴェート地域における最も重要な行動であり、プロレタリアートの農民闘争中における指導作用を發揮するには、必ずや先づ、この地域における労働運動の發展方向を糾正せねばならぬ。簡單にいへば、これらの地域における都市労働者（その数は極めて少いが）と農村における廣大なる被傭労働者大衆を動員し、労働組合に加入せしめプロレタリアートの組織生活を樹立せねばならぬ」——第一項

「たゞかくてのみ、農民闘争中におけるプロレタリアートの指導的地位を樹立し、鞏固にし得るのだ」——第三項
次に「各ソヴェート地域當面行動綱領」によれば、より具體的に、労働同盟の結成、農民層に對するプロレタリアートのヘゲモニー確保の方法を規定してゐる。それによれば、ソヴェート政權の樹立されるまでは、農民層は農民委員會に組織され、それにプロレタリアートは働きかけてゐるが、それはソヴェート政權の樹立と同時に消滅され、新

しく農業労働者組合、貧農同盟が組織される、これはコミンテルンの國際農民問題決議案によるものである。

コミンテルンの農民問題決議案は、産業労働組合は農業労働者組合及び苦力組合に對して一種の指導制度をもたねばならぬことを指摘してゐるが、その具體的方法としては安源——江西省萍鄉地方——の鑛山労働者組合が、その附近數縣の農業労働者組合に對して實行した指導制度を指摘してゐる。かゝる産業労働組合は、經常的關係において、農業労働者組合に對して、一種の指導的援助的な責任を負ひ、殊に、若干の有力なる幹部を派遣して、附近數縣の農業労働者組合を援助し、組織を發展し、行動を樹立すべきものと規定されてゐる。

支那ソヴェート地域における農村には、半プロレタリアートの組織として、農業労働者組合、苦力組合、手工業労働者組合があるが、その他に、農民組合としては貧農同盟がある。その同盟員は、貧農以下のものに限られてゐるがその裡には、農業労働者と手工業労働者のフラクションがあり、彼等によつて、労働同盟が結成され、農民層に對するプロレタリアートのヘゲモニーが確保されつゝあるのである。それ故にいふ……

「貧農は、反富農闘争に用ひられるといへ、中農をその周圍に團結する貧農同盟は、共產黨の指導の下に發起されるべく、それは一種の社會團體的な組織として、農業労働者と同じく、農村ソヴェート政權の柱石である。その組織分子には、貧農、農業労働者、苦力及び農村中その他の労働者を包括すべきである。農業労働者、苦力及びその他の労働者は、各自の一郷一村中におけるフラクションをもつて、貧農團中において、指導作用を起し、同時に自らの労働組合の指導を受ける。」——第七項

「同様に、農村においては、手工業労働者、苦力の労働組合も、また普遍的に組織されねばならぬ。それと農民との關係は、都市における労働組合よりも、より密接である。その下層基本組織、たとへば苦力、手工業労働者のフ

ラクションは、すべて必ず、農村の貧農同盟に参加し、農業労働者のフラクションと同様に、内部から指導作用を起さねばならない」——第七項

「農業労働者組合の地位は、農村においては、その経済關係からいへば、農村の手工業労働者組合苦力組合、よりもより重要である。それは、プロレタリアートが現時の民主革命においてヘゲモニーを實現するための重要な足場の一つであらねばならぬ。それは普遍的に、各地に發展せしめねばならぬ。すなはち或る農村に農業労働者が数名にすぎなくても、必ず彼等をフラクションに組織し、區をもつて單位とする農業労働者組合に加入せしめ、同時にこのフラクションは、さらにその農村の貧農同盟に加入せしめねばならぬ。」——第七項

ソヴェート地域においては、今や斷乎として、富農に對して反對し、その土地は直ちに沒收されることになつてゐるが、中農に對しては、貧農の同盟者として、必ずしもこれに反對せず、貧農の周圍に團結されることになつてゐる。それ故に、次のごとくに規定されてゐる……

「貧農同盟の會員は、たゞ貧農以下の人に限られるとはいへ、絶対に反中農的ではない。かへつてそれは、すべての行動にあつて、中農をその周圍に吸引し、中農の積極分子を推選してソヴェート政府機關に送り、その行動に参加せしむべく、また中農を農村内の各種の補助團體——たとへば文化教育組織乃至武装組織——に組織し、かくて中農との同盟を鞏固にせねばならぬ。」——第七項

かくして、ソヴェート地域においては、プロレタリアートのヘゲモニーが確立され、勞農同盟が結成され、貧農と中農との同盟が結成され、その基礎の上に、ソヴェート政權が擁護され、ブルジョア及び富農に對する闘争が進行されてゐるのである。

第六節

ソヴェート地域労働組合の聯合組織と非ソヴ

エート地域に對する行動

労働者の階級的團結を圖るために、ソヴェート地域においては、各都市の労働組合間に聯合組織があり、都市労働組合と農村労働組合との間にも、密接なる組織關係が成立してゐる。

農村にまだ労働組合がない場合には、都市労働組合は責任をもつて、農村に労働組合の組織を發展し樹立し、廣大なる被傭労働者をその裡に團結せしめつゝある。

これらの聯合組織を利用してこそ、ソヴェート地域の労働組合は、相互に氣脈を通じ、その宣傳を擴大し、階級戦線を鞏固ならしめてゐるのである。

ソヴェート地域内における労働組合は、ソヴェート地域内においてのみ活動するのではない。ソヴェート地域外に對しても、働きかける。すなはち、極力、附近の白色地域に労働組合の組織を發展せしめ、可能な場合には、公開的に労働組合の名義をもつて、附近の白色地域に代表を派遣し、廣大なる宣傳を行ひ、革命の影響を擴大する。白色地域においては、白色恐怖が荒れ狂ひ、その行動は常に秘密でされてはゐるが、その行動こそは、革命政權の發展、赤色地域の擴大、敵營攻撃に對する一つの重要な行動である。白色地域に労働組合の行動を發展せしめる最も主要なる行動は、大衆闘争を誘動するにあるが、それには先づその地域における労働者大衆の切實なる要求が何であるかを了解し、或る都市または職業に對して、高低を失しない當面の行動目標としての一つの闘争要求大綱を決定せねばならぬとされてゐる。そして闘争の發展過程において、ソヴェート地域の赤色労働組合は、漸次に深化し行く綱領をも

つて、大衆を指導して前方へと進ましめるが、労働大衆は断へざる闘争の實習を經過してこそ、極めて速に彼等の利益を増進し、彼等の階級意識を強化し、革命運動の發展を強化し得るのである。

第七節 ソヴェート地域労働組合の經濟闘争

ソヴェート地域においても階級対立があり、しかもこれはより尖鋭化しつつあるから、その労働組合は労働者の一般日常經濟闘争を閑却することなく、依然として積極的にこれを指導し、大衆の闘争的經驗を訓練し、大衆をして自己の闘争力に對する認識を強化しつつあり、決して全然ソヴェート政權の上からの政治力によることなく、労働組合の闘争作用によつて、労働者の經濟的利益の増進に努めつつあるのである。

ソヴェート地域内においては、一般資本家は、サボタージュをなし、または職場工場を放棄して逃亡し、そのために失業問題が発生するが、これに對してソヴェート政權は、いかなる政策をとり、赤色労働組合はいかに闘つてゐるか？

その場合には、一般に、ソヴェート政權は、その職場または工場を沒收して、労働者に管理せしめてゐるが、その場合には、労働者は、労働組合の指導の下に、職場または工場委員會を組織して、それを管理してゐる。なほ四面から敵の包圍を受け、職場または工場が閉鎖され生産のできない場合には、ソヴェート政權は、これが救済の方法を講ずるが、労働組合は、これらの失業労働者を赤衛軍に加入せしめ、またはソヴェート政權の下の各種の活動に参加せしめるとはいへ、これらの失業労働者といへどもなほその労働組合を保持せしめ、經常的な組織關係と労働組合生活を樹立せしめておくのである。

第八節 ソヴェート地域の労働者武装問題

ソヴェート地域は、内においては反革命分子を鎮壓し、外においては白色政府軍を防禦しこれを攻撃し、かくてソヴェート政權を擁護し、ソヴェート地域を全國的にまで擴大せねばならぬ立場にある。ソヴェート政權は、労働大衆の利益を増進し、その眞の解放者であるが故に、労働大衆は自ら武装して、これを擁護し、これを發展せしめる義務を有すると同時に權利を有するのである。それ故に、「各ソヴェート地域當面行動綱領」には

「ソヴェート地域内の武装組織の主力は、労働赤衛軍である。現在それは、すでに革命戦争を組織する中堅的な力となつてゐる。それ故に、各農村の農民と都市の労働者とは、更に普遍的に武装して、自衛の責任を負ひ、一方、赤衛軍が敵と戦ふ後方防備を堅固にし、他方、赤衛軍の指揮を受けて、敵の防禦線を攪亂する遊撃戦争を進行せねばならぬ。こゝにおいて、ソヴェート政權は、一種の軍制を公布するを要する。そしてすべて十八歳以上四十五歳以下の他人を搾取しない労働男女は、武装して自己の政權を防禦する權利を有する」——第八項

この普遍的武装には、都市に赤色警衛隊があり、農村に農民赤衛隊があるが、これにはいづれも労働組合員が参加して、その根幹をなしてゐる。赤色警衛隊は、常備隊と後備隊の二種に分れ、常備隊は、生産を脱離し専門的に地方保衛の責に任じ、後備隊は、なほ工場職場その他の職業を離脱せず、たゞ經常的に武装訓練を受けてゐるもので、當面のごとき交戦状態においては、随時に動員され得るものである。農民赤衛隊も同様である。かゝる生産を離脱せず、しかも随時に動員し得るまでに、經常的な武装訓練を受けてゐる労働大衆が存在し、赤衛軍、遊撃隊等共産軍の武力に對して、後盾となつてゐることは、大衆の組織力による共産軍の強味にして、軍事行動のみに依頼する舊軍閥

の誤れる觀念に走ることの保障乃至チエツクたり得るものである。

第九節 ソヴェート地域労働組合の秘密行動問題

支那ソヴェート地域においては、ソヴェート政権の下に、労働者は結社の自由を保證され、公開的に系統的に労働組合を組織し、ソヴェート政権にも参加し、白色地域に比べて、遙に多大な勢力をもつてゐる。

だが、それでもその行動すべてが、公開されてはゐない。

それは何故か？ ソヴェート地域は、今や白色政府軍の猛烈なる包圍攻撃を受けてをり、その軍事上の變化によつては、その環境は直ちに悪化し、猛烈なる白色恐怖に曝されなければならぬことになる。それ故に、かゝる峻烈に荒れ狂ふ白色恐怖に對して、労働組合は、自己の組織を擁護し、その行動を繼續するために、平時から秘密的な組織生活に訓練されてをり、たとへその環境が悪化しても、労働組合員及びその機關は、赤衛軍につれて逃走するがごときことなく、白色恐怖の眞唯中に踏み留つて、労働組合組織を繼續して存在せしめ、これによつて引續き大衆闘争を指導するやうになつてゐるのである。

こゝにもソヴェート地域の難攻不落と、徹底的肅清の至難との原因が横つてゐる。

第十節 ソヴェート地域労働組合の當面の任務と労働

組合生活の運用方法

従來、支那ソヴェート地域労働組合の最も主要なる缺點は、労働組合自身の獨立的行動を困却し、廣大なる大衆を労働組合生活に吸収することなく、たゞ反革命派の逮捕處罰にばかり走つて、労働組合を一つの空虚な機關とし、一旦軍事的變化が発生すれば、労働組合組織は、立ちどころに分解し、それ自身の機能を充分に發揮し得なかつたことにある。

勿論、ソヴェート地域労働組合の行動としては、軍事との關係を離脱することはできず、殊に反革命の鎮壓、赤衛軍の援助、その他軍事上における一切の行動はこれを放棄することはできない。だが、労働組合は、軍事的行動とともに、なほそれ自身の任務をもち、それ自身の基本的行動を閑却することはできない。

それ故に、今や、ソヴェート地域の労働組合は、過去における誤謬を清算し、その最も差し迫れる當面の任務として、「廣大なる労働者大衆、殊に農村の被傭労働者を、労働組合内に組織し、大衆的な労働組合組織を樹立し、廣大なる労働者大衆をして労働組合生活に参加せしめ、労働組合組織を通じて、彼等への階級教育とプロレタリア實際生活を強化すること」——労働組合行動綱領第三項

が規定されてゐる。かくてはじめて、ソヴェート地域労働組合組織は鞏固なる基礎を樹立し、軍事的變化によつて完全に瓦解することなく、繼續的に大衆闘争を指導し、労働組合の組織を闘争生活を通じて、彼等にプロレタリア革命の實際的教育と訓練とを與へ、彼等を革命の中堅分子とすることができるとされてゐる。

かゝる労働組合の基本的及び當面的任務からして、いかなる方針の下に、ソヴェート地域の労働組合生活は運用されてゐるか？

(1) 最高度の民主的精神の發揮

これは決して、集中的指導に反対するものではなくて、多数に大衆中の活動分子を吸収し、労働組合の行動に参加せしめ、労働組合の執行機関から代表會議にいたるまでに、多数の積極的労働者を参加せしめ、労働組合の各種政治闘争問題の執行と討論を實習せしめ、その行動を通じて、彼等の革命能力を培養し鍛錬するにある。

(2) 労働者教育の強化

労働組合を單なる政權執行機關とし、ソヴェート政權を援助し、反革命派を鎮壓し、軍事行動を援助するものとすることなく、常に労働組合を通じての労働者の教育に注意し、労働者の文化事業を向上し、階級教育を注入し、革命理論を教へ、思想上から労働者を武装せしめこれを鍛錬すべきものとされてゐる。したがつて、今やソヴェート地域においては、労働組合は、學校、俱樂部の開設、體育會講演會などの開催に努めてゐる。

(3) 最大限度の大衆組織生活の樹立

すべての闘争と日常生活を通じ、各種の組織方法を運用して、大衆を動員し、大衆を指導することは、産業の發達してゐない現ソヴェート地域の都市及び農村の労働者にとつては、一つの重要な行動であり、これによつてのみ彼等を鍛錬して、階級闘争の中堅分子となすことができる、とされてゐる。

かく支那ソヴェート地域のプロレタリア大衆の嚴密なる組織と鐵のごとき鍛錬を見るとき、單に精銳なる武器のみを有し、戰意ない白色政府軍を、ソヴェート地域の肅清に驅り立て、その肅清が至難であることは、明々白々である。かの北伐にあつて、大衆の擁護によつて、北方軍閥軍を一蹴した蔣介石軍も、いまや共產軍に對してはその地位を轉倒して、北方軍閥軍對北伐革命軍の關係に立ち、苦戦を続けねばならなくなつてゐる。

第五章 中央ソヴェート區域の消滅と長江貿易

第一節 瑞金及び中央ソヴェート區域の計畫的放棄の理由

かの輝かしい一九二五—二六年度の支那大革命——武漢政府が、支那ブルジョアジエの反動によつて分裂失敗して以來、支那革命はソヴェート政權樹立の段階に進み、南昌暴動、海陸豊ソヴェート、廣東暴動を経て、各地に地方ソヴェートが樹立され、一時は廣東、廣西、福建、江西、湖南、湖北、安徽、河南、江蘇、河北、陝西、四川の十二省におよび、廣大なる地域を占領してゐた。

これらの廣大な諸ソヴェート區域の中心は江西の中央ソヴェート區域にして、殆んど全省の三分の二を占め、これによつて一九三一年十一月七日に、中華ソヴェート共和國臨時中央政府が組織され、その首都が江西省瑞金に樹てられた。この瑞金こそ、ソヴェート支那の小モスコウにして、國民黨軍約六十ヶ師の兵力、月額二千二百萬の軍費をもつてする五回の大規模な攻撃をよく斥け、それに多大な損害を與へつゝ、約三年間隱然たる一敵國として、南京政權に對立してきたことは、支那革命史上において光輝に満てる一ページである。

しかるに近年來アメリカ及びイギリス帝國主義の直接間接の援助の下に、全國經濟委員會を通じての八省道路建設工作の進捗による軍事的工作の發展、その上に軍事的及び經濟的封鎖は、遂に中央ソヴェート區域をして、極度の經濟的困難に陥らしめることができた。諸々の情報によれば、鹽一斤三元、布一尺二元以上に暴騰し、しかも鹽のごと

きは供給が極度に缺乏し、亦るソヴェート區域のごとき、二年間鹽を口にすることができなかつたほどである。かかる経済的困難に當面して、しかも六十ヶ師と對抗するために約二十萬の共產軍を給養することは、絶大な苦心を要するところである。

こゝに支那共産黨としては、何等かかかる経済的困難を突破するための戦略の轉換を必要とするのである。しかし福建海岸線に進出せんか、國民黨政権のみならず、帝國主義列強の共同干渉を招來するの危険がある、それゆゑに一九三三年末福建政権の獨立を利用して、物資の供給を間接に潤澤にせんとしたが、その計畫も、福建政権の没落によつて、十分の効果をあげ得なかつた。しからば長江沿岸に進出せんか、これまた同様の外部的危険を招來せざるを得ない。

しかるに西北コースを選ぶときは、そこにはまづ湖南、貴州、廣西、雲南四省にわたつては、ソヴェート運動に訓練されたる苗族があり、四川には豊富なる物資があつて、自給自足が可能であり、殊に四川においては鹽に富み、かつ友軍徐向前軍が陝西南部より侵入して漸次小軍閥を掃蕩しつゝ、川陝ソヴェート區域を擴大しつゝある。しかもその地域は、地理的關係によつて、攻むるに難く守るに易く、かつ帝國主義列強の干渉を被ることも少い。中央ソヴェート區域はこれを放棄するも、そこには數年の訓練を経たる革命分子の潜勢力を保持し、捲土重來に大なる困難はない。かくして極度の経済的困難の下に、老大なる共產軍を傷つけ、多數民衆の苦痛を増さんよりは、その兵力を保持し、多數民衆の苦痛を一時緩和するために、西北コースへ移動することが得策とされたのである。その上、四川よりさらに西北には、甘肅を通じて、新疆、ソヴェート聯邦に達するに難くなく、いはゆるコミンテルン・コースの完成をより容易ならしめる便利がある。

支那共産黨は、かかる理由の下に西北移動、瑞金および中央ソヴェート區域の放棄を決定したのである。かくして十一月一日には福建省長江、十一月十日には首都瑞金を放棄し、繼いで順次に零都、會昌を放棄し、共産黨は西方移動を完了したのである。

第二節 計畫的放棄と軍閥の怯弱による共産軍の勝利

長汀、瑞金の陥落の報道の傳はるは、一ヶ月前から、すでに共産黨の大部隊は、西南方への移動を開始してゐたし、またこれに先だつて移動先における友軍の連絡的行動が行はれてゐたのである。

(1) 江西、湖北、湖南省境區域の第六軍團長孔荷龍の投降後、これに代つた蕭克軍は、兵一萬、銃四千をもつて、八月中旬に行動を起し、遂川を経て、江西湖南省境を南下し、湖南南部に侵入、桂東、汝城、宜章を占領し、引續き西進、資興、桂陽、新田、寧遠、嘉禾、藍山、零陵、臨武、東安に達した。江西湖南省境區域の李天柱軍もこれと行動をとらした。

中央區の彭德懷軍は、兵三萬、銃一萬八千をもつて、蕭克軍の後を追ふべく、まづ彭軍の本隊は上猶、崇義に、赤衛軍袁鳳鳴、新編獨立師長徐洪の一隊は、遂川に、しかして先鋒隊長陳德清は、この時すでに江西、湖南省境に達した。その後合體した蕭克、彭德懷兩軍は、九月下旬に貴州軍を撃破して、天柱、玉屏、石阡、余慶を占領し、沅河から南下して賀龍軍と銅仁、印江地方において、合體した。

(2) 江西主力軍は長汀を放棄した後、江西殘留部隊を二分し、その中二個軍團約六萬を瑞金、會昌、零都方面に留めて後陣を固め、主力三個軍團約十萬の大軍をもつて、南康、信豐に中央軍を撃破し、さながら無人の境を行くがこ

とく、上猶、崇義、大庾を奪取して西進し、湖南汝城、來陽、宜章、桂陽を経、十一月中旬には藍山、道縣、永明二帯にわたるが、十一月二十四日香港電によれば、その先鋒隊はすでに廣西北部の全州、興安に達し、一、二週間内には貴州に達するであらうといふ。

以上の事情を見るときは、支那共産黨は、先づ八月中旬より漸次西方移動を開始し、九月二十六日の國民黨軍の總攻撃令の下るとともに、いよいよ主力部隊の移動を開始したものと云ふ事ができる。

かゝる長汀、瑞金および中央ソヴェート區域の放棄は計畫的準備の下に行はれたもので、そのことは(1)大部隊から小部隊までの一致的行動、(2)放棄時期の農作物刈入後なることの二項によつて、十分に證明されるであらう。かゝる共産軍の大移動にあたり軍閥軍は怯弱にして、これに對して大規模の攻撃も加へず、傍觀的態度をもつて見送つてゐた。そのことは、つぎの諸事實によつて證明される。

(1)長汀は十一月一日東路軍の手に落ちたが、東路軍入城のころには共産軍の影さへ見えない有様で、中央、共産兩軍とも戦はずして漸次西方に向けて移動しつゝある。

(2)一方中央軍は薛岳の部隊を贛州に送つたが、概ね急追することなく、主力部隊の中心區撤退を見送るものごとくであつた。

(3)廣東軍は共産軍の移動に當り、廣東北部を難なく突破されたが、その移動後に漸次これを回復した。

(4)湖南軍は四ヶ師團を萊陽、安仁、茶陵の線に配したにとゞまり、遠くより共産軍の通過を傍觀した。

(5)共産軍の小部隊さへも間道に間道を抜けて巧みに撤退した。

かくして共産軍は中央ソヴェート區域を放棄して西方に移動するにあたり、その兵力を損することなく、無人の境

を行くがごとく西進したのであつた。しかもそれに先立つて、四川、湖南、貴州の三省にわたつて、すでに廣大なる地域が確保され、彼等の西進を迎へてゐたのである。それゆゑに『江西の共産區を回復したことが、直ちに貴州と四川とにより、強大なる共産區を建設せしめる結果となる』とオリエンタル・アフエア誌の漢口通信員が報道してゐるのは、眞相を熟知するものゝ卓見といはなければならぬ。

かくして中央ソヴェート區域は放棄されても、その兵力と勢力とは多大の損害なくして西方に移動し、そこに新しいソヴェート區域が廣大なる地域にわたつて建設されることゝなつた。瑞金は放棄されても、新しい首都はたゞちにいづれかの地點に決定されるれば、たゞちにまた支那ソヴェート共和國臨時中央政府は存在し得る、それは支那の首都が廣州から武漢へまたは北京から南京へ移されたのと、少しも相異はない。

それゆゑに私は、長汀、瑞金は陥落したのではなく、支那ソヴェート政府は顛覆されたのではない、たゞ放棄、移動されたまでであると思ふ。それゆゑにまた私は、天津『益世報』のごとく、(1)南京政權の軍事工作の成功、(2)支那ソヴェート政府の顛覆、(3)支那共産軍の消滅(十一月十四日社説)であると斷言することはできない。

第三節 長江貿易の前途と諸問題

長江流域十二港の外國貿易額は全支那の外國貿易額の平均五〇%以上を占め、重要な地位におかれてゐる。

この長江貿易において、アメリカ第一位を占め、日本これに次ぎ、イギリスは漸く第三位にして、この三國の競争は激烈である。

この長江貿易も、かの一九三〇年の大水災、支那農業恐慌の深化による農民の大衆的没落、地主、商人、高利貸の

搾取の強化、軍閥の封建的搾取、帝國主義による農民家内工業の没落、民族工業の没落、さらに廣大なるソヴェート區域の經濟封鎖等によつて、最近數年來次の如くに減退しつゝある。(單位千銀元)

年 度	輸 入	輸 出	合 計
一九二九年	一、〇五四、一三四	六二〇、八二八	一、六七四、九六二
一九三〇年	一、一四一、〇三五	五二四、六八五	一、六六六、〇二〇
一九三一年	一、三九一、一二七	四八二、九二九	一、八七四、〇五六
一九三二年	八八〇、〇九四	二八七、八八九	一、一六七、九八三
一九三三年	八一三、〇六六	三二四、八九三	一、一三七、九五九

今、福建、江西にわたる廣大なるソヴェート區域が、南京政權の下に回收され、これに對する經濟封鎖は解除され、外國商品の販路になり得ることは、長江貿易にとつては有利なる條件であり、この一點から見るときは、長江貿易は中央ソヴェート區域の放棄を契機として、増加するだらうと推定することができる。

しかしそれは、一面的な樂觀にしかすぎない。それは何故か？

- (1) その地方の地主、ブルジョアジは共產軍の脅威の下に、金を懐にして上海、南京等に逃亡してゐる。
- (2) 峻烈なる反富農闘争の下に富農は絶滅し、中農も疲弊してゐる。
- (3) 貧農その他は土地を分配されてゐたが、再び南京政權の下に土地を取上げられ、再び地主、高利貸、商人に搾取されるであらう。
- (4) 共產軍によつて多額の紙幣が発行されてゐるが、これが南京政權によつて兌換されることはあるまい。

(5) 世界經濟恐慌の下に、農村工業は破壊され、支那農産物の海外市場は縮小されてゐる。

(6) 中央ソヴェート區域が回收されても、これに相當する新しいソヴェート區域が、湖南、貴州、四川省に打ち樹てられ、これに對してまた經濟封鎖が行はれ、それは支那市場から離脱されるであらう。しかもこの區域の大部分は長江貿易圏に屬してゐる。

(7) しかも四川省の豊富な物資とその民衆の購買力が、支那市場より離脱するにいたれば、中央ソヴェート區域の喪失以上に、大なる損害を長江貿易に與へるであらう。

(8) なお長江流域一帯の購買力は、一九三四年の大旱魃、その他種々なる事情によつて、減退こそすれ増進することとはあり得ない。

以上の諸事情を総合するときは、中央ソヴェート區域の回收は、長江貿易にとつて一時的な、表面的な樂觀材料たり得るとしても、決して永久的な、實質的な樂觀材料ではあり得ないことが判る。蓋し一時的には、一斤三元もし、しかも缺乏してゐた鹽や、一尺二元以上もした綿織物などが、急激に舊中央ソヴェート區域に移入さるるであらう。しかし上述の諸事情のために、對江西貿易は、決してソヴェート政權樹立以前の貿易水準を回復することのできないことは明白である。

なほ仄聞するところによれば、長江貿易にとつて、二つの重大な悲觀的契機が存在する、しかもそれは殊に日本にとつて、重大なる關係をもつものである。すなはち

(1) 國民黨の第五回全國代表大會の招集を繞つて南京政權廣東政權の對立が激化し、しかもその間に横はつてゐた緩衝地帯たるソヴェート區域の回收により、その衝突を容易ならしめてゐる。

(2) 支那大小軍閥の共同の敵たるソヴェート區域の一時的移動により、諸軍閥間の對立を漸次表面化しつゝある——たとへば湖南の何健と廣西の白崇禧の對立。

(3) 支那共産黨は今や完全に李立三コースを清算し、その社會の半植民地性に順應して、反帝國主義闘争に重點をおき、民族革命を高調し、廣東政權との諒解を遂げ、共同戦線の旗の下に勢力を擴大すべく戰略を轉換しつゝある——たとへば民族武装自衛會の組織のごとき。

(4) かゝる轉換にあつて、第一の目標として選ばれたるものは日本にして、南京政權殊に黃郛政權の親日化に伴うて、全支那に排日運動が展開されせぬかと考へられる。

これらの諸事情を見るときは、舊中央ソヴェート區域一帯にわたり、破壊的な軍閥戦争が展開され、なほ全支那にわたつて排日運動が展開されるかも知れない危機が伏在してゐる。他方また、長江貿易におけるイギリス、アメリカの競争はますます激化するであらうことが豫期される。

それゆゑに私は、瑞金の陥落を支那ソヴェート政權の顛覆として、瑞金の放棄を中央ソヴェート區域の放棄と解することを誤謬であると信ずるとともに、またかゝる誤れる觀點の下に、しかも一面的な觀察によつて、わが長江貿易は、これを一轉機として、前途洋々たるものがあると斷ずることを指摘しなければならぬ。

吾々が重大なる關心をもつものは、今後における支那ソヴェートの行方である。支那ソヴェートはたとへ江西を放棄しても、決してかの太平天國の運命を追ふものではない。支那ソヴェート政權が三年にわたつて、江西、福建において試みた政策は、少くとも支那と支那民衆が當面する問題を根本的に解決せんとする努力であつた。その幾多の經驗は、多くの教訓を與へつゝ、西方移動後の支那ソヴェート政權に新たなる針路を與へるであらう、たとへば仄聞す

るに、支那共産黨はその反富農闘争を緩和し、小商工業ブルジョアジーにも多量の讓歩を與へるであらうといはれてゐる。かゝる轉換せる新經濟政策の下に、守るに易き地域において一時休養しつゝ、その勢力を擴大し、捲土重來するものではあるまいか。

支那の妖怪は、かくして依然として、全支那及び全世界を威嚇しつゝける。

第六章 支那共産軍の現勢

——西北支那ソヴェート化の進展——

第一節 中央ソヴェート地域の放棄

中央ソヴェート政權の首都瑞金が放棄されたのは、一九三四年の十一月十日であつた。それからはや七ヶ月の歳月が流れた。

首都瑞金の放棄にあつて、支那の諸新聞は、(1)南京政府の軍事工作の成功、(2)支那ソヴェート政權の顛覆、(3)支那共産軍の消滅であると報道し且つ慶祝した。しかしそれが事實をいつはる宣傳にすぎなかつたことは、その後における支那共産軍の活動が、これを證明してゐるのである。

その當時私は、支那共産黨は、計畫的準備の下に八月中旬より漸次に共産軍の西方移動を開始し、九月二十六日の國民黨軍の總攻撃令の下るとともに、愈々主力部隊の移動を開始し、怯懦な軍閥の傍觀的見送のなかに、その兵力を損することなく無人の境を行くがごとく、西進に成功したといつた。(前章参照)

なほその際に私は、かくして中央ソヴェート區域は放棄されても、その兵力と勢力とは多大の損害なくして西方に移動し、そこに新しいソヴェート區域は、廣大なる地域にわたつて建設されることゝなつた。瑞金は拋棄されても、

新しい首都はたゞちにいづれの地點にか決定されるれば、直ちにまた支那ソヴェート共和國臨時中央政府は存在し得る(同上)と述べた。

その後において、以上のことは、如何に事實において現はれたか？

第二節 支那共産軍の配備

その後一九三五年初頭における支那共産軍の配備並に勢力を見るに、略ぼ次のごとくである。

(1)西方に移動せる共産軍の主力たる朱德、毛澤東軍は貴州の北西隅にある赤水、土城一帯に達してゐた。その兵力は約五萬、軍・政指導者は毛澤東、朱德、彭德懷、等にして、別にロシア顧問リトロフ少將(支那名李德)がゐる。

(2)先頭部隊であつた蕭克、任弼時軍は、湘鄂西區の賀龍、夏賡軍と合し、湖南北西部の桑植、大庸、永順一帯に集結した。その兵力は一萬五千と算へられてゐる。

(3)江西西南部に残存してゐた共産軍は、葉劍英、徐考剛の指揮に歸し、概算三萬五千あるといふ。

(4)一九三四年七月から八月にかけて、福州及びその北方を遊撃した共産軍の一支隊は、福建北部において舊江西東北區の方志敏軍と合流し、東南軍事委員會を組織し、方志敏が主席に、劉仇西と尋淮州が軍長となり、浙江南部を横斷して、安徽に入り蕪湖を壓迫した。その兵力は約四千だといふ。

(5)鄂豫皖區は、一時吳煥先、沈澤民、徐海東等によつて再建されたが、一九三四年十一月中旬、彼等は二千を率ゐて西方に移動し、洛陽の南方を通過し、陝西南部の鎮安、柞水から、寧陝、石泉に入った。

(6) 鄂豫皖區にはなほ二千の共産軍が残存してゐる。

(7) 徐向前の率ゐる共産軍は二年半も前から、鄂豫皖區を去り、陝西南部並に四川北部に入り、張國壽、陳昌浩等と中華ソヴェート共和國西北軍革命軍事委員會を組織してゐるが、その勢力は四萬餘に擴大され、陝西南部から四川東北部を占領し、四川においては、通江、萬源、南江、區中、儀隴に牢乎たる地盤を築いてゐる。

(8) 第二十六軍(軍長劉子丹、師長謝浩如)と第三十五軍は、延安、安塞、保安、延川、清澗、安定、吳堡、綏德、米脂、葭吳、神木、府谷(以上陝西)嵐(山西)一帯にソヴェート區を形成してゐる。

以上合計共産軍の兵力は約十三萬にして、それが陝西北部から四川の東南、湖南の西部を経て、雲南貴州の西部に、略ぼ南北に一線を描いて配置されてゐる。中央ソヴェート區への集結から、今やその西方にあたり、南北に配置替えられた形勢であるにすぎない。そしてそれが漸次に發展せんとしてゐるのが、その後の趨勢である。

第三節 その後における共産軍の發展

支那共産軍の主力部隊が西方に移動するや、その討伐成功が慶祝されてゐるうちに、總司令部行營は江西の南昌から湖北の武昌に西遷し、追剿陣營もまた西方へと移動し、三月一日から武昌において、事務が開始されることになつた。

それに先だつて蒋介石は幕僚をしたがへて、二月二十一日武漢に移駐したが、四川における共産軍の活動は、先づ活況を呈して来て、その席改まる暇もなく、參謀團の入川に後れて、三月初旬蔡介石は重慶に飛び、討伐の指揮にあたらねばならなくなつた。その後三月には貴州方面また危險に陥り、三月二十四日更に貴陽に飛んで、蔣氏また遊撃

に忙殺されてゐる。

貴州北部に主力を集結せる共産軍は、徐向前軍の南下に呼應して、四川に北上せんとした。かくて一月二十八、九兩日、四川軍との間に、合江、松文對赤水、土城間において激戦が行はれたが、この激戦に共産軍は北上を中止し、二月の初旬、西の方四川の古蘭、敘永に移動し、同月十二日頃雲南の威信、鎮確、牛街一帯に侵入した。だが雲南軍の進撃によつて再び東方に移動し、二月末には貴州北部の遵義、桐梓、婁山關一帯に占據した。三月に入り討伐軍は遵義の奪回を謀り、三月十二日遂にこれを克服したが、朱德、毛澤東の共産軍は猛烈なる逆襲を試み、同二十五日、第三回目に同地を占領した。かくて貴州の形勢が緊張するや、蒋介石は形勢愈々重大と觀測し、同二十四日飛行機で貴陽に南下した。これを知つた共産軍は、一舉に勝敗を決せんと、朱手軍二萬、董振堂軍一萬六千、彭德懷軍一萬餘合計約五萬の大軍を集中し、貴陽攻撃を開始し、朱毛、林彪、董振堂軍は貴陽の北、息烽に、彭德懷軍は北西修文に現はれ、四月三日から五日まで、一大激戦が行はれた。これに對する討伐軍は、中央系の薛岳(綏靖主任)、貴州王家烈兩軍合計七萬五千、貴陽城に戒嚴令を施き、蒋介石自ら陣頭に立つたが、激戦の結果討伐軍は死傷二萬を出し、辛うじて共産軍を撃退した。朱毛軍はその後復た東北方遵義、婁山關に移動し、思南または湄江方面に進出し、蕭克、賀龍軍に合流するか、四川に進出して徐向前軍に合流するものごとく見えたが、四月上旬には再び突如として貴陽に出現、中央軍の格納庫を襲ひ、飛行機二十數臺を破壊し、その主力は漸次壓力を増大し、息烽、廣河一帯より貴陽に迫り、中央軍は相當多數の死傷者を出し、且つ軍器糧秣を無數に奪取され、蔣氏も貴陽において一時窮地に陥り、貴陽を脱出するの外なきにいたつたが、これに反して共産軍の勢は漸次擴大の一途を辿るのみであつた。この激戦において、中央軍は辛うじて共産軍を喰ひ止めたが、朱德の戦死説が流布されたのも、その際であつた。支那新聞は固

より、我が新聞にも朱徳戦死説が現はれたが、それが一種の宣傳にすぎなかつたことは、その後の事實によつて證明されて来た。

貴陽攻略に失敗した共産軍は、このたびは遵義に引返さないで、貴陽の東方、壑安、平越、貴定、更に黃平、施秉、鎮遠方面に向つたといはれてゐたが、その後貴州省の西南部を通過し、四月二十四日には大舉して雲南に侵入し、平彝、羅平縣下に到達し、首都雲南（昆明）は混亂に陥つた。共産軍總督朱徳は、その故郷雲南進撃を開始するにあたり、二十四日臨時中央政府所在地たる貴州省西境安普において、軍事委員會主席の名をもつて、雲南民衆に告ぐるの書」を發表したが、その宣言の要旨は次のごとくである……。

『余は郷關を辭して茲に廿年、東奔西走専ら革命のために盡瘁した。今次中華ソヴェート共和國中央政府の命を奉じ、十萬の共産軍を率ゐる歸郷せんとす、誓つて軍閥政治を掃蕩するとともに、英佛帝國主義の支配を顛覆し、我が雲南二千萬の被壓迫民衆を解放すべし』

雲南に共産軍が侵入したとき、雲南軍の主力は孫渡がこれを率ゐて貴州省に入つてゐたため、雲南の防衛は極めて手薄であつた。蔣介石は二十數臺の飛行機を出動せしめ、中央貴州兩軍をして追撃せしめた。共産軍は二十五日昆明の東方約百五十支里（六支里は我が約一里）の陸良一帯に出沒、澳越鐵道を遮斷せんとする形勢を示し、なほ二十六日には雲南軍は馬龍、瀘西を連ぬる第二線を抛棄、總退却を開始した。かくて雲南省城は重大危機に直面し、二十五日以来省城一帯には戒嚴令がしかれ、夜間は一切の交通が禁止され、晝間は城門において通行人の身體検査が行はれ、在留外人及び富商は續々國境を越えて佛領印度支那へ避難しはじめた。

かくて省主席龍雲は、二十七日午前宜良に出馬、後方部隊を前線に動員し、敗軍を北路の易隆、南路の瀘南に集結

して、必死の防戦に努めた。中央軍より派遣された爆撃機十五臺も、連日前線に飛んで爆撃を加へ、共産軍林彪の主力軍二萬は師宗にあり、その西方地帯において激戦が展開された。

この激戦に奏效しなかつた共産軍は今度は東轉することなくして、北進するにいたつたのである。こゝに四川北部の徐向前軍と朱毛軍との提携への近狀を述べなければならぬが、それまでの徐向前軍の活動を一瞥しやう。

第四節 四川共産軍の陣容

徐向前軍は鄂豫皖より陝西に入り、更に陝西より四川、甘肅に進入したものであるが、四川に侵入したのは早や三年以上である。その當時兵力如何といふに、一萬以上一萬五千以下、銃八千挺以上一萬挺以下であつたらしく、その編制はまた次のごとくであつた。

第四方面軍	軍長	徐向前
第十師	師長	王洪坤
第十一師	同	米德冲
第十二師	同	鄭繼助
第十三師	同	何畏
第七十三師	同	李某

しかし一時陝西においては、寧羗、沔縣、陽平關より甘肅の白馬關までも占領したが、間もなく四川に引返し、田頌堯を捕撃して蒼溪を奪回し、南江、邊甲、儀隴、昭化、岩元、閬中合計七縣を保持し、陝西南部にも進出して

る。四川侵入以來、その勢力は擴大するのみにして、今や四軍に擴充され、更に原來顏德基軍なりしが後に劉存厚に歸屬した王維周軍をも一軍に編制し、合計五軍四萬四千を有してゐるが、その組織系統は次のごとくである。……

中華ソヴェート共和國西北革命軍事委員會

主席 張國壽

中國勞農紅軍西北軍區總指揮部

總指揮 徐向前

總政治委員 陳昌浩

副總指揮 王樹森

西北軍區政治部

主任 陳昌浩

副主任 曾傳六

參謀處

參謀長 倪志亮

總經理處(修械處、印刷廠、縫衣廠)

主任 鄭義齋

總醫院

院長 周光垣

主任 張琴秋

軍事學校

第四軍(第四方面軍の主力、その主力は第十二師にして全軍人材防武器共に優秀、

軍長 王洪坤

軍政治委員 許某

第十師(二八團、二九團、三〇團)

第十一師(三一團、三二團、三三團)

第十二師(三四團、三五團、三六團)

第九軍(戰鬥力は第四軍に次ぎその主力は第二十五師)

軍長 何畏

軍政治委員 詹才芳

第二十五師(七二、七三、七四の三團)

第二十六師(七五、七六、七七の三團)

第二十七師(七八、七九、八十の三團)

第三十軍(戰鬥力は第九軍に次ぎその主力は第十九師)

第八十八師(二六二、二六三、二六四の三團)

第八十九師(二六五、二六六、二六七の三團)

第九十師(二六八、二六九、二七〇の三團)

第三十一軍(戰鬥力は第三十軍に同じくその主力は第九十一師)

軍長 孫玉清

軍政治委員 曾傳六

第六章 支那共產軍の現勢

第九十一師（二七一、二七二、二七三の三團）

第九十二師（二七四、二七五、二七六の三團）

第九十三師（二七七、二七八、二七九の三團）

第三十三軍（全部新編制にして、兵質武器ともに劣る）

軍 長 王 維 周

軍政治委員 陶 先 理

第九十七師（二八九、二九〇、二九一の三團）

第九十八師（二九二、二九三の二團）

これらの四川共産軍は四川の東北部より、常に南下を企て、成都、重慶もこれまで幾度か危険を報ぜられたが、最近雲南方面より朱毛軍の北上するや、復又五月に入り、活潑に南下運動を開始し、成都の北部、安縣、茂縣地方を執拗に襲撃し、討伐軍を牽制しつつある。

他方一時雲南攻略を中止して北進をはじめたる朱毛軍は、たゞちに四川に入り、その先頭部隊は五月初頭すでに西昌に到達し、これに續く羅炳輝の第九軍團は巧家より金沙江を渡り、寧南に進出しつつあり、一方、第一、第三、第五の主力部隊は昆明の北方武定を経て四川省會理に進軍中である。

しかるに四川に殺到した共産軍は、討伐軍の戦意なきと土民の援助を得たるに乗じ、無人の境を行くがごとく、早くも五月五日拂曉には羅炳輝の第九軍團と第一軍團の一部、合計一萬餘は西昌に入城し、同日正午には總指揮朱德、毛澤東に率ゐられた共産軍の主力と支那ソヴェート共和国重要人物は、堂々と西昌に入城式を舉行し、四川西南部の

各縣に對して、たゞちに大規模の活動を開始し、こゝに共産軍主力の四川侵入の第一歩が印せられたのである。

蔣介石は共産軍が四川に侵入したので、貴州雲南方面よりの中央軍の迫撃は一先づこれを中止することに決定し、他方四川の劉湘劉文輝軍に對して、嚴重な討伐令を發したのである。しかるに劉文輝は劉湘との一戦に敗北後は、四川西部の雅安、漢源に蟄居し、最近參謀團が四川に入つてからは、秘かに朱毛、除向前等の共産軍と氣脈を通じ、自己の地盤を西康省方面に延長せんと計畫中であつたが、共産軍が愈々金沙江を渡河したるを機とし公然と中央軍に背反し、完全に共産化の態度を表明した。その兵力は約十萬といはれ、その共産化は共産軍に一大威力を加ふるものにして、四川各將領はいふに及ばず、中央軍に一大衝動を與へてゐる。かくて同方面における共産軍の勢力は、今後擴大する一方にして、更に北進すれば、峨眉山の南、峩邊、馬邊、雷波三縣に互り、劉伯承が創建した峩馬邊ソヴェート區があり、犍爲より成都に延びるであらう。

他方討伐軍側の田頌堯軍は、近來徐向前軍に大打撃を受け、遂に昭化、劍閣より鹽亭、南部、營山を繋ぐ嘉陵江流域一帯を占領され、西充、錦陽に退守し、その勢力は不振を極めてゐる。且つ田頌堯は防區問題を繞つて反蔣の旗幟を明瞭にして、四川軍閥を糾合し、叛旗を翻さんとすることが發覺し、蔣氏は表面上今回の敗戦を理由として田氏の免職査辨を命令したが、田氏は今なほ現職にとゞまつてをり、四川討伐軍の陣營は、歩武頗る亂れ、共産軍の討伐、四川の統一は相當困難な地位にある。

第五節 四川共産軍の發展と今後の方向

その他東方においては、方志敏軍の潰滅、葉劍英及び徐考剛の遊撃隊があるが大なる反響なく、蕭克、賀龍軍は、

依然湖南西部において討閩軍を惱ましてゐる。

川陝ソヴェート區は依然として屹立するも、蕭賀軍の困守不振と主力軍の無軌道的彷徨、その渡江の可能性の缺如等により、未だ星雲状態を脱せず、どこに凝化するか一向見當がつかないといはれ、西北赤化は進捗してゐないと斷ぜられてゐた共産軍の状態は、主力軍の四川侵入、劉文輝軍の共産化、四川將領の動搖等により、漸く四川凝化、コミンテルンルートの実現といふ見當がつくやうになつたといひ得る。

第七章 四川における共産軍の將來

第一節 四川に於ける共産軍の發展

四川においては、共産軍徐向前軍の侵入し來る前に既にその北部に小規模ながら、ソヴェート區域が共産軍の武力の下に樹立されてゐた。しかし四川において、共産軍問題が重大化したのは、實に徐向前軍が侵入してからである。

徐向前の率ゐる共産軍は、從來河南、安徽、湖北一帯に活躍してゐたが、徐向前自身黄埔軍官學校第二期卒業生にして、ロシアに留學したることより、頗る共産主義に精通し、その軍隊の規律も最も嚴格にして、戰鬥力に富み、共産軍中最も蒋介石の憎むところであるといはれてゐる。それと相待つて、その活躍地域が支那の中原であるだけに、最も早く國民黨軍の壓迫を受け、先づ河南、安徽境界より河南西部へ、繼いで陝西南部湖北部に西方移動したのである。そして一九三二年十月頃には、湖北省北部の隨縣、棗陽一帯において、活躍してゐたが、その當時何成濟軍に壓迫されて、陝西省の南部南陽方面に退却した。

その後十一月には、徐向前軍の一部七千餘名が、はじめて四川省北部に侵入し來り、こゝに四川におけるソヴェート區域擴大の第一歩が踏み出された。國民黨側の報道によれば、七千餘のなかで武器を有するものは、二千餘名にすぎなかつたといへ、多年に亘り壓迫搾取を事とし、且つ相互に防區制を設けて、連絡なき四川軍閥を撃破するには、それで充分であつた。かくて間もなく通江、巴中、南江の諸縣を攻略したのである。かくて通江に川陝ソヴェート省政府を樹立したのである。

一九三三年五六月の交には、一時四川軍のために、これらの地方を失ふにいたつたが、後ちその勢力を挽回して、漸次優勢となり、同年十月九日より更に南下を開始し、渠縣を占領し、廣安、大竹附近において楊森軍と對峙してゐたが、更に十一月初には嘉陵江に沿うて下り、武勝、合川に迫り、重慶を脅かし、また一部は四川の首都重慶に追撃せんとする形勢を示すにいたつた。他方湖北省より西進し來れる賀龍軍約一萬八千は、徐向前軍と響應し、漸次四川省萬縣に近づき來り、當時四川省東部の約五分の一は、共產軍に占領され、汪精衛をして、當時「四川における共產黨の横行も政府要人がさぶる憂慮してゐるところである」(十一月二日南京發聯合)と歎せしめたほどである。

第二節 討伐の困難と恵まれたる天富

その後四川における共產軍は、大なる發展を示さず、寧ろ壓迫され勝ちであつたが、一九三四年八月中旬より、江西の蕭克軍が湖南、貴州への西方移動を開始するや、四川各地の共產軍はこれに響應して、攻撃に移り、四川北部の巴中、儀隴にあつた四川聯合軍第三、第四兩縣を全滅し、南下をはじめ、再び重慶方面の形勢危険となり、人心動搖し、已にドイツ重慶領事館員家族をはじめ、漢口への避難者が續々下江するにいたつた。(九月二十六日漢口發電通)その後彭德懷軍、等江西共產軍が、湖南貴州への移動を開始するにいたり、これと響應し、この大部隊を迎へるために、四川における共產軍の發展は急激となつた。

かくて共產軍討伐において、その無能を發揮した劉湘、四川著後督辦兼用省剿匪總司令——は、八月二十三日その本兼職辭任を中央に電請したほどである。劉湘の辭職するにいたつた理由について、その側近者の談によれば、次のごとくであるが、如何に四川軍閥が共產軍討伐について、苦惱してゐるかを窺知し得る。

「第一、劉氏は四川の各軍を率ゐて共產軍を討伐すること一年に及んでゐるが、この一年間に軍費一千餘萬元を費してゐる。劉湘は軍費調達のために、種々の租税を課徴し、漸く四百萬元を得たにすぎない。共產軍討伐に従事してゐる大軍は二十二萬に達し、劉湘自身の第五路軍のみでも一日に軍糧八百石を要し、各路軍を合計すれば、一日一千六百石に達する。かゝる財政の困難に際して、他方よりの補助は全然ない。

第二、劉湘は一年間に討伐のために小銃彈千萬發を要してゐるが、兵工廠なきためこれを補充することができず、中央からは僅に三萬發の支給を受けたにとゞまる。

第三、各討伐部隊の行動に連絡がなく、また命令が遵守されない。それ故に劉厲溘の戰場において、大敗したのも他部隊の救援せざるによる。(八月三十一日「大公報」南京通信)

かゝる財政の窮乏と軍閥相互の不統一とは、劉湘の復任と南京政權よりの財政的援助により、稍々緩和されたといへ、決して四川における共產軍の發展を阻止することは困難である。南京政府その他は、共產軍の中央ソヴェート區域及び瑞金の放棄をもつて、討伐の成功とし、ソヴェート政權の消滅、共產軍の壊滅と稱して欣んでゐるが、事實はこれに反する。オリエンタル・アフェアーズ誌の漢口特派員がいへるごとく、

「江西の共產區を回復したことが、たゞちに貴州と四川とにより強大なる共產區を建設せしめる結果となる。」
また反蔣派は、第五回全體會議を有利に導かんがために、共產軍を廣東、廣西方面の反蔣區域に驅逐したにすぎないといつてゐる。

かくて今後、江西の中央ソヴェート區域に代り、物資に富む湖南、貴州、四川に亘り、新しいソヴェート區域が建設されつゝある。しかしその中心は四川であることは「大公報」の論ずるがごとくである。

『貴州省は原より赤道の目標の存するところではない、蕭克(匪)が前にすでに省(城)を距ること二百餘里の地に進出せるに、教士(宣教師)を拉去し、しかし遲ちに貴陽を得ずして乃ち急に北進を圖れるを觀る如きは、益々その目的が始終四川にありて、貴州にあらざることを知るべく、貴州の前途は斷じて四川政局のごとく危からず。これによつて推論するに、所謂四川貴州湖南の危機は、結局仍ち一つの四川問題に歸す。これ國人の明知すべき點なり』(十月二十三日社説)

かくして今や四川は『第二の江西』とならうとしてゐる。かくて楊公達は『共產軍は四川の危険であるか?』と自問しつゝ次のごとくその危険を肯定してゐる……

「しかり、確かにしかり、政治經濟方面から見ると、この『天富の國』たる四川が、若しも赤化したならば、ソヴェート政府が成立し、門戸を閉鎖して自守することを得、自給自足することを得、その状態は江西とは異つてゐる。地理的方面から見ると、四川が若しも共產軍に占領されたならば、新疆よりモスコへの道を開き、互に相呼應し、勢力を擴大し、武漢に脅威を與へることができ、一臂の力をも費さずして雲南貴州に侵略することができ、民族方面から見ると、四川人は煽動され易いから、共產黨の宣傳は、四川人は非常に受け易い、赤化はいふまでもなく困難ではない。』(一九三四年、一一、一、『晨報』星期時論欄所載楊公達稿『共匪は四川の危険であるか』)

孟長泳は、更にこの問題について、經濟地理的方面より、より具體的に述べてゐる。

『四川は一つの奥地の人口の多い省である。西ヨーロッパの如何なる國家よりも、より多くの土地と人民をもつてゐる。この省は、面積においてもよく、人口においても、十八省中最も大きく、日本群島よりも大きい。四川の殆んど全部は小地であるが、西部の山脈が非常に高い。中央には肥沃な平原があり、赫士盆地または成都平原と呼ばれ

てゐる。そこは非常によく灌漑されてをり、世界における同一面積に比し、最も多くの人口を養ふことができるといはれてゐる。

四川は硫産に富み、石炭、銅、鉛、金、石油、アンチモニー、鉛、亜鉛、硫黄、硝石、石膏、硝酸鹽、玉、雲母、石綿等が豊富にある。』(チャイナ、ウィクリー、レビュウ)一九三四、一〇二〇所載孟長泳稿『四川は何處へ行く』)

かかる廣大にして富裕なる四川に、ソヴェート政府が樹立されるであらうことは、江西のごとき狭小にして貧瘠なる地域におけるとは、遙かに重大性をもつものといはねばならない。

第三節 四川封建軍の跳梁

吾々は、かかる自然的條件のなかに、共產軍發展の基礎を求むることはできない、吾々は四川における社會的生產關係のなかにこそ、共產軍發展の社會經濟的基礎を發見しなければならず、またこれを發見し得るのである。

先づ四川において搾取階級の頂點に立つ軍閥を見やう。

四川省は内戰の温床としても有名である。四川軍には組織がないから、省内の軍隊の精確なる數を知ることはできないが、一般には八十萬を下らないと推定されてゐる。次表は軍閥の名稱、その指揮する軍隊、その各々の防備區域を示すものであるが、それはまたしたがつて、省内が軍閥の支配の下に幾つかの區域に分割されてゐること、斷えざる武力衝突の原因が存在することを示現しまた説明するものである。

第二十一軍 軍長 劉 湘 防備區域

第一師 唐 式 遵 成都、重慶

第七章 四川における共產軍の將來

第二篇 ソヴェート運動篇

第二師	王 緒	揚子江東部
第三師	王 陸	汝縣、重慶
第四師	范 紹	貴地方四十縣
第五師	劉 崇	
教導師	潘 文	
潘兵隊	陳 蘭	
第一獨立旅	陳 蘭	
第二獨立旅	陳 蘭	
砲兵師		
航空隊		
第二十軍	楊 森	順雲府
第一師	楊 漢	
第二師	楊 漢	
第三師	楊 漢	
砲兵師	楊 開	
第二十四軍	劉 文	雅州府、四川
第五師	李 輝	西東境
第六師	劉 文	
第七師	劉 文	

防康防備師 劉

第二十四軍

第一師

第二師

第三師

第四師

以上四ヶ師は從來劉文輝の部下なりしも現在は分離してゐる。

第二十八軍 軍長 鄧 錫 侯

第二師

第三師

成部及びその北部

川陝甘防備軍

第二邊境防備軍

教導師

第二十九軍 軍長 田 頌 堯

全部で十ヶ師を有す

第二十二軍 軍長 劉 存 厚

第六師 李

第一師 劉 邦 文

邊境防備軍 軍長 李家 開

第七軍 四川における共産軍の將來

綏定府、宣漢等大縣

成部及び田川北部

第七軍 四川における共産軍の將來

第七軍 四川における共産軍の將來

第六師 促前部錫價の部下なりしも現在分離してゐる。
第二十三師

かゝる多数の兵力を擁する大小軍閥は、『大公報』のいふごとく、搾取これ事とするも私腹を肥やし、戦闘心に缺如してゐるのである。

「査するに川籍の士兵は、必ずしも一戦に堪えざるにあらざるも、祇だ將領が發財すること太多く、私心太多く、本身は拚命の勇なく、人に對して合作の誠なきを以て、一般官兵は待遇太だ厚く、訓練太だ少く、外に良好の領導なく、内に奮闘の精神を缺き、重ねて敵愾を振はんと欲するも、一に積習に反し、恐らく木に縁りて魚を求むる慨あるに終らん。川人此に因り、川軍の任何なる領袖と部隊に對しても、今やすでに完全にその信仰を失ひ、命令中央の實力應援し、前後督責するにあらざれば、絶対に茲の頽勢を攪し、毒氣を禦ぐこと能はざると認む。」(一九三四、一〇、二三『大公報』社説)

かゝる軍閥の搾取下にある四川財政を見るに、毎年の収入は

- 一九一六 一四、〇〇〇、〇〇〇元
- 一九二五 五八、〇〇〇、〇〇〇元
- 一九三四 一五〇、〇〇〇、〇〇〇元

かくて現在においては一九二五年の三倍、一九一六年の十倍に達してゐる。それ故に決して四川財政は窮乏してゐるとはいへない。たゞ軍閥がこれを消費着腹してゐるのである。

『中國日報』は、

「近年來四川軍人(大山軍閥を指す―筆者)の窮奢極慾は、舉世に備なく、一團長を以てして、實に數十萬を擁し、中飽(中間着腹―筆者)の風は全國に用たり、凡そ財政を埋むるものにして、富翁にならざるはなし。」(一九三三、一一、二四『中國日報』社説)

と述べてゐる。

第四節 四川の苛捐雜税と地租の長期前徴

かゝる大小軍閥の支配下における四川財政の異常な膨脹は、その搾取の強度化を反證してゐる。孟長泳の調査によれば、地租の前徴は、軍閥の防備區域に見るに、二十二年乃至三十八年も前まで行はれ、かくて最も酷なるは一九七二年分までもすでに徴收してゐるのである。(一九三四、一〇、二〇『チャイナ、ウィークリー、レビュー』)

劉	湘	一九五六年迄	前徴期間	二二年
楊	森	一九五六		二二年
劉	文	一九六一		二七年
鄧	錫	一九五六		二二年
李	其	一九五六		二二年
田	頌	一九六五		三一年
劉	存	一九七二		三八年

その他各種の苛捐雜税を徴收してゐる。

第三篇 國際關係篇

第一章 支那市場における列強對立の激化

第一節 列強の對支侵略の史的發展

支那市場における列強の進出は、近代においては、十六世紀初頭におけるポルトガルの進出にはじまる。だが當時はまだ、ヨーロッパの資本主義發達前史の時代であり、商業資本による所謂『本來的蓄積』の時代であり、しかもその後スペイン、オランダ等相繼いで、支那市場に出現したが、殆んど同時的ではなかつた、それ故に、その時代、これら諸國の間に對立があつたとはいへ、それは封建的獨占による對立で、まだ資本主義的競争乃至獨占による對立ではなかつた。

これら諸國に繼いでイギリスが、支那市場に出現することになると、狀勢は漸く一變し、列強の支那市場進出は、資本主義段階に入り、アメリカ、フランス等の間に、支那市場における自由競争による對立が發生したとはいへ、まだこれら諸國においては、資本主義は舊資本主義段階にあり、したがつて資本主義的獨占による激化せる對立は、まだ見られなかつた。したがつて、列強の支那民族運動——太平天國革命、義和團暴動——に對する態度も、常に協調的一致的であつた。

しかるに、資本主義が、産業資本より金融資本にまで發展し、自由競争から獨占——資本主義的獨占——が發生し資本の輸出が特徴的となり、新資本主義——すなはち帝國主義——の段階に入るや、こゝに支那市場における列強の對立は、はじめて激化するやうになつた。その時代は、レーニンのいへるがごとく、二十世紀の始めである……。

『ヨーロッパについては、新資本主義が舊資本主義と決定的に交替した時期を可なり精密に確言することができるのであつて、それは、二十世紀の始めである』——『帝國主義』岩波文庫版、第二九頁。

帝國主義段階に前後して、日本資本主義も急速に發達し、日清戦争による巨額の賠償金支拂に伴ふヨーロッパ資本の支那借款への進出、馬關條約による開港場における外人産業經營權に伴ふ資本の對支進出により、こゝに資本の輸出が、商品の輸出に替つて、列強によりて、特徴となり、こゝに列強の支那侵略は、はじめて帝國主義段階にまで發展した。

帝國主義の對支侵略による清朝政權の崩壊ブルジョア民主主義革命——勿論不徹底ではあるが——による一九一一年における中華民國の出現、その經濟建設に伴ふ列強の資本進出、かくて一時、所謂『利權競争』時代を出現し、こゝに支那における列強の對立は、一時著しく激化したのであつた。

だが、ヨーロッパ大戰の勃發によりヨーロッパ列強の極東市場よりの退嬰、戦後における疲弊により、また一時列強の對立は緩和され、僅に日米の對立を見るのみであつたが、それも日本の進出に比べて、アメリカの進出は比較的注目されるべくもなかつた。

しかるに、戦後世界資本主義が第二期に入りて安定し、ヨーロッパの生産力が戦前の水準を恢復するや、こゝに支那市場における列強の競争は再び展開されたが、第三期に入り、世界經濟恐慌が勃發するや、こゝに益々競争は激烈となり、列強の對立は激化するにいたつたのである。

以上のごときが、列強の支那市場侵略の歴史的發展の梗概であるが、吾々はこれより、最新の段階における強列對立の激化を、かゝる歴史的觀點の上に、稍々検討するであらう。

第二節 對支貿易における英米の進出と日本の後退

戦後世界經濟における最も注意すべき現象は、ソヴェート・ロシアの成立を除いては、アメリカ資本主義の異常な發展である。アメリカ資本主義は、ヨーロッパ經濟の停滯と衰退に乗じて、生産技術の改良と生産の合理化により異常な發展を遂げ、商品の過剰生産と資本の過剰、その反面に國內市場の縮少を見、こゝに海外に對する販賣並に投資市場を獲得せんとする要求が熾烈となつた。その要求は、一九二九年におけるアメリカ取引所恐慌以來、益々激化するばかりである。

こゝに列強の、世界市場における對占の激化の經濟的基礎が横はつてゐる。

これについて、アメリカ商務局は、すでに一九二九年において、次のごとく報告してゐる……

『我が國に於ては生産に對する輸出の比率が、ドイツ及びイギリスより遙かに尠ないにも拘らず、我が輸出市場の不足といふことは、我が國の經濟生活にとつて、少なからぬ災害をなすのであらう。このことは、ヨーロッパ工業の競争能力の恢復に關聯し、アメリカ經濟が直面するところの問題をもそれだけ重大なものにしてゐる。……今後世界貿易における競争は、對外貿易が我が國にとつて重大な意義をもつやうになる時から、極端に尖鋭化するであらう。』——ルビンシュタイン著『世界經濟概論』邦譯第四九—七頁

アメリカの輸出貿易の擴大の重要性とその世界市場に對する影響とについて、ルビンシュタインは、次のごとく述べてゐる。

『アメリカにおける國內市場の縮少といふことは、たとへそれが一〇%の縮少であつても、その補充のためには、

一二%の輸出増加を要求してゐる。これは國外市場擴張の助けをかり、何とかしてこの激烈な恐慌から逃れるため
 『には、アメリカは、すべての競争者を完全に壓えつけ、自己の商品の洪水で世界を充たさなければならぬといふこ
 とを意味する。』——前掲書第四七—八頁

この競争は、『國際經濟恐慌の發展と深化に伴つて特に激化するであらう。』——前掲書第四七頁
 かくしてアメリカは、すべての國外市場において、猛烈なる活動を開始したが、そこに支那市場が組上に上るべき
 ことも、當然である。

支那市場における貿易上の主要な競争國は、日本、イギリス、アメリカであるが、今これら三國の支那輸入貿易、
 輸出貿易及び全貿易において占める比率を見るに、最近二十數年來においては、次表のごとくである。

年	輸入貿易			輸出貿易			全貿易		
	日本	イギリス	アメリカ	日本	イギリス	アメリカ	日本	イギリス	アメリカ
一九一〇	一六%	一五%	五%	一六%	四%	八%	一六%	一〇%	六%
一九二〇	二九	一七	一八	二六	八	一二	二八	一三	一六
一九二一	二三	一六	一九	二八	五	一四	二五	一二	一七
一九二二	二四	一五	一七	二四	五	一四	二四	一〇	一六
一九二三	二三	一三	一六	二六	五	一六	二四	九	一六
一九二四	二三	一二	一八	二六	六	一三	二四	九	一六
一九二五	三一	九	一五	二四	六	一八	二八	八	一六
一九二六	三〇	一〇	一六	二四	六	一七	二七	八	一七

上表を見るに、一九三一年までは、日本は支那貿易において、ずつと第一位を占めてゐたが、一九三二年にいたつ
 て、日本は遂にアメリカに凌駕されて第二位に下つてゐる。そして一九三三年上半期においては、如何といふに、支
 那税關の報告によれば、前年の地位を依然として守つてゐるのみではなく、一九三二年までは、支那の輸出貿易にお
 いては、なほアメリカを凌駕してゐたものが、一九三三年に入りては、輸出貿易においてすら、アメリカに凌駕され
 てゐる。すなはち次表のごとくである。

年	輸入貿易		輸出貿易	
	日本	アメリカ	日本	アメリカ
一九三三年(上半期)	一〇・一〇%	二二・六七%	一六・六五%	一七・一七%

更に我が上海商務官の報告によれば、日本は、一九三三年上半期において、支那の輸入貿易においては六二%を減
 少して第三位、輸出貿易においては四八%を減少して第四位にまで低下し、支那貿易における日本の多年に亘る價值
 的地位は、今や昔日の一場の夢と化してゐる(勿論滿洲貿易における問題は別である)。

支那貿易における日本の地位は、相對的に低下したばかりではなく、その數量においても、絶對的に減少してゐる

が、これこそ滿洲事變、上海事變による排日運動に基く犠牲であるが、その反面において、支那貿易におけるイギリス及びアメリカの地位は向上し、今や支那貿易においては、アメリカを第一位、イギリスを第二位、日本を第三位としてゐるのである。かゝる資料こそ、支那市場を獲得しやうとする列強の鬭争が一層激化し、そして一九三一年以來支那市場におけるイギリス及びアメリカ資本の地位が、日本の資本にとつて代つて、強化されたことを物語るものである。

第三節 對支投資における列強の進出と日本の後退

レーニン、帝國主義段階における資本の輸出について、次のごとく述べてゐる……。

『自由競争の完全な支配が行はれた舊資本主義の場合には、商品の輸出が典型的であつた。ところが、獨占の支配が行はれる最新資本主義の場合には、資本の輸出が特徴的なものとなつた。』——『帝國主義』岩波文庫版、第八九頁

かゝる帝國主義段階においては、『先進諸國においては、膨大な「資本過剰」が生じる』（同書第八九頁）のであるが、それは、生産機關の過度の發達、すなはち資本主義的基礎の上におけるその完全な利用の不可能を反映してゐるのである。

かゝる過剰資本は、外國すなはち後進諸國へ輸出され、それによつてより高度の利潤を獲得しやうとする。

『資本主義が資本主義であるかぎりには、資本の過剰部分は、大衆の生活水準を高めるためには使用されないで、——なぜなら、さうすれば資本家の利潤が減少するであらうから、——外國すなはち後進諸國への資本輸出によつて、利潤を増加するために使用される。』——『帝國主義』岩波文庫版、第九〇頁

かゝる資本輸出の行はれる後進國は、次のごとく諸條件を具備してゐなければならぬ。

『資本輸出の可能性は、ひとつながりの後進諸國がすでに世界資本主義の圏内に引入られてゐること、鐵道の主要交通線がすでに敷設されてをり或ひは敷設中であること、産業的發展の本質的な諸條件が確立されてゐること、等々によつて生み出される』——同上書第九〇頁

現在の支那は、實にかゝる諸條件を具備してゐる。しかも列強殊にイギリス、アメリカは、國內においては、資本過剰に悩まされてゐる。しかもそれは世界經濟恐慌の發展と深化によつて、一層激化される。

今最近支那に對する列強の資本輸出を見るに、かの民國初年における所謂利權競争時代を彷彿せしめるものがある。

A、アメリカ

アメリカ資本の對支輸出は、近年來殊に顯著にして、『アメリカは自ら未曾有の恐慌に見舞はれ、殊に金融恐慌は益々深刻さを極めつゝある折柄、到底支那のみならず、海外へ投資する餘裕をもち得ない』との認識の誤謬を、事實において、着々暴露しつゝある。

今、表面化する資本輸出の事實を列記して見やう。

- a、一九三二年支那水災救済公債の形による小麥四十萬噸の對支賣込み
- b、フォード自動車會社の對支工場進出
- c、一九三三年七月米支航空協定による米貨二千萬弗借款、それによる三年間軍用飛行機八百二十五臺の建造
- d、一九三三年アメリカ棉麥借款五千萬弗、利子五分、期限三年、棉花五分の四、小麥及び麥粉五分の一

- c、一九三三年四月アメリカ馬凱無線電信會社の交通部との米支直通無線電信契約
 - f、同年中國電氣會社と交通部との無線電話機購入契約
 - g、福建省内漳川龍巖鐵道に對するアメリカ資本の進出
 - h、福建省銅山港のアメリカ租借説
- B、イギリス

- a、一九三三年二月粵漢鐵道貫通工事借款四百萬ポンド成立、年利五分
 - b、隴海鐵道延長工事借款二百五十萬ポンド成立、年利五分、期限十五年
 - c、杭江(杭州江山間)鐵道借款二十萬ポンド成立
 - d、道清鐵道(道口鎮清化鎮間)延長借款三十五萬ポンドの運動
 - e、正太鐵道への投資運動
 - f、一九三三年四月導淮委員會借款三十六萬ポンド成立
 - g、ブルナールモンド會社の南京附近におけるアルカリ硫化物製造人造肥料工場設立計畫
 - h、中央機械製造工場に對する三十二萬六千三百十四元出資成立、年五分、利期限十五年
 - i、四川省石油工場借款一千五百萬元成立。
- C、ドイツ
- a、毒瓦斯會社設立計畫
 - b、ドイツ支那航空協定成立

- c、製銅會社四千萬元借款成立
 - d、硫安工場設立計畫(イギリスの項gに参加)
 - e、江西省タンダステン礦山借款六百萬元成立
 - f、シーメンス會社の海洲灣改修百萬元工事契約成立
 - g、通州兵器廠設立計畫
- D、チエツコ・スロヅキア
- スコダ兵器會社の兵器賣込増加
- E、イタリー
- 飛行機賣込契約成立
- F、フランス
- 飛行機、機關銃賣込増加
- G、オランダ
- ジャワ糖業者の上海精糖工場設立計畫
- 右のうちには、計畫中のもあるが、いづれも陰に陽に、資本の輸出が策動されてをる。
- 今、アメリカ人リーアー氏の計算により、一九三〇年十二月末現在の列強對支投資を見るに、次表のごとくである。(單位百萬米弗)

	政府借款		事業投資		合計	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
イギリス	一六五	二二・九%	一、〇三八	三九・〇%	一、二六六	三七・七%
日本	二三〇	三一・八	九二三	三四・六	一、一五三	三四・三
アメリカ	三四	四・八	一五五	五・八	一九一	五・七
ロシア	一三	一・九	三四一	一二・八	三四一	一〇・一
フランス	九〇	一二・五	一〇二	三・八	一八八	五・六
ベルギー	四八	六・六	四〇	一・五	八八	二・六
ドイツ	八一	一一・四	五〇	一・九	一三二	三・八
イタリー	四三	六・〇	四	〇・二	四七	一・四
オランダ	一三	一・八	一〇	〇・四	二三	〇・七
スカンヂナ	一	〇・一	一	〇・〇	二	〇・一
ピア諸國	一	〇・一	一	〇・〇	二	〇・一
其他	一	〇・一	一	〇・〇	二	〇・一
合計	七二三	一〇〇・〇	二、六六四	一〇〇・〇	三、三六一	一〇〇・〇

上表を見るに、政府借款においては、日本を第一位とし、イギリス、フランス、ドイツこれに次ぎ、アメリカは漸く第七位であるが、事業投資においては、イギリス第一位を占め、日本これに次ぎ、ロシア第三位にして、アメリカは第四位である。全投資においては、イギリスを第一位、日本を第二位、ロシアを第三位とし、アメリカは第四位にすぎない。かくてアメリカは、支那貿易上においては、近年イギリスを凌駕し、日本に肉迫しつゝあつたが、對支投資

資においては、日本、イギリス、ロシアよりも遙かに後れ、その發展は將來に期待されてゐたが、今や前述のごとく投資の分野においても、イギリスを凌がんと、顯著なる活動を開始しつゝあれば、この分野においても、日英米三國の角逐、その地位の變動が豫想されるのである。

資本の輸出に伴ふ獨占化について、レーニンは次のごとく述べてゐる……。

『資本を輸出してゐる國は、殆んど常に「或る利益」をえてゐるが、この利益の性質は、金融資本及び獨占の時代の特徴を明瞭ならしめる』——『帝國主義』岩波文庫版、第九三頁

『金融資本は獨占の時代を創造した。ところが獨占は、何時でも、獨占の原則を伴つてゐる。すなはち、公開の市場における競争の代りに、有利な取引契約を目的とする「團結」の利用が現はれる。最もよく見る現象は、ある借款の際に、その借款の一部分を信用授與國の生産物、殊に軍需品、船舶等々の購買に費すことを、條件とすることである。フランスは最近二十年間（一八九〇—一九一〇年）に、極めて屢々この方法をとつた。かくして資本の輸出は、商品の輸出を促進する一手段となる。』——同上、第九四頁

レーニンがこゝに指摘したことは、列強の對支借款に最もよく現はれてゐる。今、最近における列強の對支投資もその例に洩れず、いづれも以上の性質を帯びてゐるが、今一、二の事例を示せば次のごとくである。

一九三三年七月成立した米支航空協定を見るに、『双方の同意を経るにあらざれば、第三國と航空に關係ある如何なる條約をも締結してはならぬ』といひ、アメリカの支那航空權獨占を確定し、この投資に伴ふ信用貸付に對し、アメリカ商品の輸出を規定して、『一切の所要の機械はアメリカより購入し』、『必要な場合にはアメリカ政府より既成の國防用飛行機を支那に融通する』、『空軍用武器及び化學彈藥等は、不足の場合にはアメリカより供給する』といつて

ゐる。
イギリスの隴海鐵道延長工事借款のとき、材料はイギリスより購入するは勿論、その代金の支拂に適用すべき爲替相場に關してすら、『材料購入當日におけるロンドンの電報爲替平均銀相場を標準として換算する』と規定してゐる。

今後の列強の支那への資本輸出について、世界經濟會議に出席し、歐米にて活躍し、最近歸國せる財政部長宋子文氏は、次のごとく述べてゐる……。

『世界各國は不況のため苦しみ、これを打開せんがために、あらゆる手段を講じて、輸出の増加を計つてゐるが、各國はそれぞれ關稅障壁を高く築くために、國際市場は愈々狭小となりつゝある。この際世界は、支那を絶好の投資市場としてゐる。若し我國民がその國に對して、歡迎の意を表しさへすれば、各國は最優良の條件で、我國に投資するであらう』——一九三三、八、三〇『東京朝日』上海特電
かくて列強の對支投資は、今後益々熾烈となるであらうと豫想される。

第四節 支那市場における日英米の對立と支那の植民地化過程

以上によつて、支那市場における、最近の列強の競争を述べたが、こゝに注目すべきことは、支那市場における、日本の貿易上及び投資上における地位の低下である。勿論それは、支那よりまた列強より、滿洲の獨占によつて、補はれてはゐるが、支那本部市場においては、日本は英米に比して、著しく後退してゐる。しかも日本は、支那本部に貿易上、投資上の利害關係を、密接にもつてゐる。こゝに英米との對立は激化するが、その表面化する事實を見るに

次のごとくである。

我が對支未拂借款に對して、債權の行使權の行使を實行すべしとの論議、福建省銅山港のアメリカ租借に對する我が注視、更には道清鐵道に對するイギリス資本の進出等々、その著例にして、最後の事件について、九月二日電通青島電は、次のごとく報道してゐる……。

『イギリス資本の道清鐵道の延長線として濟南まで敷設するに決した形跡あり、……日本側では成行を重視してゐる。道清線はワシントン會議でも山東鐵道の延長線として論議され、外國資本による建設の場合、四國借款團の權利が留保されてをり、道清鐵道に歸屬せしめても、日本の發言權は消滅せず、支那が横車を押せば、紛糾は免れぬものと見られてゐる』

資本の輸出に基く支那の經濟的及び政治的再分割において、日本と英米と對立するばかりではなく、英米もまた對立しつゝある。九月一日東京朝日上海特電は……。

『南支の航空權利を回り、英米兩國の對立、南京廣東兩政權の抗争は、デリケートに發展しつゝあり、注目されてゐる』
と報道してゐる。

支那市場における英米の對立は、相互の積極的進出によつて激化されてゐるが、日本と英米との對立は、日本の相對の後退によつて激化されてゐる、しかも日本の相對の後退は、日支間における滿洲問題の圓滿な解決の遷延によつて、今後なほ持續されるであらう、日本は、支那市場において、排日運動の外、ダムピング稅徵收、抗日關稅の引上原產地證明等により脅かされてゐるが、宋子文は最近、英米の支那進出と日支關係について、次のごとく語つてゐる。

る……。

『日本を除外する譯ではない、しかし今日の日支關係では兩國の友誼的交渉は多大の困難と危險性があつて、現状のままでは、殆んど不可能に近い程だ』——一九三三、九、三、『東京朝日』

かくして、現状のままでは、日本の支那市場に對する進出は、全く不可能であり、英米によつて、益々侵蝕され、支那市場における日本と英米との對立は、益々激化する外ない。

他方、支那經濟の崩壊は、列強の進出により益々昂進し、その植民地化過程は激化されてゐる。例へば、支那工業における外國資本の活躍に反して、支那の民族工業は益々衰微し、破産乃至操短を續出してゐる。上海における各工場生産狀態に關して、本年六月十七日付、我が上海商務官は、次のごとく驚くべく、且つ注目すべき現象を報道してゐる……。

『上海における各工場生産狀態は、農村の疲弊並に共匪等の跳梁もあり、賣上代金の回收不如意なるに加へて、上海金融業者の貸出警戒に何れも資金難に陥り、過般の關稅引上も今のところ何等の利目なく、萎微不振にて操短は勿論、休業せるものも相當ある模様』——一九三三、六、二〇、『讀賣新聞』

同報告は、繼いで支那民族工業の操業狀態について、次のごとく報道してゐる。

繅 詰 業	八〇%
印刷業、煙草業、莫大小業、帽子業	七五%
紡 績 業	七三%
製紡業、モメント業、石鹼業、洋傘業	七〇%

電氣材料、醫法瓶、味の素業	六五%
化粧品、製藥、絹織物、刷子、靴下、硝子製品、染色、ペンキ業	六〇%
製油、燐寸、珽耶鐵器業	五五%
護 謨 靴 業	五〇%
陶 磁 器 業	四五%
造 船 業	三五%
製 鐵 業	二五%

かゝる驚異すべき操短狀態を現出してゐるが、造船、製鐵等の重工業において殊に著しく、實に六五%乃至七五%の操短である。

支那民族工業の危機のみではなく、支那農業の危機も激化するばかりで、それは屢々報道されてゐる通りであるがこれらは帝國主義及び支那封建勢力の協同的搾取壓迫の賜物である。

以上のごとき列強の支那進出とその對立の激化は、支那の政治上に反映し、南京廣東兩政權の抗争、南京政權内部における親日派と抗日派の抗争、支那内戦の續發となつて現はれ、更に根本的には、支那のソヴェート政權とブルジョア地主政權との對立となつて現はれてゐる。

支那市場をはじめ世界市場には、今や列強による再分割のために鬭争が展開されてゐるが、それは結局は、武力によつて終結される鬭争であり、新しい軍事的衝突の出發點をなすものである。

かゝる世界の縮圖を、吾々は、支那市場において、今やまざまざと見せつけられてゐる。嵐は刻々と迫り、すでに風は樓に満ちてゐる。

第二章 最近列強の對支經濟進出の全貌

第一節 最近列強對支進出の諸原因

最近、支那問題に關して、殊に注目し値する現象は、列強の對支經濟進出、殊に對支投資の躍進である。それには、種々複雑した條件並に原因があるが、それは(一)支那時局の一时的安定(二)國民政府經濟建設の企劃、しかも經濟恐慌の深化による財政の窮乏、(三)經濟界恐慌による國內外市場の縮少と列強の商品及び資本の過剩等に基因するものである。

第二節 支那貿易における列強の抗争

今先づ、支那貿易上に於ける列強勢力の消長を検討しよう。しかしこゝには、その煩を避けるために、支那貿易上における三大勢力、即ち日、英、米三國の消長を検討するに止める。

ヨーロッパ戦争前においては、支那貿易に於ける三大勢力は日英にして、イギリス第一位を占め、日本は第二位であつて、アメリカは遙かに下位にあつた。今、これら三國の支那貿易上における比率を見るに、

日 本	一九一〇年	一九二二年
イギリス	一六%	一八%
	一〇	一九

アメリカ

六

八

しかるにヨーロッパ戦争により、ヨーロッパ諸國が極東市場を顧る隙なきに至るや、日本及びアメリカの對支進出は漸く顯著にして、日本は斷然イギリスを凌駕して第一位を占め、アメリカ又イギリスを凌駕して第二位を占め、イギリスは第三位に降るにいたつた。

日 本	一九二〇年	一九三〇年
イギリス	二八%	二四%
アメリカ	一三	七
	一六	一六

なほクラークの教授の計算によれば、一九二二年を一〇〇とし三國の支那貿易上における指數を見るに、一九三〇年には

香 港	一五〇
イギリス	二三〇
日 本	三八九
アメリカ	五二三

にして、以て如何に日本及びアメリカが、遙にイギリス凌駕して、支那貿易市場に躍進したかを知ることができる。殊に日本が四倍弱の増加を示せるに反して、アメリカが五倍強の増加を示せることは、實に驚異に値する現象である。しかるに、滿洲事變の勃發せる一九三一年を轉機として、支那貿易上における三國の勢力には、異常な消長があり新しい段階に發展した。一九三〇年までは、輸出貿易及び輸入貿易においていづれも日本は第一位を占めてゐたが、

一九三一年に到るや、アメリカは先づ支那輸入貿易において日本を凌駕して第一位に昇り、日本は先づ第二位に降つた。しかし、まだ貿易總額においては依然日本が第一位を占めてゐた。しかし越えて一九三二年に入るや、アメリカは更に、輸出貿易においても日本を凌駕して第一位に上り、かくて遂に貿易總額においても、第一位を占め、日本を第二位に落してしまつた。

年	支那輸入貿易		支那輸出貿易		支那貿易總額	
	日 本	イギリス	日 本	イギリス	日 本	イギリス
一九三一年	二〇%	八%	二二%	二七%	一三%	二二%
一九三二年	一三%	一一%	二五%	二一%	一六%	一〇%

なほこゝに注目すべきことは、この二年間に日本のみは後退せるに、アメリカ及びイギリスは躍進せることである。しかしイギリスの躍進は、到底アメリカのそれには及ばない。かくてヨーロッパ戦争後、支那貿易市場に半平たる地位を占め、首位にゐた日本の勢力は今や、權花一朝の夢と化してしまつたのである。

以上の状態は、一九三三年に入つても依然として變動なく、日本にとつては益々悪化さへしてゐる。今、一九三三年第一季の統計を見るに、

国	支那輸入貿易		支那輸出貿易	
	金額	%	金額	%
アメリカ	二一、六七〇	一七、一七%	一六、六五	一三、一七%
日本	一〇、一〇	八、一七%	一〇、一〇	八、一七%
イギリス	一〇、五八	八、五八%	五、二〇	四、二〇%

上表によれば、支那輸入貿易においては、近來日本の次位にあつたイギリスにさへ追ひ越され、第三位に降つてを

輸出貿易において辛うじて第二位を保持してゐることが判る。なほ同年上半期の統計により、我が上海商務官の報道せるところを見るに、右の状態はより一層悪化してをる。すなはち支那輸入貿易においては、前年同期に比し四八%を減じて第四位、輸出貿易においては六二%を減じて第三位に降つてゐる。

今後の趨向を推察するに、日本以外列強の對支投資の増加は必然にそれ々々の國の對支貿易を増加せしむべく、しかも日本は、抗目的關稅引上、原産地標記、ダムピング税の實施等によつて、益々障礙を増大しつゝあるが故に、日本の對支貿易上における勢力は、イギリス及びアメリカに反して、決して樂觀を許さない状態にある。

第三節 支那投資市場における列強の抗爭

(一)日本 次に述ぶるがごとく、他の列強の對支投資の躍進に反して、日本の對支投資は今や殆んど滿洲に集中されて、支那に對しては殆んど停止してゐる有様である。しかしたゞその間に見るべきものは紡績資本のみにして、これは年々に増加し、在支日本紡績工場の錘數を見るに、

一九三〇年	一、六三〇、四三六
一九三一年	一、七二五、七九二
一九三二年	一、七九〇、七四八

の成績を示し、この増加の趨勢は、一九三三年に入りても停止することなく、今日本紡績聯合會の調査によれば、一九三三年六月末現在の状態は次表のごとくである。

	一九三三年六月	昨年末比較増加
リ	一、七九八、八一二	一〇、三二〇
ダ ブ ラ ー	二九九、四二八	一四、一六八
織 機	一八、七九一	四九六

かくて、日本の對支投資は獨り紡績部門に於てのみ増加し、他部門における投資は停止乃至減退してゐるが故に、對支投資においても、他の列強殊にイギリス及びアメリカに比して、相對的に後退してゐることが判る。今後における趨勢を見るに、支那の抗日感情の緩和は容易に期待されず、したがつて他の列強のごとく、日本の對支投資は大規模に増加することなく、僅に日本人自身の運用する投資に、多少の増加を期待し得るにすぎない。

(二)アメリカ 近來列強の對支投資は、漸く目醒ましさを加へて來たが、就中アメリカを第一位とする。今、注目すべきアメリカの對支投資を列記しやう。

イ、上海發電所の買收 一九二九年三月、ドイツ資本の支配に屬してゐた上海共同租界發電所を、アメリカン・アンド・フォレン・パワー・カムパニー・オブ・アメリカが、八千百萬兩(當時の銀相場にて約五千萬弗)で買收した。この發電所は十二萬一千キロワットの發電能力を有する世界有数の發電所にして、アメリカ資本の世界電氣事業に對する投資は有名な事實であるが、支那もまたこの投資網に加へられた。

ロ、中國航空公司設立 一九三〇年七月、カーティス・アメリカン・アヴィエーション・カムパニーは、國民政府交通部との契約により、交通部との合辦にて『中國航空公司』を設立する權利を得た。これは資本金一千萬元、その中四五%をアメリカ資本がもつとともに、會社の管理にも參加するのである。この會社の營業する航空路は、(一)上海

——成都、(二)南京——北平、(三)上海——廣東である。その一部は既に實現されてゐたが、一九三二年末以來、この契約は更に擴大されることとなり、宋子文今回のアメリカ訪問によつて實現し、一九三三年ワシントンにおいて、駐米支那公使施肇基とアメリカ國務省との間に、航空秘密協定が締結された。その協定は、三章十七ヶ條、附屬細則四部、協約一、その他設計書、航空路表等より成るものである。

右協定によれば、アメリカは殆んど完全に支那の航空を支配し、支那は一九三六年末までに新に軍用飛行機八百三十五臺をもつこととなり、軍事上においても、列強殊に日本にとつては實に重大事にして、我が軍部ではこれが成行に深甚の注意を拂つてゐるといはれてゐる。

右協定によるもの外、一九三二年國民政府はカーティス會社より教練用として飛行機二十臺を購入したが、一九三三年に入りては更に一人乗戦闘機三十六臺をカーティス會社に注文し、その一部は八月十五日既に着荷した。右戦闘機は新式シリンダー七百馬力、ライトエンジン最高時速二百哩、カリーパー機關銃二臺を有するものであるといふ。尙ほ一九三三年五月洛陽に移轉した國民政府飛行學校には前アメリカ陸軍大佐ジョン氏指導の下に十六人のアメリカ人が飛行教官として雇傭され、支那人飛行士の養成に努めてゐることである。上海を中心に支那各地を試験飛行し、成功を収めたブリーツトル少佐は廣東においても、支那側と商談を行ひ同じくカーティス機十八臺の賣込みに成功したと傳へられてゐる。

ハ、上海電話會社の買收 アメリカ資本によるインターナショナル・テレフォン・アンド・テレグラフ・カムパニーは、一九三〇時七月、上海電話會社を七百六十萬弗にて買收した。

ニ、小麥四十萬噸の掛賣契約 一九三二年には、有利なる條件にて支那水害救濟公債の形で、小麥四十萬弗を支那に

賣り込んだ。

ホ、中國電氣公司の設立と米支直通無線電信契約 アメリカのマツケー無線電信會社は、中國電氣公司を支那に最近設立し、一九三二年六月交通部との間に、三十一萬弗にて大型無線電信機一組及び小型機四臺賣込の假契約をなしたが、支那側の國內的事情により、その半額を中央庚款董事會より導准委員會に割當てた基金中より借入支辨し、無線電信電話兩用の小型送信機三組、外に受信機や連接機等を賣込むことに改めた。

なほ一九三三年四月、通信に關する修正條約に調印し米支直通無線通信權を國民政府より獲得したが、該契約の要旨は次のごとくである。

- A、一九三三年五月十九日より米支直通無線電信を開始する。
- B、上海桑港を基點とする米支直通無線通信を行ひ、故障ある場合にはフィリッピンを経由する。但し商業用通信に限る。
- C、契約期限八ケ年、但し兩者の協議により更に五ケ年毎にこれを延長することを得。
- D、料金収入は發受局均等とし、各その地の延長線に轉電する場合には各轉電局側の収入とす。
- E、戰時事變により各政府當局のため通信停止せられたる場合には本契約通信を停止するやも知れず。
- ヘ、五百萬弗棉麥借款の成立 宋子文のアメリカ訪問により、アメリカ政府保證の下に、アメリカ復興會社（善後公司）は、國民政府との間に、五千萬弗の棉麥借款契約を締結し、第一回は近く上海に到着する模様である。その五分の一を小麥及び麥粉、五分の四を棉花の賣込に當つるものにして、利子年五分、償還期限三ケ年、煙草税、棉花税、マツチ税、セメント税等を擔保とし、代金は庫出の都度一〇%、九十日後一五%、残額は三ケ年に支拂ふも

のである。この借款は最近の廬山會議により、國民政府全國經濟委員會内に保管委員會を設けてこれを管理し、支那の經濟建設に使用し、軍事その他に使用しないことに決定した。

ト、瓊龍鐵道への投資 福建省廈門、漳州間には豫て華僑の投資により鐵道が開設されてゐたが、一九二七年來休業してゐた。最近これを漳州より龍巖まで延長し、營業を開始することとなり、従前の出資者黃奔任は既に二百萬元を應募し、李清泉は責任を以てフィリッピン方面より、百五十萬元を募集することとなり、李双輝は既に南洋方面にて百五十萬元の募集を終つたと傳へられるが、これにもアメリカ資本が参加するといはれてゐる。

チ、銅山港の租借 福建省銅山港は廈門の南方、臺灣より四百十哩の地點にあるが、アメリカはこゝを租借すると傳へられてゐる。

リ、福建省政府のアメリカ人招聘 中央政府にアメリカ人顧問多數ある外、福建省政府もフィリッピンよりアメリカ人農業専門家を招聘し、農事の改良に努めてをり、またフィリッピン大學教授ベンテツ博士を教育顧問として招聘してをり、彼等を通じてアメリカ資本の福建省進出は進みつつある。同省は上海事變に勇名を唄はれた蔣光熙、蔡廷楷の勢力下にあることは、注目すべきことである。

(三)イギリス イギリスは國民革命以來、香港大ストライキを始めとして、支那の排英運動により、大にその商權を喪失しつゝあつたが、かの漢口の租界事件以來、その政策を轉換し、排英の鋒先を日本に轉嫁し、近年來大に支那において活躍し、最近は安利洋行を通じて湖南省政府に軍用飛行機二十臺を賣込むことに成功し、また目下上海海軍部造船所に建艦材料の賣込に猛烈なる運動を試みつつある外、投資方面に於ても、アメリカに劣らず、目醒しい活躍をなしつつある。

イ、粵漢鐵道貫通計畫 本計畫は一九三二年十一月頃より懸案となつてゐたが、一九三三年に入り漸く具體化し、二月六日イギリス庚子賠款管理委員會において、庚子賠款より借款の形式をもつて、建設資金に投下することとなり、六月五日鐵道部との間に契約が成立した。借款總額は約百四萬磅年利五分にして、次の四種に分れてゐる。(單位磅)

A、英 金	一、二〇〇、〇〇〇	(一般公債發行)
B、同	一、六〇〇、〇〇〇	(イギリスより材料供給)
C、同	七〇〇、〇〇〇	(第二回材料購入)
D、同	五五〇、〇〇〇	(第三回材料購入)
計	四、〇五〇、〇〇〇	

これが擔保としては、全支國有鐵道の旅客及び貨物に對する附加運賃廣東より省境まで延長する粵漢鐵道の第二線區收入、京漢線收入、南京浦口連絡船收入を包含してゐる。また委員會はこれら諸鐵道の收入を監督すべき監督責任を命ずることを得る。本鐵道は近く完成の見込である。

ロ、隴海鐵道延長工學借款 本鐵道は潼關より西安に延長さるゝものにして、一九三三年三月より工事に着手し、一九三四年明春完成の豫定であるが、鐵道部との間に、イギリス庚子賠款委員會は英金二百五十萬磅借款契約を締結した。該契約の要旨は次の通りである。

A、材料購入費交付期日より起算して、年利五分にして前六年間は利子のみを納入し、第七年より元金の償還を開始し、十五ヶ年間に完済する。

B、董事會は材料購入時當日における倫敦電報爲替平均銀相場を標準として換算する、双方は前項の銀價及び金額

交付期日に準據し、各期に分ちて元利返済表を協定し、これに依據して金額を規定し且つ支那貨幣銀元をもつて計算する。

C、納付すべき元利金額は潼關西安間工事の完成以前においては、國有各鐵道營業收入額を參酌して決定し、これを立替へ支拂ふべく、開通後は潼關西安線の營業收入額より支拂ふものとし、若し不足することあらば、鐵道部より補足することを保護する。

ハ、膠濟鐵道借款 これに三十五萬磅を投資し、我が勢力圏内に割込み、海港進出への機會を窺つてゐる。

ニ、道濟鐵道借款 道口鎮——清化鎮間二百九十基米突の鐵道を濟南まで延長する計畫が、イギリス資本によつて進められてゐる。

ホ、杭江鐵道借款 一九三一年以來浙江省政府が約七百萬元の資金を投じて敷設してゐる杭州江山間の輕便鐵道が資金難に陥れるに乘じ、これに二十萬磅を投資して、中英公司の投資に係る滬杭甬鐵道の培養線たらしめんとするが、本線は一九三三年末に完成の豫定である。

ヘ、正太鐵道延長工事借款 フランス財團と國民政府との間に交渉中なりし正太鐵道の改築並に延長に要する資金六千萬フランの借款を、庚子賠款より貸與することにより、これをフランスの手より奪はんとし、目下種々策動しつゝある。

ト、導淮委員會借款 イギリス庚子賠款管理委員會は、導淮委員會との間に、一九三三年四月左の條件にて三十六萬磅借款假契約に署名調印した。

十一萬磅——舊黄河の河床地二十萬畝(一畝は約二百坪)を擔保とす。

二十五萬磅——導准委員會の基金收入及び全財産を擔保とす。

チ、化學工業工場の設立 インビリアル・ケミカル・インダストリー株式會社は、英支合辦にて南京附近に、アルカリ硫化物製品人造肥料等の大工場を設立することとなり、必要に應じ火藥製造用の硫化物、硫酸、硝酸、鹽酸等をも製造するものである。

リ、中央機械製造工場の設立 國民政府實業部は中央機械製造工場の設立を計畫してゐたが、イギリス庚子賠款委員會は、これに開設費及機械購入費を貸付けることとなり、一九三三年二月借款契約成立した。開設費十萬三千四百元、機械購入費十二萬三千二百噸いづれも年利五分、工場收益を管理委員會指定の銀行に預け入れて元利の償還に充て、なほ全國の工業權を擔保とし、五年後元金償還開始、十五年間に完済するものである。

該工場敷地はすでに南京草鞋峽に決定し、張可治が機械購入のためにすでにイギリスに赴いた。

又、四川省石油借款 イギリス公使ラムプソンは、一九三三年六月四川省に旅行し、西康問題の解決に奔走し、それと同時に四川への進出を策し、中央部との間に一千萬元の四川石油借款成立し、ほな劉湘との間に五百萬元の建設借款を提議した。

(四) フランス フランスは、最近兵器殊に飛行機を相當賣り込んでゐるが、投資方面においては、その活躍が未だ表面化してゐない。たゞ正太鐵道の改築並に延長に六千萬フランを投資すべく運動し、イギリスと競争中である。

(五) ドイツ ドイツはイギリス、フランス、アメリカ、イタリアと並んで、支那への飛行機賣込に躍起となつてゐるが、まだ一九三三年三月香港の溢利洋行を通じて十九路軍に飛行機僅か五臺を賣り込んだにすぎない。しかし國民政府部内には、南京政權成立後多數の軍事顧問を送り、最近また新に七十二名が招聘され、相當に要塞備砲、榴

彈砲等を賣り込んでゐる。その他投資方面に於ては、次のとき見るべきものがある。

イ、毒瓦斯工場の計畫 ドイツは國民政府に毒瓦斯工場の設立を勸めてゐるが、その社長にはドイツ人技師が招聘され、ドイツの投資を見るべしといはれてゐる。

ロ、獨支航空路の開設 國民政府との間にシベリア、青海を経て獨支を結ぶ航空路開設について、借款契約が成立したといはれてゐる。

ハ、鋼鐵工場借款 國民政府實業部は鋼鐵工場の設立を計畫中であつたが、その敷地も安徽廬馬鞍山に決定し、その資金としてシーメンス會社との間に四千萬元の借款契約が成立した。年利七分期限七年、營業開始後三年目より償還するものであるが、財政部はこれが擔保として、國庫券四千萬元を發行交付するものにして、その基金には、石炭輸入税一噸に付一元五十、仙銅鐵輸入税一噸に付五元、鐵屑輸出税一噸に付一元の外鑛區稅及び鑛產稅整理による毎年收入六百萬元をこれに充つるものである。

ニ、タンクステン鑛山借款 獨支合辦會社にて江西省において、タンクステン鑛山を開採する契約成立し、その資金六百萬元はドイツ側にて出資し、營業收益より元利を償還する條件である。

ホ、海州灣改修工事契約の成立 シーメンス會社は海州灣の改修工事百萬元につき、國民政府との間に工事契約締結した。

ヘ、通州兵器工場の計畫 ドイツ側は河北省通州に兵器工場を設立すべく、國民政府に具體的計畫を提出した。

(六) イタリア イタリアは、張學良の同國滞在中國賓として待遇し、大に支那との接近を計り、最近飛行機七十臺を賣り込み、この方面に大に努力してゐるが、投資方面に於ては見るべきものがない。

(七)チエツコ 従來同國の對支兵器輸出は、世界第一位を占めてゐたが、最近一層その輸出額を増加し、そのために同國のスコダ兵器會社は、著しく配當を増したと傳へられてゐる。しかし、投資方面においては、全く見るべきものがない。

(八)ソヴェート・ロシア ソヴェート・ロシアは北滿方面には従來投資してゐたが、支那本部には投資少く、最近また投資を見ない。しかしその商品の對支輸出には、國交恢復後大に努力してをり、最近青島、濟南、芝罘等にも通商代理部を設け、石油穀類の取引を開始してゐるが、平津方面に於ては、一九三二年十二月二十五日、北平駐在勞務官サラマンと、支那代表天津總商會首席張昌題、北平總商會首席冷家麟兩氏との間に、次のとき協約を締結し大に兩國貿易の發展に努めてゐる。

- 一、ソヴェートの石油、木材、綿布、金物、綿糸、皮革、化學原料、化粧品各貨物は、一九三三年初より北支に運搬せしむ。
- 二、支那の茶、砂糖、石炭、棉花、各種礦産、各種土産物は一九三三年二月よりソヴェートへ輸出す。しかしして内蒙古を経由するものに對してはソヴェート商務主任辦事處より捺印證明せる護照を發給し、且つ蒙古政府管轄地との取引をも許可す。
- 三、ソヴェートの石油は民國人張榮華と五ヶ年販賣契約成立してゐるをもつて、右期間内における本員販賣の特權は本協約内に包含せず。
- 四、本協約はソ支兩國商人の感情の疎通を圖るものたるをもつて、商業の中心機關を設立し、一切を指揮せしむ。これがためにソ支華北貿易委員會を組織す。

五、委員會の費用は兩國貿易の取引額より歩合を定めて支出す等々。

(九)オランダ オランダ領瓜哇は、従來白双及び赤双の生産輸出に全力を注ぎ、キューバとともに世界の二大産糖國の誇りを持続し來つたが、近年に至り、世界的不況と仕向先の自給自足乃至關稅引上により、輸出不振に陥り、それがため、支那市場に進出すべく、代表者が調査中のところ、最近の情報によれば大體上海に投資して、精製糖工場を新設し、日本品と競争することになつた模様である。

第四節 列強對立の危機の接迫

以上によつて見るに、支那市場に於ける列強の活動中注目し得るものは、

- 一、貿易におけるアメリカ、イギリスの躍進
- 二、列強、殊にアメリカ、チエツコ、イタリー等の對支武器殊に飛行機の輸出増加
- 三、投資におけるアメリカ、イギリス、ドイツの躍進
- 四、貿易及び投資における日本の相對的後退等々である。

アメリカのごとき、一九三〇年までは、對支投資に於て、イギリス、日本、ロシアに次ぎ第四位に位してゐたにすぎないが日本及びロシアの對支投資は滿洲を主とするをもつて、アメリカは、支那本部における投資においては、今や日本及びロシアを凌駕し第二位を占め、イギリスに肉迫しつゝあるものといはねばならない。

かくて今や支那に於いて、貿易上及び投資上、日本、イギリス、アメリカの角逐は、頗る激化してきたことが判る

が、獨りそれは經濟上のみではなく、政治上、軍事上に於ても、また然りである。それは、支那の長期抗日の狀態の下への、武器飛行機の輸出増加、飛行場並に航空路の開設、化學工場の開設、軍事教官乃至顧問の派遣等と、支那並に列強と日本との武力對立を激化するからである。

列強の支那における對立がかく激化する反面それにつれて、支那内部に於ける對立も激化する、ピットマン銀借款を繞る宋子文對胡漢民、孫科との抗爭、アメリカの支那航空路開拓を繞る南京對廣東の抗爭の如きは、その顯著なる事例である。

それと同時に、支那市場におけるソヴェート商品と列強商品支那ソヴェート運動と南京廣東政權及び列強との對立。その激化も亦看過することの出来ない契機である。

かくして支那市場を繞つて………戦争の危機は刻々に迫りつゝある。

第三章 雲南における英支の葛藤

—支那國境の全面的危機—

第一節 風雲急なる支那邊境

近年にいたり、支那の邊境は俄然として風雲急を告げるやうになつた。

先づ滿洲國の獨立、フランスの新南群島の占領、西藏の西康侵入等相繼いで起つたが、最近にいたつては、イギリスの支那邊境に對する侵略が、殊に前面に現はれてきた。すなはち新疆南路における回教族の獨立、今また雲南省班洪へのイギリス人の侵入のごときは、その最も顯著なる事實である。

從來支那の邊境問題としては、東北、北方、西北、西部等に限られたるやの觀あり、西南及び南方方面は實に平穩なるが如く考へられてゐた。だがその平穩のうちに不安が暗黙の裡に醸されてゐたのである。最近における雲南省班洪へのイギリス人の侵入のごときは、その最も顯著なる事例である。

第二節 イギリス侵略の目的

一九三四年一月以來イギリス兵が雲南省境に侵入したとの情報が、頻りに雲南方面から傳へられるやうになつたが現在までに判明したところによれば、略ぼ次のごとくである。

一九三三年十二月十四日にイギリス兵七、八名が班洪に達し、土人を招集して秘密會議を開いたが、その結果同月十九日にイギリス兵二千餘名が更に班洪に到着し、彼等は一切の設備を整へて、到るところ自動車道路を開設し、且つ班洪鐵橋を修築しつゝある。

イギリスのかゝる侵略の目的は、この地方には金銀寶石をはじめ、鑛産物豊富にして、これを採用することはいふまでもない。

その後の支那側の情報によれば、一月一日に愈々英支の間に衝突を發生し、情勢が重大化したといはれてゐる。なほ最近の情況については、吾邦においても、漸く次のごとく報道されてゐる。

『二日某所着電の情報によれば、雲南省瀾滄縣金鑛山を中心として目下南京政府とイギリス政府との間に深刻な抗争を續けつゝあるが、同省班洪附近において、最近土人とビルマ人との間に争鬪勃發し、目下盛に交戦中であると傳へられてゐる。すなはち右は昨年十二月以來、イギリス軍隊の同地侵入により反感を激發しつゝあつた、同地住民とイギリス軍隊の手先として働いてゐるビルマ人との間に正面衝突を來したためであるが、何分同地には約二千餘のイギリス軍隊が駐屯してゐるので、事態悪化するの恐れがあり、吾が關係方面でもこれが成行を重大視してゐる。』(一九三四、五、三、東京朝日新聞)

第三節 雲南省班洪とは

班洪とは如何なるところか？

同地は雲南省の西南隅に位し、東は双江縣に境し、西南はビルマに接し、北は順寧縣、鎮康縣の耿馬土司、孟定土

司に境し、南は瀾滄縣の孟連土司に隣し、上胡蘆王の管轄地で、俗に野人山といつてゐるところである。

その地方は金銀寶石等の鑛産物の埋藏多く、イギリス人が久しく垂涎してゐたところだ。

一九三三年來紛糾を續けてゐる新雲南省に比べて、この雲南省においては、種族は遙かに複雑してをり、この民族間題こそ今回の英支葛藤についても、重大な契機を成してゐる。過去において、雲南の民族問題を研究したものは、省内には種族三十餘ありといひ、また六十餘ありといひ、百餘種に達してゐるといふものさへある。種族の確實な數はまだ判明してゐないが、支那において民族の最も多岐に互る地域であることだけは疑ひない。これら諸種族の歴史上における發展過程は別個の問題としてこゝに贅言しないが、現在の分布概況を見るに、最も多數を占めてゐるのは獠、猺であり、全省の山中に少數宛分散して、漢民族と雜居してゐる。これに次ぐものは擺夷と儂人にして雲南と安南、雲南とビルマとの境の濕熱な地域に撒布してをり、シヤム族の一分派である。更にこれに次ぐは野人、黎、索、濃、曼、浪速、阿昌、孟武、沙人等であるが枚擧に遑がない。これら諸種族のなかで、文化の程度の比較的高いのは擺夷で、雲南ビルマ間の境界の不確定な地域の南半に居住し、これに漢變が加はつてゐる。この地域の北南に居住するものは、主として野人、黎、索、阿昌の諸種族である。これらの弱小民族こそ、雲南とビルマとの境界問題についての重大な中心である。彼等は、從來自分自身を『小朝人』といひ、漢民族を『大朝人』と呼んでゐる。ビルマの滅亡までは彼等は支那人の一部と考へてゐたが、ビルマがイギリス人によつて亡ぼされるや、これらを前衛として、種々なる方法をもつて、宣教師は弱小民族を懐柔し、彼等は漸次支那を離れて、ビルマ、イギリス側に近づくやうになつた。それとともに、漢民族官吏のこれら諸種族に對する政權を背景としての封建的な搾取と欺瞞とが、益々彼等の怨嗟と離反とを促進するものであつたことを忘れてはならない。

第四節 英支抗爭地としての班洪

今班洪地方の政治的所屬について、歴史的考察を試みるならば、大略次のごとくである。

ビルマは古くは支那の藩屬であり、雲南は支那の領土であつたのである。明代には、西南邊境を統治するために、宣慰司二、宣撫司三、禦夷州四、安撫司一、長官司二を置いてゐたが、この官衙の所在地は、雲南境内に止らず、遠くビルマに及び、更にシャムにまで及んでゐた。

清代に及んで乾隆三十四年（西紀一七六九年）に、ビルマが西南境に侵入せるため、朋瑞、傳恒をして遠征せしめ、その結果再び支那に進貢することとなり、十年毎に一回の進貢を續けて來た。しかるに清代の末葉にいたり、支那の威力が衰へるや、イギリスの勢力はこゝに侵入し、光緒十一年（西紀一八八五年）にビルマは遂にイギリス人に占領され、翌年（一八八六年）に英支ビルマ條約を締結し、支那は完全にその宗主權を失ふにいたつた。これより西康、西藏、四川、雲南等の邊境は漸く多事となつた。

その後六年——光緒十七年（西紀一八九一年）に、班洪の土民がイギリス人を燒殺したために、イギリスは報復的に軍隊を麻陽、壘弄に駐屯せしめるやうになつた。その翌年（西紀一八九二年）にイギリスは更に昔董、馬董を占領した。イギリスが直接に雲南境内に侵入するやうになつたのは、これからである。その後二年餘に亘り、英支間に紛糾が續いたが、光緒二十年（西紀一八九五年）に、英支雲南ビルマ境界條約が駐英公使薛福成の手によつて、イギリスとの間に締結された。該條約によれば、

『今、兩國の邊界は、北緯二十五度三十五分より始まると議定す。それ以北の地域については、將來狀態を調査した

る上、更に境界線を確定す』

といつてゐる。この緯度によれば、境界線は尖高山にあることになつてゐるが、その地はビルマ國境の最北地の外にあり、從來支那の雲南土司の管轄地である。それ故に北緯二十五度三十五分を境界とするときは、支那は數千里に亘る領土を失つたことになるのである。しかもそれ以北においても、なほ境界は未確定のままに残されてゐる。それ故に兩國間における境界問題は、イギリスの侵略の進むにつれて、その後幾たびか紛糾を繰返してゐる。

光緒二十三年（西紀一八九七年）十二月に、支那軍二百名が恩買河以北の地に進駐するや、イギリス公使は總理衙門に對して、『恩買河と薩爾溫河との中間の分水嶺西境においては、支那は地方官の統治に干渉することを得ない』と要求し、これに次で更に抗議を提出したが、支那側においては、直ちにこれに應じ、雲南省當局に右の旨を通達せるため、境界問題は更に複雑さを加へた。

光緒二十六年（西紀一九〇〇年）の春には、イギリスは擺夷千餘名を率ゐて高黎貢山を越え、茨竹寨、派頓寨等に進撃したが、土把總たる友孝臣は軍隊をもつてこれに抵抗して戦死し、支那政府の抗議に對して、イギリスは光緒二十四年（西紀一八九八年）における二回の交渉文書に根據して、支那はすでに分水嶺を境界とすることを承認せるものであるが、イギリス兵はこれを越えたることなく、イギリス兵の占領したる各地は分水嶺以西であるとの旨を回答した。

その後光緒三十二年（西紀一九〇六年）の冬、イギリスは漸く以上の地域から軍隊を撤退したが、宣統二年（西紀一九〇一年）に、登梗土司が重税を徴するため、永昌府知府をして彼を拘禁せしめたるに、後釋放されるや、土民の頭目（土目）伍嘉源、徐祥麟等は清朝の處置に憤激し、イギリス領にある密支那府に走り、軍隊を派遣して土民を保護されんことを請願した。この時各土司は永昌府に對し大軍を片馬に派遣して、イギリス人の侵入を防衛すべきことを請願

したが、永昌府は何故か上司にその旨を傳達しなかつた。かくて翌年（西紀一九一一年）イギリス兵二千餘は、窃に密支那より班洪を越え、十二月三日には片馬に進駐し、途中到るところ堡壘及び兵營を築造し、高黎貢山以西はイギリス領である旨を聲明するにいたつた。

イギリスは高黎貢山の最高の險地に夫々砲臺を築造し、次で茶山の五寨もイギリスに占領されたが、更にイギリスは麗江へ侵入の手を伸べようとしてゐた。第一革命後、イギリスは着々、片馬より狭夷を経て西藏に通ずる道路を修築し、更に搬瓦、了口等の地に、勝手に境界標を立て、また他憂には兵營を築造した。

その頃、ヨーロッパ大戦が勃發し、イギリス兵はこの地域から撤退したが、ヨーロッパ大戦が終熄するやイギリスの侵略は更に激化し、高黎貢山より東方に向ひ薩爾温河（すなはち路江）へいたる流域一帯において、小維の西部に進出し、また支那と瀾滄江をもつて境界とするの野心を、實現せんとするにいたつた。

今回の班洪を繞る英支の葛藤は、かゝるイギリスの歴史的野心の具體的表現なのである。

第五節 動亂の直接原因と將來

雲南西南部に對するイギリスの侵略は、歴史的野心の表明であるとはいへ、今回の事件を惹起すにいたつた直接の動機は何にあるか？

班洪の回教徒馬某は、杜文秀が失敗した後、騰越、永昌等の地方から避難して來たその子孫であるが、この地方において、頗る勢力をもつてゐる。イギリスは馬某を籠絡し、彼はその所有する銀山をイギリス人に提供することになつた。それのみではない、イギリスは更にその地の統治者上胡蘆王に贈賄し、班洪の全域をイギリスの領土に編入せ

しめんとしたのである。しかるに上胡蘆王はこれに反對の態度に出でたから、イギリスは銀山を採掘すべく、これを掩護するために、自由行動を採るにいたつたのだ。

かくてイギリスの班洪侵入の直接の目的は班洪銀山の採掘にあるがときも、その遠大なる目的は他に存する。すなはちより一層雲南への侵略を擴大せんとするのである。今支那紙の報道によるに、班洪における境界未確定地に、イギリスは各所に、兵營を修築し、無線電信臺を架設し、飛行場を建築しつゝあるといへば、イギリスの野心が那邊に存するかは、問はずして自ら明かである。

獨占資本主義の段階において、列強の支那分割の再強化は當然であるが、その過程において弱小民族問題が等閑視されてはならない。

滿洲族、回教族、蒙古族、苗族等すでに大いなる問題を起してゐるが、イギリスの雲南侵略においても、民族問題は重要な契機をなしてゐる。前述のごとく雲南における種族は複雑であり、その相互間の反感を利用して、イギリスはその魔手を伸ばしつゝある。支那紙の報道によれば、イギリスは回教族、擺夷族等を利誘し、イギリス軍隊の背景の下に、彼等弱小民族をして相互に反噬せしめつゝ、侵略しつゝあるが、現に班洪の土目胡玉山はイギリスの侵入に反對して、部下を率ひ激戦しつゝあるが、班弄、戶板等の地方の土目はイギリス側に加擔し、情勢は益々激化しつゝあるといふ。また支那紙は

『騰越、龍陵、順寧、緬寧一帶の土司は、イギリスの援助の下に、いづれも新式の武器を備へ、漢民族と對抗の狀勢にある』

といつてゐる。それ故に、支那紙が

『吾々は國境問題の紛糾を解決すること、密接なる關係があり、しかも國民から忽視されてゐる一つの極めて重要な問題があるが、それは、雲南ビルマ邊境の少數民族問題である。……これは實に、雲南邊境において速かに邊境方針を立て、また雲南邊境を開發し、且つ將來根本的に雲南ビルマの國境を解決するために、極めて注意すべき點である。』

といつてゐるのは、至言であると信ずる。

班洪問題が起るや、雲南人は俄に色めき、雲南民衆外交後援會、昆明市商會、省市秘書處等は通電を發して、中央政府に速にイギリスと交渉するとともに、双方代表を派して國境を確定し、根本的に解決せんことを希望するとともに、全國民の憤起を喚起してゐるが、雲南旅京同鄉會も、三月十八日に緊急大會を開き

- 1、三十七名の代表をあげて中央政府に請願すること
- 2、イギリス公使に交渉し國境確定までは如何なる行動をも採るを得ないことを中央政府に請願すること
- 3、全權代表を派遣して雲南ビルマ間の國境を確定すべく中央政府に請願すること
- 4、切實に邊境を充實し、軍隊を派遣して班洪を保護すべく雲南省政府に電請すること

等八項を決議してゐる。かくて雲南省政府は、西部の部隊を國境に移動しつゝあるが、中央政府としては長鞭馬腹に及ばずの歎がある。

支那紙は支那邊境の危機に際して、

『雲南問題は決して一班洪に止らない。支那問題もまた一雲南に止らない。邊境を見渡せば、西藏、新疆、察哈爾、河北は、一つとして人をして安心せしめるものはない』

といひ、支那邊境の全面的危機を明言してゐる。これが對策として支那紙は、

『最短期間に各省邊境の事情に精通する専門家を養成し、それをして邊境を開發する政策を確立せしめ、各地方當局をして速に實行せしむべきである。しかし中央政府は邊境において重責に任ずる官吏を嚴格に監督しその成績を考察し、責任を回避せしめてはならない。吾邦外交官もまた常に邊境を重視して、その事情を明かにすべく、かくてこそ交渉の衝に當り、解決の責任を果すことができる。吾邦の爲政者が支那の實際の情勢を認識しないことは、常面における最大の病弊である』(一九三四、三、一六 天津「大公報」)

『根本的に雲南ビルマの國境紛糾問題を解決せんとするには、問題の中心たる少數民族問題に注意しなければならぬ。少數民族問題を解決するには、一定の原則の下に完美なる政策を確定すべきであり、僅に懐柔するだけの簡単な問題では決してない』(一九三四、三、一九、上海「中華日報」)

これらは、當面の支那國境の危機に對しての至言であるが、經濟的危機に直面しつゝも、抗爭を続けつゝある支那政府に、これが實現を期待することは至難なやうに思はれる。